

厚生労働省委託事業

令和6年度 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

事業報告書

一般社団法人 日本サイコオンコロジー学会

令和7(2025)年3月

事業報告書 目次

I. わが国のがん医療においてピア・サポートを広く推進するための提言	2
II. 事業総括（小川朝生）	4
III. ピア養成研修ワーキンググループ 報告（秋月伸哉）	10
IV. 短期サポートグループワーキンググループ 報告（平井 啓）	17
V. 都道府県への支援	47
VI. がん患者に対するピア・サポート体制に関する都道府県調査	77
VII. がん患者に対して提供できるピア・サポート体制の がん診療連携拠点病院等の現状調査	94
VIII. 資料集	112
IX. 委員会名簿	150

I. わが国のがん医療においてピア・サポートを 広く推進するための提言※¹

ピア・サポート※²に関する現状調査並びにモデル研修の実施、各都道府県との意見交換で得た知見をもとに、がん医療におけるピア・サポートを推進し、全てのがん患者が、いつでもどこに居ても、安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現するために、第4期がん対策推進基本計画、がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針をふまえて以下を提言する。

2023（令和5）年3月に閣議決定された、第4期がん対策推進基本計画に基づき、都道府県では、都道府県がん対策推進計画を策定している。各都道府県のがん対策の進捗管理にあたっては、PDCAサイクルの実行性確保のため、ロジックモデル等のツールを活用した検討が求められているところである。自治体とがん診療連携拠点病院がそれぞれの地域でのがん患者・家族の支援の実情を共有し、地域ごとのあり方を具体的に検討することが重要である。しかし、現状調査から、各都道府県のがん関連の協議会およびその部会において、議題にあがっていない自治体があることがうかがわれた。

【都道府県(自治体)に求められる活動】

各都道府県は、がん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院等）においてピア・サポートの活動を推進するために、研修プログラムに沿ってピア・サポーターを養成すると共に、その活動を継続するための教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制を併せて整備することが重要である。体制の実現に際しては、都道府県が中心となり、計画を立て遂行することが求められる。

- ・ ピア・サポーターの養成・活用計画を策定し実施するための協議体を設置する（新たな組織の設置または、都道府県がん診療連携協議会の相談支援部会や緩和ケア部会など既存の枠組みに役割を位置付けることでもよいと考える）。なお、ピア・サポーター等が参画することが望ましい。
- ・ 都道府県がん対策推進計画に基づき、ピア・サポーターの養成・活用を実施する。
- ・ 活動を進めるための予算を確保する。
- ・ 系統立てた活動を行うために、ピア・サポーターの養成や管理業務を担う組織を設定する。これらの業務を担う組織を明確にすることは重要である。組織を新たに設置する場合、健康対策推進事業の地域統括相談支援センターや、各都道府県が独自の基金等を利用した地域統括相談支援センターと類似の役割を持つ組織を設置し、ピア・サポート活動に関する拠点とすることも一つの運用方法である。
- ・ 都道府県内の拠点病院等と連携し、各拠点病院等や地域で開催されているピア・サポートや患者サロン※³に関する情報を収集し、ポータルサイト等を通じて発信するなど、がん患者家族が希望する支援にたどり着けるよう取り組む。
- ・ 都道府県内の患者サロン間の情報共有の機会を設けるとともに、拠点病院等との意見交換の機会を設ける。

【都道府県(自治体)と協議体で具体的に検討し実施すること】

がん診療連携拠点病院等は、ピア・サポート活動の意義を理解し、都道府県や他の拠点病院等と協力して計画を立て、ピア・サポーター活動の積極的な活用を行うことが求められる。

- ・ ピア・サポーターの養成活用を計画し運営する協議体をつくり、以下の具体的な計画を立てる。
 - (1) ピア・サポーターの活動の場の設置
 - (2) ピア・サポーター養成研修の企画・開催
 - (3) 拠点病院等での活用計画の策定
 - (4) 登録制度、派遣を含めた活用制度、定期的な更新制度の構築

(5)継続的な研修(フォローアップ研修等)の企画・開催

【都道府県がん診療連携拠点病院が実施すること】

都道府県がん診療連携拠点病院等は、ピア・サポート活動の意義を理解し、都道府県や他の拠点病院等と協力して計画を立て、ピア・サポーター活動の積極的な活用を行うことが求められる。

- ・ 地域がん診療連携協議会を牽引し、都道府県におけるピア・サポート活動における拠点病院等の役割を検討し、検討に基づき推進する。
- ・ 一定の研修を受けたピア・サポーターを活用する、もしくは十分な経験を持つ患者団体等と連携した患者サロン活動を各拠点病院等が展開できるように、各拠点病院等を支援する計画を立案し、実施する。
- ・ 都道府県内の患者サロンの開催状況や好事例について、情報を収集し、各拠点病院等の間で共有すると共に、課題解決ための対策を検討する。

【地域がん診療連携拠点病院等が実施すること】

地域がん診療連携拠点病院等は、ピア・サポート活動の意義を理解し、都道府県や他の拠点病院等と協力して計画を立て、ピア・サポーター活動の積極的な活用を行うことが求められる。

- ・ 都道府県がん診療連携協議会におけるピア・サポート活動の検討に主体的に参画する。
- ・ 施設管理者は、施設内においてピア・サポートや患者サロンを推進する部署担当者を明確に定める。相談支援センターの相談員に加え、病院内で患者支援や心理社会的支援を担っている緩和ケアチーム等との協力体制を整える。
- ・ 施設管理者は、担当者を「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」へ派遣し、質の担保を図る。
- ・ 施設管理者は、患者サロンを企画運営する組織を院内に作る。
- ・ 実務担当者は、患者サロン活動やピア・サポート活動の計画を立てる。
- ・ 実務担当者は、一定の研修を受けたピア・サポーターや、十分な経験を持つ患者団体等と連携し患者サロンの企画運営を行う。
- ・ 実務担当者は、ピア・サポーターのスキルアップ、燃え尽き防止などを目的とした、活動ごとの振り返りスーパーバイズの実施などの支援を行う。
- ・ 実務担当者は、院内での急ぎの対応が必要な場合に備え精神科や緩和ケアチーム等との連携をあらかじめ定める。
- ・ がん相談支援センター相談員は、相談対応の中で、必要に応じ、患者サロンやピア・サポート活動を紹介する。

※1 令和5年度事業報告書に掲載した提言を一部改変

※2 ピア・サポート：患者経験者やその家族がピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることで患者や家族等を支援すること。

※3 患者サロン：医療機関や地域の集会場などで開かれる、患者や家族などが、がんのことを気軽に語り合う交流の場のこと。

Ⅱ. 事業総括

改訂委員会 委員長 小川 朝生
国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍科 科長

A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基本的な心理社会的な支援の一形式である。

わが国のがん対策においては、2011-2013年度に、公益財団法人日本対がん協会が厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」を受託し、ピア・サポートに必要な基本的なスキルを身につけるための研修プログラムを策定し、説明会の開催やホームページ等による周知を進めた。

しかし、2016年に総務省が2015年度のピア・サポート研修の実施状況ならびに活動状況に関して17都道府県、51がん診療連携拠点病院を対象に調査をした結果、都道府県等においてピア・サポート研修が実施されていない状況や、拠点病院における相談支援や患者サロンへのピア・サポーターの受け入れが十分に進んでいない状況が確認された（平成28年9月総務省「がん対策に関する行政評価・監視結果報告書」）。

総務省によるがん対策の評価を受けて、がん対策推進基本計画（第3期）では、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが盛り込まれた。

続けて、第4期がん対策推進基本計画においては、ピア・サポーターのより一層の活用や、がん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院等）とピア・サポーターとの連携体制の構築が掲げられている。

本委託事業では、実施要綱に従い、

- (1) 医療・福祉関係者などの有識者やがん患者団体等の当事者による「研修プログラム改訂委員会」を設置し、前年度改訂したプログラムを使用した研修を実施する。また、地域ごとにニーズ把握・現状評価及び地域での取り組みの持続の可

能性等の検証を行うとともに、必要に応じてプログラム等の改善を行う

- (2) 委員会において検討された内容に基づく教材等を活用し、地域統括相談支援センターや患者サロンの開催等に協力するピア・サポーター等に対して研修等を実施する。また、都道府県がピア・サポーターの育成を目的とした研修を実施する際、都道府県に対する相談支援を実施する
- (3) 情報提供、研修の周知や参加申し込み、必要資料の提供等を行うホームページを運用することを検討した。

B. 体制と経過

「改訂委員会」を設置し、その下に「ピア養成研修ワーキンググループ」「短期サポートグループワーキンググループ」を組織し、課題整理を行ったのち、以下の4点を検討・実施した。

1. ピア・サポーター養成研修会の開催支援
2. 各都道府県におけるニーズの把握ならびにピア・サポートに関する取組の実態把握
3. がん診療連携拠点病院等に向けた患者サロンのなかでサポートグループを開催するための研修プログラムの実施
4. 情報提供等を行うホームページの運用

1. ピア・サポーター養成研修会の開催支援

本事業で改訂したピア・サポーター養成研修プログラムに基づく研修会を各都道府県で広げていくことを目標としている。通常形式の開催支援に加え、地域の実情にあわせ柔軟に開催するためにオンライン形式を取り入れた短縮版も提案し、動画等の資料を活用した養成研修会やフォローアップ研修会等を実施した。

- (1) 自治体がピア・サポーターの質の担保を目的に、フォローアップ研修会を開催するためのマニュアルを開発した。
- (2) ピア・サポーター養成スライドを改訂した。
- (3) 各地の実情に応じたピア・サポーター養成、ならびにフォローアップ研修の開催を支援した。
- (4) 全国の都道府県にピア・サポート養成に関わるニーズを調査し、要望のあった都道府県に対し、当WGからプログラムの提案、開催支援を行った。

都道府県でのピア・サポーター養成研修開催支援：15都道府県からの協力要請があり、プログラムの提供、開催支援を行った（p.12 表3）。

これまでに養成されたピア・サポーターへのフォローアップ研修開催支援に4県から協力要請があり、各地の実情に応じたプログラムの提供、開催支援を行った（p.15 表4）。

2. 各都道府県におけるニーズ把握ならびにピア・サポートに関する取り組みの実態把握

- (1) 各都道府県におけるニーズ把握・現状評価及び地域での取り組みの持続性の可能性等の検討

各地域で研修を実施しやすい仕組みの構築を目指し、ピア・サポーター等の研修について都道府県の取り組みに対する意見交換や講師の紹介、研修プログラム並びに研修テキスト等の提供を行った。2024年5月に厚生労働省より各都道府県担当部署に対して案内を送付した後に、希望した都道府県と個別に支援内容を調整した。

今年度は9県に対して都道府県担当者と改訂委員会委員等が、各県の取組みの現状ならびに課題に関しての意見交換を対面またはオンラインにて行った（p.8 表1）。また、行政と拠点病院等の医療従事者を対象としたピア・サポートに関する研修会の開催を1府に対して支援した。（p.8 表2）。

研修テキスト並びにDVDを、16都道府県、地域統括支援センター8箇所に対して送付した。

- (2) 各都道府県におけるピア・サポートに関するニーズ把握・各都道府県がん対策基本計画での検討状況の把握

各都道府県におけるピア・サポート研修や行政と医療機関の協力体制に関する現状を把握し、今後のピア・サポートの支援の拡充に活かすことを目的に、厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課の協力を得て、各都道府県の担当部署に、現状調査を実施し、46都道府県より回答を得た。今回は、第4期がん対策推進基本計画に基づく、各都道府県のがん対策推進計画の策定直後であることから、各都道府県でのがん対策推進計画でピア・サポートに関する目標設定やロジックモデルの検討状況、都道府県がん診療連携協議会等でのピア・サポートに関する検討状況の把握を目指した。

その結果、都道府県がん診療連携協議会等で定期的にピア・サポートに関する検討が行われているのは、27都道府県（57.4%）であった。またピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した37都道府県のうち、養成研修の内容を拠点病院等とこの1年間で検討する機会があったのは14都道府県（37.8%）であった。

がん診療連携拠点病院内の患者サロン同士の連携や情報共有が定期的に行われているのは25都道府県（53.2%）であった。

ピア・サポーター養成研修会が定期的開催されているのは31都道府県（66.0%）であった。

ピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した37都道府県のうち、養成したピア・サポーターを対象に登録制度を取っているのは28都道府県（75.7%）、ピア・サポーター活動の調整を行っているのは23都道府県（62.2%）であった。登録されたピア・サポーターのマネジメントを担う部署等が決まっているのは26都道府県（70.3%）であった。

フォローアップ研修を定期的開催しているのは、ピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した37都道府県のうち29都道府県（78.4%）、活動する都度振り返りを行っている体制を整備しているのは25都道府県（67.6%）であった。

ピア・サポートの養成・活用には、自治体と医療機関

との密な連携のもとに、目標の設定と事業の遂行が求められる。しかし、都道府県がん診療連携協議会のもとに、ピア・サポートの養成や継続研修、活用について定期的に検討する場をもつ都道府県は、全ての都道府県には行き渡っていなかった。今後、その必要性を明確にし、その地域のニーズに合った実施体制を組むことが重要である。あわせて、ピア・サポートの活動を推進するために、研修プログラムに沿った研修を実施すると共に、その後の継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制についても構築する必要がある。

3. 拠点病院等に向けた患者サロンのなかでサポートグループを開催するための研修プログラムの実施

(1) がんサポートグループ企画・運営者のための研修会の実施

本事業では、医療機関ごとに、それぞれのリソースを踏まえ、今後ピア・サポーターが安心して活動に携わることをできることを目的に、がんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」プログラムを開発してきた。

がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備するためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2回の研修会を開催し、より多数の研修修了者を増やすことを目標に活動した。

本年度は、2024年10月16日（金沢とオンライン）と2025年2月11日（東京とオンライン）の2回開催し、それぞれ90名のがん相談に携わる医療従事者を定員とした。事前登録者は、10月47名、2月64名であった。講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーショ

ンの6場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

2020年度から今年度までに合計9回開催し、583名が修了した。開催を重ねるにつれ、レベルⅠの参加者（p.18参照）が増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられる。

今後もサポートグループ等の活動を体験したことのない参加者の割合が多くなることから、ピア・サポートの実際の場面を示すことを意図した動画を作成し、プログラムに組み込むこととした。本動画は、「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏まえ、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割や情緒的サポートの基本的な姿勢を示すこととした。作成したファシリテーションの6場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。

全国の拠点病院等において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、継続して本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者の受講を促す必要がある。

さらに、継続受講を希望する参加者も多かったことから、実際にサポートグループを運営して生じる課題などについて話し合ったり情報交換したりできる場の設定も今後の課題である。

(2) 「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」修了生を対象としたフォローアップ研修会の実施

2020年度から2022年度に開催した「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」の修了者を対象に、フォローアップ研修会を実施した。2024年11月16日にオンライン開催し、36名が修了した。

プログラムは4時間で、ピア・サポート好事例紹介、事例検討、情報交換の3つのパートから構成した。事例検討では、サポートグループにおいて生じうる難しい場

面において、ファシリテーターとしてどのような対応するのかについてグループで話し合った。

4. 情報提供等を行うホームページの運用

情報提供や研修の周知を行うホームページを運用し、研修テキスト等の公開や、各種研修会、委員会や各ワーキンググループ活動の紹介を行った。

- ・ 「ピア・サポーター養成テキスト2020年度版」「がんサポートプログラム企画の手引き2020年度版」「ピア・サポーター養成研修会開催マニュアル」等の研修資料の公開
- ・ 平成30年度、令和元～5年度の事業報告書(PDF)の公開
- ・ 2024年10月16日、2025年2月11日開催「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」、2024年11月16日実施「がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会」の研修案内、申込ページの設置
- ・ 各会議、意見交換会、研修会等の活動紹介
- ・ 各種問い合わせへの対応

C. 考察

第4期がん対策推進基本計画に基づき、各都道府県に対するピア・サポート養成と担当者との意見交換、拠点病院等に対してはサポートグループを開催するための研修会を開催した。また実施要綱に沿って、ピア・サポートに関する各都道府県の実態や都道府県がん対策推進計画の検討状況の把握を行った。上記活動を通して、わが国のがん医療において、ピア・サポートを推進する上で以下の取り組みが求められる。

1. 都道府県がん診療連携協議会の積極的な関与の必要性

ピア・サポートは患者サロン等拠点病院内で活動することが想定されており、その養成と活用にあたり自治体と医療従事者が協働して進める必要がある。しかし、

- ① 都道府県のがん対策推進計画の中でピア・サポート

に関する目標が設定されている都道府県は第4期がん対策推進基本計画策定後に増加したものの全ての都道府県が記載するには至らなかったこと

- ② 都道府県の中で行政と医療従事者がピア・サポートに関して検討する場を持っている都道府県も増加しつつあるもまだ6割弱であった。

第4期がん対策推進基本計画においては、都道府県が設置するがん対策推進協議会の体制を強化し、拠点病院等の役割分担や連携体制の構築等を新たな要件として盛り込んでいる。ピア・サポーターを養成し活用するためには、自治体と拠点病院等が協働して進める必要があることから、がん診療連携が積極的に関与し、拠点病院等への役割の提示やピア・サポートに関する検討会の設置など推進することが重要である。

2. ピア・サポーターを護ることの重要性

拠点病院等の整備指針には、「体験等を語り合うための患者サロン等の場」の設置が義務づけられている。

「体験等を語り合うための患者サロン等の場」については、その検討の経緯まで踏まえないとセルフヘルプグループやサポートグループを想定していると解釈することが難しいため、本来の主旨が十分に周知されていない現状がある。がん診療連携拠点病院における心理社会的支援の整備の方向性を周知が求められる。

加えて、今後ピア・サポーターの活動の場が広がるにつれて、ピア・サポーターが相手を傷つけず、また自らの傷つきを防ぐためにも、精神心理的支援に関する基本的な知識を予め身につけておくことが重要になる。特に医療機関と連携してピア・サポート活動をする場合には、医療に関する問題には踏み込まないことや個人情報の扱い等についても確認する必要がある、事前の教育・研修は必須である。あわせて、医療従事者もその課題を認識し、活動計画の時点から想定した準備が求められる。その点で、石川県のように、拠点病院等が養成研修に推薦する条件として、自施設で体験者の心身をフォローすることを明記した取り組みは先駆的であり、示唆に富む。

Ⅱ. 事業総括

表 1 意見交換会の実施（研修実施に向けた打合せを含む）

	都道府県	開催日	開催場所	参加者
1	群馬県	令和 6 年 6 月 19 日	WEB	県出席者：1 名 委託事業出席者：1 名
2	東京都	7 月 3 日	WEB	都出席者：2 名 委託事業出席者：3 名
3	千葉県	7 月 4 日	WEB	県出席者：2 名 委託事業出席者：2 名
4	香川県	7 月 17 日	WEB	県出席者：2 名 委託事業出席者：1 名
5	大阪府	7 月 31 日	WEB	府出席者：2 名 委託先団体：3 名 委託事業出席者：2 名
6	福井県	7 月 14 日	WEB	県出席者：3 名 委託事業出席者：2 名
7	奈良県	8 月 7 日	WEB	県出席者：2 名 委託事業出席者：2 名
8	岡山県	8 月 9 日	WEB	県出席者：2 名 委託事業出席者：2 名
9	静岡県	8 月 19 日	WEB	県出席者：2 名 委託事業出席者：2 名

表 2 行政・医療従事者向け勉強会の実施

	都道府県	日時、開催場所	内容	参加者
1	大阪府	令和6年 9月20日 WEB	大阪府がんピア・サポート勉強会 1. 講演 （1）ピア・サポートについて （2）がん診療連携拠点病院でのピア・サポーター活動事例報告等 2. 大阪府事業説明（ピア・サポーター養成講座の案内、派遣事業のフロー等の説明） 3. 質疑応答	18 名

改訂委員会 会議記録

第1回委員会

日時：2024年8月20日（火） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 厚生労働省あいさつ
- (2) 事業方針の確認
- (3) 報告事項
 - (ア) ピア養成研修WG報告
 - (イ) 短期サポートグループWG報告
 - (ウ) 都道府県支援希望調査アンケート結果
 - (エ) がん診療連携拠点病院等アンケート結果
- (4) 検討事項
 - (ア) 都道府県への支援について

第2回委員会

日時：2024年12月24日（火） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 厚生労働省あいさつ
- (2) 事業方針の確認
- (3) 報告事項
 - (ア) ピア養成研修WG報告
 - (イ) 短期サポートグループWG報告
- (4) 検討事項
 - (ア) 都道府県への支援について
 - (イ) 令和6年度事業報告書について

第3回委員会

日時：2025年2月14日（金） 形式：オンライン開催

開催議事：

- (1) 厚生労働省あいさつ
- (2) 報告事項
 - (ア) ピア養成研修WG報告
 - (イ) 短期サポートグループWG報告
- (3) 検討事項
 - (ア) 令和6年度事業報告書について

Ⅲ. ピア養成研修ワーキンググループ 報告

ピア養成研修ワーキンググループ長 秋月 伸哉
がん感染症センター 東京都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック 部長

A. 目的

本WGの目的は、すべての都道府県で継続的に行え、実際の活動につなげることができるピア・サポーター養成プログラムを開発、実装することである。2018 年度にピア・サポーター研修プログラム、並びにピア・サポーター養成テキストを作成し、パイロット版の研修を実施、2019 年度はピア・サポーター養成テキストの改訂、ピア・サポーター養成研修会運営マニュアルを作成しプログラムに基づくピア・サポーター養成研修会を実施、2020 年度はコロナ流行の状況に合わせ対面研修の時間を短縮できるよう講義動画の作成、短縮版ピア・サポーター養成研修会を開発し、フォローアップ研修プログラムの提言を作成、2021 年はオンライン版ピア・サポーター養成研修会開催マニュアルを作成、またフォローアップ研修プログラムを作成した。2019 年度より各都道府県の要請に応じて研修会の開催を支援し実施している。

今年度は前年度の活動に引き続き、1. 都道府県でのピア・サポート活動支援、2. 都道府県でのピア・サポーター養成研修開催支援、3. 都道府県でのフォローアップ研修開催支援に加え、都道府県の第4期がん対策推進計画の実施に伴うピア・サポーター養成研修会の実施回数の増加に対応するため、4. ピア・サポーター養成研修協力メンバーの創設、5. フォローアップ研修開催マニュアルの開発、6. ピア・サポーター養成研修スライドの改訂を行った。

B. 経過

1. 都道府県でのピア・サポート活動支援

昨年度に続き、各都道府県からピア・サポート活動支援の要請がなかった。

2. 都道府県でのピア・サポーター養成研修開催支援

15都府県からの協力要請があり、プログラムの提供、開催支援を行った (p. 12 表 3)。

3. 都道府県でのフォローアップ研修開催支援

これまでに養成されたピア・サポーターへのフォローアップ研修開催支援に4県から協力要請があり、各地の実情に応じたプログラムの提供、開催支援を行った (p. 15 表 4)。

4. ピア・サポーター養成研修協力メンバーの創設

昨年度、各都道府県で策定された第4期がん対策推進基本計画にもとづき多くの都道府県でピア・サポーター養成研修が計画された。これまで当WGメンバーで研修支援を行っていたが、マンパワーの問題が生じたため日本サイコオンコロジー学会会員を対象にピア・サポーター養成研修開催支援協力メンバーを募集し18名を採用した (委員会名簿 ピア・サポート養成研修ワーキンググループ協力メンバーに表示)。将来的に各都道府県は独自に地元の講師で研修会開催できることを想定し、本事業からの講師派遣は一時的な事業であると考えため、特段の講師養成プログラム開発は行わず、各地で開催される研修の見学と実践、すでに開発された講義動画視聴を通じて講義、ファシリテートについて研修した。2024年6月11日・21日にスタートアップミーティングを実施、2025年2月4日に活動状況を踏まえた振り返りの情報交換を行った。

5. フォローアップ研修開催マニュアルの開発

すでにピア・サポーター養成研修を行っている都道府県において、ピア・サポーターの継続学習、相互交流を目的としてフォローアップ研修の要請が増加した。養成研修では重点的にとりあつていない患者サロン運営を中心としたプログラム案、開催マニュアルを開発した。

フォローアップ研修プログラム一覧

◆講義 (がん医療などについて)

- ◆ロールプレイ（模擬患者を用いた相談対応）
- ◆事例検討（事例を取り上げグループで議論）
- ◆「自分の体験を語る」（テーマを決めて行う）
- ◆ピア・サポーター、行政・医療従事者の意見交換
- ◆講義（ピア・サポーターのストレスマネジメント）
- ◆模擬サロン基礎（サロンの進行を学ぶ）
- ◆模擬サロン応用（難しい状況の対応を学ぶ）

6. ピア・サポーター養成研修スライドの改定

初版開発時から状況が変化している「がん診療の基礎知識と情報提供」を中心に、研修スライド全体の見直し、修正を行った。

C. 考察

各都道府県の要請により、昨年までに開発されたピア・サポーター養成テキスト、プログラム、オンライン版プログラム、フォローアップ研修プログラムに基づき研修会を実施した。

新型コロナウイルス感染症流行後、対面でのピア・サポートも再開されつつあるが、ピア・サポートプログラム開催支援の要請は昨年同様なかった。開催まで至れているピア・サポートについて支援ニーズは少ない可能性がある。

15都府県でピア・サポーター養成、4県でフォローアップ研修を行い、支障なく運営できた。がん治療環境の変化などから、一部スライド修正の必要性が認識され、スライド改訂作業に反映された。

昨年までと異なり、新型コロナウイルス感染症流行により停止していたピア・サポート活動が再開さ

れている施設が多かった。ピア・サポーター養成を継続し、病院でのピア・サポート活動が実践できている都道府県では、次のプログラムとしてフォローアップ研修のニーズがあった。

一方、ピア・サポーター養成を始めようとしている地域、始めたばかりの地域では、病院と行政で方針の共有ができていない、ピア・サポーターの運用方針が定まっていないなどの問題が認められた。各地の研修参加者との意見交換から、その背景として経験の浅い行政担当者が病院の状況やピア・サポーターについて理解していない、行政と病院でピア・サポートに関する方針を議論・共有する場がない、養成のみ行い行政としてピア・サポートの運用について計画していない、病院内で意思決定できるものが議論に参加していない、病院幹部がピア・サポートを自院で行う意義を理解していないなどが問題として考えられた。

ピア・サポーター養成研修協力メンバーとして、医師、心理士、看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師など多職種からなるメンバーが新たに参加した。今後、全国での研修会開催での協力が期待される。一方で、がん体験者としての養成研修協力メンバーは登録されなかった。一定の研修を受けている前提の医療者と異なり、がん体験者の研修協力者は、実際の講義、ファシリテート能力をみたくて採用する必要がある、今後各地で開催された研修会での実績を踏まえてメンバーを増やすことを検討している。

表3 ピア・サポーター養成研修会の支援 ※徳島県、長崎県は養成研修会とフォローアップ研修会を兼ねて実施

ピア・サポーター養成研修会						
都道府県	日時、開催場所	受講者・協力者	人数	備考	形式	
1 埼玉県	令和6年 7月23日・7月27日 埼玉会館	がん体験者 行政 医療従事者 委託事業から協力	22名 2名 4名 8名 合計 36名	研修運営 1日目3名、2日目1名（見学、病院での活動紹介） 2日間の合計人数。講師・ロールプレイのファシリテーターとして協力	対面2日間	
2 神奈川県	8月17日・8月18日 神奈川県民ホール	がん体験者 行政 医療従事者 委託事業から協力	31名 1名 23名 8名 合計 63名	研修運営 1日目18名、2日目5名 2日間の合計人数。講師・ロールプレイのファシリテーターとして協力	対面2日間	
3 大阪府 【第1回】	11月16日・11月17日 大阪国際がんセンター	がん体験者 医療従事者 行政 研修事務局 委託事業から協力	24名 4名 1名 2名 1名 合計 32名	講義・ファシリテーターとして協力 大阪府がん患者サポートセンター 11/16のみ講師として協力	対面2日間	
4 香川県	11月18日 香川県庁	がん体験者 医療従事者 行政 委託事業から協力	11名 6名 4名 3名 合計 24名	うち3名ファシリテーターとして協力 講師・ロールプレイのファシリテーターとして協力	事前の動画視聴＋ 対面1日間	
5 奈良県	12月5日・12月6日 橿原総合庁舎	がん体験者 医療従事者 行政 委託事業から協力	12名 6名 3名 2名 合計 23名	2日目のみロールプレイのファシリテーターとして協力 研修運営 講師・ロールプレイのファシリテーターとして協力	対面2日間	

	都道府県	日時、開催場所	受講者・協力者	人数	備考	形式
6 ※	徳島県	12月7日 徳島大学病院 日垂メデイカルホール	がん体験者 医療従事者 行政 委託事業から協力	16名 3名 3名 3名 25名	新規養成7名、フォローアップ9名 研修運営 講師・ロールプレイのファシリテーターとして協力	事前の動画視聴＋ 対面1日間
7 ※	長崎県	12月15日 長崎県庁	がん体験者 医療従事者 行政 委託事業から協力	15名 10名 5名 2名 32名	新規養成者7名、フォローアップ12名 見学・ロールプレイのファシリテーターとして協力 研修運営、交流会の進行 講師・ロールプレイのファシリテーターとして協力	事前の動画視聴＋ 対面1日間
8	東京都 【第1回】	12月21日・12月22日 都立駒込病院	がん体験者 医療従事者 行政 研修事務局(運営) 委託事業から協力	20名 3名 2名 3名 6名 34名	1日目 1名、2日目2名 (見学) 1日目 1名、2日目2名 (見学) 東京都がんピアサポーター養成研修事務局 2日間の延べ人数。講師・ロールプレイのファシリテーターとして協力	対面2日間
9	山口県	令和7年 1月11日 山口県健康づくりセンター	がん体験者 医療従事者 行政 委託事業から協力	19名 11名 1名 3名 34名		対面1日間
10	茨城県	1月14日 茨城県庁	がん体験者 委託事業から協力	12名 1名 13名		事前の動画視聴＋ 対面1日間

	都道府県	日時、開催場所	受講者・協力者	人数	備考	形式
11	東京都 【第2回】	2月1日・2月2日 me:rise 立川	がん体験者 医療従事者 行政 研修事務局(運営) 委託事業から協力	19名 5名 3名 6名 4名 合計 37名	見学・ロールプレイのファシリテーターとして協力 東京都がんピアサポーター養成研修事務局 2日間の延べ人数。講師・ロールプレイのファシリテーターとして協力	対面2日間
12	大阪府 【第2回】	2月15日・2月16日 SMGアクセア貸会議室	がん体験者 医療従事者 行政 研修事務局 委託事業から協力	18名 5名 1名 2名 1名 合計 27名	講義・ロールプレイのファシリテーターとして協力 大阪府がん患者サポートセンター 2/17のみ講師として協力	対面2日間
13	高知県	2月24日 高知県庁	がん体験者 医療従事者 行政 研修事務局 委託事業から協力	9名 4名 2名 3名 2名 合計 20名	がん相談センターこうち 講師・ロールプレイのファシリテーターとして協力	事前の動画視聴＋ 対面1日間
14	東京都 【第3回】	2月28日・3月1日 都立駒込病院	がん体験者 行政 医療従事者 研修事務局 委託事業から協力	18名 2名 8名 5名 4名 合計 37名	東京都がんピアサポーター養成研修事務局 講師・ロールプレイのファシリテーターとして協力	対面2日間
15	群馬県	3月10日・3月11日 群馬県庁	がん体験者 医療従事者 行政 委託事業から協力	19名 4名 2名 4名 合計 29名	(予定) (予定) (予定) 講師・ロールプレイのファシリテーターとして協力	対面2日間

表4 ピア・サポーターフォローアップ研修会の支援

フォローアップ研修会							
都道府県	日時・開催場所	受講者・協力者	人数	備考・役割等	形式	主なプログラム	
1 埼玉県 【第1回】	令和6年 11月26日 埼玉会館	がん体験者 医療従事者 行政 委託事業から協力	29名 4名 2名 2名 合計 37名	見学兼ファシリテーターとして協力 研修運営、交流会・意見交換会進行	対面1日	・ピア・サポーター基本知識振り返り ・ピア・サポーターのストレスマネジメント ・模擬サロン ・ピア・サポーター交流会、医療者間の意見交換会	
2 埼玉県 【第2回】	令和7年 1月21日 埼玉会館	がん体験者 医療従事者 行政 委託事業から協力	16名 4名 2名 3名 合計 25名	見学兼ファシリテーターとして協力 研修運営、交流会・意見交換会進行	対面1日	・ピア・サポーター基本知識振り返り ・ピア・サポーターのストレスマネジメント ・模擬サロン ・ピア・サポーター交流会、医療者間の意見交換会	
3 奈良県	1月29日 橿原総合庁舎	がん体験者 行政 委託事業から協力	9名 4名 2名 合計 15名		対面1日	・ピア・サポーター基本知識振り返り ・ピア・サポーターのストレスマネジメント ・自分の体験を語る ・模擬サロン	
4 栃木県	2月16日 マロニエプラザ	がん体験者 行政 委託事業から協力	8名 2名 2名 合計 12名		対面半日	・ピア・サポーター基本知識振り返り ・ピア・サポーターのストレスマネジメント ・模擬サロン	
5 香川県	3月12日 香川県庁	がん体験者 医療従事者 行政 委託事業から協力	14名 8名 2名 2名 合計 26名	(予定) (予定) (予定) (予定)	対面半日	・ピア・サポーター基本知識振り返り ・ピア・サポーターと医療従事者の意見交換会 ・模擬サロン	

ピア養成研修ワーキンググループ 会議記録

第1回WG会議

日時：2024年7月30日(火)

形式：オンライン開催

議事：

- (1) 本年度の事業方針について
- (2) ピア養成研修ワーキンググループ協力メンバーとの協力体制について

第2回WG会議

日時：2025年2月4日(火)

形式：オンライン開催

議事：

- (1) 講義スライドの改訂について
- (2) フォローアップ研修会開催マニュアルのアップデートについて
- (3) ピア養成研修ワーキンググループ協力メンバーとの意見交換

協力メンバーとのスタートアップミーティング

日時：2024年6月11日(火)・21日(金)

形式：オンライン開催

議事：

- (1) メンバーの自己紹介
- (2) 「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」の事業背景の紹介
- (3) 意見交換

IV. 短期サポートグループワーキンググループ 報告

短期サポートグループワーキンググループ長 平井 啓
大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授

A. 目的

がん患者を対象とした「サポートグループ」は、がん患者の情緒面や対処能力向上のための心理社会的支援の方法として世界の多くの医療施設において提供されている。日本でもがん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院等）の要件において、がん相談支援センターに必要な機能として、がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けることが求められている。ゆえに、実際、医療者が運営する構造化されたサポートグループ、あるいはピア・サポーターが中心となり運営されるピア・サポートプログラムなど、さまざまな取り組みが行われている。しかしすでに開催されている患者サロンやピア・サポーターによるサポートグループの運営上の課題解決や質向上を行うための体系的で簡便な資料がなく、これらの心理社会的支援の方法が十分に行われているとは言い難い。

そこで短期サポートグループワーキンググループは、これまで、さまざまな「サポートグループ」の運営に携わったメンバーにより、ピア・サポートを含む、さまざまな形や目的の「サポートグループ」に関して構造と機能の整理を行い、おもにがん診療を行う病院で勤務する、がん患者を対象としたサポートグループの企画・運営に携わる医療従事者を対象とした、「がんサポートプログラム企画の手引き」を作成し、さらにがんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」を開発し、2020年度から実施している。がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備するためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2回の研修会を開催し、さらに継続的な研修の機会を提供するためフォローアップ研修会を開催した。

B. 経過

本年度は、2024年10月16日（金沢とオンライン）と2025年2月11日（東京とオンライン）の2回開催し、それぞれ90名のがん相談に携わる医療従事者を定員とした。本研修プログラムのねらいは、①サポートグループ、ピア・サポートについて理解しており（必要性や意義、方法について）②サポートグループのファシリテーションに関する基本的な技術を習得し、企画・運営することができる人材の養成である。方法としては、参加者が事前課題として自施設のがんサポートグループについて評価し（事前評価アンケート）、研修会を受講する形をとった。その後、参加者の主観的变化をみるために事後評価アンケートを行った。

事前評価アンケートは、自身のプロフィール、自施設のがんサポートグループの構造や機能、自己の行動などの主観的評価をオンライン上の質問サイトにて尋ねた。アンケートの回答に基づき自施設のサポートグループ企画・運営の目標レベルを設定し（p. 20 表5）、該当する目標レベル内の課題の達成、次の目標レベルへのステップアップを研修会の目標とした。

講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。昨年度、ピア・サポートの実際の場面がわかるように新たに動画を作成し、それを講義の中で閲覧することとした。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーションの8場面の具体例を動画で供覧し、

参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

事後評価アンケートは、事前評価アンケート同様にオンライン上の質問サイトにて、サポートグループの理解度やファシリテーターとしての効力感などを「非常にそう思う」「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5件法で、その他研修会に関する意見等を尋ねた。

フォローアップ研修会については、2024年11月16日にオンラインで開催した。研修プログラムのねらいは、これまでの研修会の参加者の要望などを踏まえ、①ピア・サポーターを活用した好事例について学ぶ、②難しい場面でのファシリテーションの方法について事例検討により学ぶ、③各施設での具体的な取り組みについての状況共有とネットワーキングであった。プログラムは4時間で構成され、ピア・サポート好事例紹介、事例検討、情報交換の3つのパートから構成された。事例検討は、サポートグループにおいて生じうる難しい場面において、ファシリテーターとしてどのような対応するのかについてグループで話し合うものである。ピア・サポート場面の動画視聴も追加した。今回はさらに、埼玉医科大学国際医療センター相談支援センター職員2名ならびに埼玉県・神奈川県で活動するピア・サポーター8名に参加してもらい、それぞれの地域でのピア・サポーターの活動の事例紹介とグループディスカッションに参加してもらい、参加者から具体的な活動内容や方法に関する議論をもらった。

C. 結果

「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」の事前登録者は、10月47名、2月64名であった。このうち事前評価アンケートのデータについてクラスター分析(ward法)を行い、目標レベル分けを行ったところ、10月の研修会でレベル設定を行ったものは47名であった。このうち、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニーズへの対応が弱い」23

名（アンケート未提出者・欠損ありの12名を含む）、レベルⅡ：「多様なニーズへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」24名、レベルⅢ：「エキスパート」0名であった。

2月の研修会では、64名をレベル分けし、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニーズへの対応が弱い」40名（アンケート未提出者・欠損ありの15名を含む）、レベルⅡ：「多様なニーズへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」21名、レベルⅢ：「エキスパート」2名であった。例年より、がん相談、サポートグループ経験者が少ないが、研修後はすべての項目で平均値が有意に上昇した。特に「ファシリテーターの役割を理解」「ピア・サポーターとの協働の理解」「サポートグループ運営の自己効力感」は効果量が大きく、研修の目的が十分に達成された。さらにサポートグループの必要性和その効果、ピア・サポーターの重要性に関する知識、ピア・サポーターとの協働、サポートグループの課題改善の項目で効果量が大きく、研修の目的が十分に達成された。

またファシリテーションに関する評価の項目から、基本的なファシリテーションのスキルは実践を通して学習できたが、比較的高いスキルを求められる対応や、ピア・サポーターとの協働によるファシリテーションについて課題を感じているのは例年同様で、フォローアップ研修による継続的な学習を必要とする内容であった。

研修全体についての評価では、研修内容はわかりやすく、期待を満たすものであり、継続的な研修参加への強い要望もみられた。続くコロナ禍でオンライン研修に慣れた参加者が増加し、積極的に参加できているようであった。オンラインでもロールプレイ実践を通してスキルの習得ができ、また各施設の企画・運営の課題について話し合うことができたことを評価していた。

自由記述の回答を分類したところ、良かった点としては、ロールプレイの経験、他施設との情報共有・取り組みを知る、実践の振り返り・エンパワメント、講義内容・ファシリテーターの存在、研修の構成・雰囲気、開催形式であった。

一方で、改善点としては、研修時間がタイト、参加者同士の交流の機会、対面・オンラインでの参加による不具合、ロールプレイの長さなどであった。

フォローアップ研修会は、41名の事前登録があった。「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」終了後の各施設でのサポートグループの開催状況については、対面開催が83%、オンラインなど多面以外の方法での開催が6%、開催なしが11%であった。サポートグループへのピア・サポーターの参加は、参加ありの施設が76%であった。

フォローアップ研修後の自己評価では、サポートグループのレベルⅡからⅢのスキルについて十分に獲得されていた。講義内容、事例検討についても有用性ならびに満足ともに高い評価となっていた。特に「ピア・サポーターとの協働する方法について考えることができた」「ファシリテーションのスキルアップに役立つ内容だった」「研修は期待を満たす内容だった」では前年度より評価が高かった。一方「事例検討でグループ全体に起きていることやその対応を考えることができた」「行政や協議会等との連携を考えることができた」については昨年度に比べて評価が低くなっている。構成を変更したこ

とが影響した可能性がある。

D. 考察

「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」は2020年度から今年度までに合計9回開催し、583名が修了している。レベルⅠまたはレベルⅡの参加者が年々増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられる。全国の拠点病院等において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、さらに本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者を対象としていく必要がある。さらに、これまでは新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催になっている。そのためサポートグループのファシリテーションの一部についてロールプレイで体験してもらう研修となっているが、対面開催が可能となれば、さらに幅広いスキルの獲得のための研修が可能となると考えている。

さらに、継続受講を希望する参加者も多かったことから、実際にサポートグループを運営して生じる課題などについて話し合ったり情報交換したりできる場の設定としてのフォローアップ研修会の充実が今後の課題である。

表5 「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」の目標レベル設定

評価軸		評価項目/課題
目標レベルⅠ	ファシリテーション：安全な場の管理	グループの目的を明確に示し、参加者と共有している
		ファシリテーターがグループ全体の時間管理をしている
		ファシリテーターが、参加者全員が話をできるように発言を促したり、発言をとめたりしている
		ファシリテーターは参加者の様子（表情、健康状態）を十分に観察し、必要なフォローをしている
		ファシリテーターは参加者の体験や問題について他の患者の意見を聞いたり、話を発展させている
		グループの参加者が安心できる雰囲気づくりをしている
目標レベルⅡ	情緒的サポート	参加者は批判や評価されることなく自らの体験や気持ちを話すことができる
		参加者相互で傾聴したり/されたりすることができる
		ファシリテーターは参加者の体験や気持ちを傾聴できる
	相互作用を促すロールモデルの提供	グループの中の参加者で自らの体験を分かりやすく話すことができる人がいる
		グループの参加者は、他の参加者の話から新たな価値を知る体験ができる
		グループの参加者は、他の参加者の話から問題や課題への具体的な対処スキルを学ぶことができる
目標レベルⅢ	多様なニーズへの対応	参加者の選択肢が増えるよう複数のプログラムを運営している
		外部のリソースと連携し、必要に応じて参加者を紹介している
		グループ内に多様性が生じるように参加者を募集している（参加対象者を限定していない場合）
	ピア・サポーターの受け入れ体制	リピート参加者に運営の協力を得ている
		グループ活動においてピア・サポーターが組織の中に位置づけられている
		医療従事者とピア・サポーターが打ち合わせやリフレクションを一緒に行っている
		ピア・サポーターをフォローする体制がある
	院内の協力体制	複数か所の部署の医療従事者の協力または事務部門の協力がある
		医療従事者にサポートグループ（サロン）が周知され、必要な患者・家族に紹介されている
		サポートグループの運営を担うために十分なスタッフが配置されている
		メンタルヘルスの専門家（精神科医、心理士、リエゾン精神看護師など）から協力が得られる体制がある

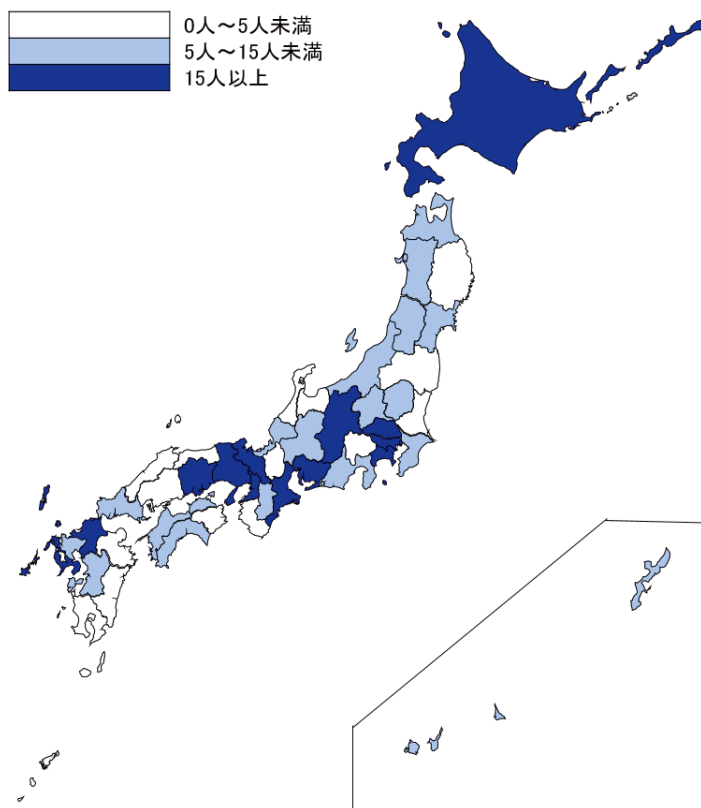
表6 「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」研修修了者の人数

		日程	形式	修了者
令和2年度	第1回	2021年2月11日	オンライン	87名
令和3年度	第2回	〃 11月3日	ハイブリッド(東京)	82名
	第3回	2022年2月11日	オンライン	75名
令和4年度	第4回	〃 11月3日	ハイブリッド(東京)	77名
	第5回	2024年2月11日	ハイブリッド(大阪)	53名
令和5年度	第6回	〃 11月3日	ハイブリッド(仙台)	60名
	第7回	2025年2月10日	ハイブリッド(福岡)	48名
令和6年度	第8回	〃 10月16日	ハイブリッド(金沢)	41名
	第9回	2025年2月11日	ハイブリッド(東京)	60名
			合計	583名

表7 「がんサポートグループ企画運営者のためのフォローアップ研修会」研修修了者の人数

		日程	形式	修了者
令和4年度	第1回	2022年11月23日	オンライン	32名
令和5年度	第2回	2024年11月23日	ハイブリッド(東京)	29名
令和6年度	第3回	2025年11月16日	オンライン	36名
			合計	97名

表8 「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」研修修了者の内訳
 <1. 都道府県別受講人数>

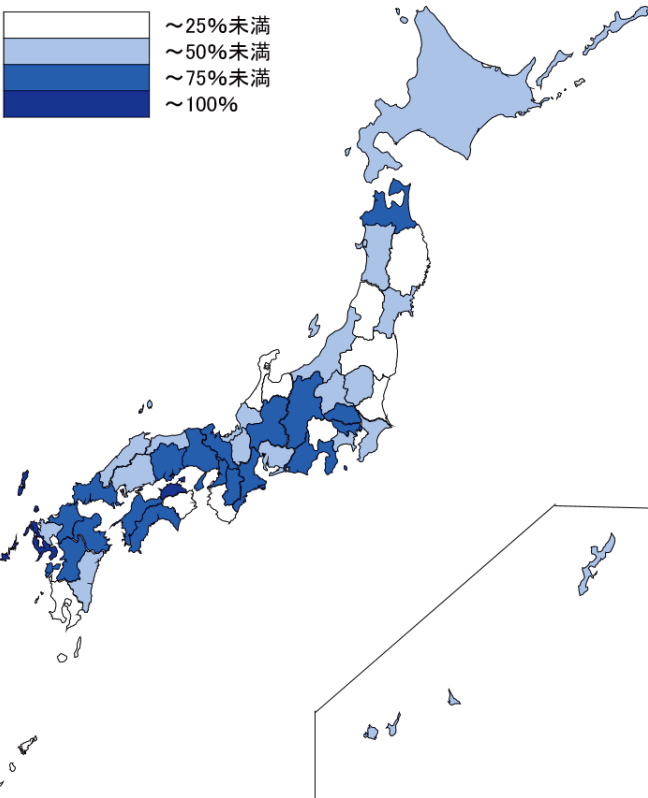


都道府県	受講者数
北海道	37
青森県	9
岩手県	0
宮城県	7
秋田県	6
山形県	11
福島県	4
茨城県	3
栃木県	5
群馬県	11
埼玉県	32
千葉県	12
東京都	56
神奈川県	23
新潟県	8
富山県	3

石川県	4
福井県	7
山梨県	0
長野県	15
岐阜県	13
静岡県	10
愛知県	22
三重県	15
滋賀県	4
京都府	19
大阪府	55
兵庫県	44
奈良県	6
和歌山県	4
鳥取県	4
島根県	3
岡山県	20

広島県	4
山口県	8
徳島県	2
香川県	10
愛媛県	10
高知県	7
福岡県	22
佐賀県	5
長崎県	16
熊本県	13
大分県	4
宮崎県	2
鹿児島県	3
沖縄県	5
全国	583

<2. 国指定がん診療連携拠点病院 受講率>



※本集計は、研修会修了時点での所属施設をもとに作成しています。修了者が現在も同じ施設に在籍しているとは限らないことをご了承ください。

都道府県	国指定拠点病院数	参加のあった拠点病院数（受講時）	拠点病院の参加率
北海道	22	10	45%
青森県	5	3	60%
岩手県	10	0	0%
宮城県	8	2	25%
秋田県	10	3	30%
山形県	6	1	17%
福島県	7	1	14%
茨城県	10	2	20%
栃木県	8	3	38%
群馬県	9	3	33%
埼玉県	14	8	57%
千葉県	16	5	31%
東京都	30	19	63%

神奈川県	22	10	45%
新潟県	9	4	44%
富山県	5	1	20%
石川県	5	1	20%
福井県	5	2	40%
山梨県	4	0	0%
長野県	12	7	58%
岐阜県	9	6	67%
静岡県	13	7	54%
愛知県	19	8	42%
三重県	5	3	60%
滋賀県	7	2	29%
京都府	13	8	62%
大阪府	19	12	63%
兵庫県	18	12	67%
奈良県	6	3	50%
和歌山県	6	1	17%
鳥取県	3	1	33%

島根県	5	2	40%
岡山県	10	5	50%
広島県	12	3	25%
山口県	8	4	50%
徳島県	5	1	20%
香川県	5	4	80%
愛媛県	8	4	50%
高知県	4	2	50%
福岡県	24	14	58%
佐賀県	4	1	25%
長崎県	6	5	83%
熊本県	7	4	57%
大分県	6	3	50%
宮崎県	3	1	33%
鹿児島県	13	1	8%
沖縄県	6	2	33%
全国	461	204	44%

表9 「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」プログラム

開始	終了	分	プログラム	形態
10 : 00	10 : 15	15	開会のあいさつ、オリエンテーション	
10 : 15	10 : 55	40	【講義編】 講義① がん患者に対する心理社会的支援の必要性	講義形式
10 : 55	11 : 00	5	休憩	
11 : 00	11 : 25	25	【講義編】 講義② がん患者に対する心理社会的支援の方法	講義形式
11 : 25	11 : 55	30	【講義編】 講義③ピア・サポーターとの協働	講義形式
11 : 55	12 : 00	5	(案内)午後のロールプレイについて	講義形式
12 : 00	12 : 55	55	〔昼休憩〕	
12 : 55	13 : 15	55	【実践編】ファシリテーションの基本(講義)	講義形式
13 : 15	13 : 40		【実践編】サポートグループの実際	講義形式
13 : 40	13 : 50		【実践編】ロールプレイの説明	講義形式
13 : 50	13 : 55	5	グループに分かれる	
13 : 55	14 : 10	15	【実践編】アイスブレイク	グループワーク
14 : 10	14 : 50	40	【実践編】ロールプレイ セッション①～③	グループワーク
14 : 50	15 : 30	40	【実践編】ロールプレイ セッション④～⑥	グループワーク
15 : 30	15 : 35	5	休憩&全体会場に戻る	
15 : 35	15 : 55	20	【実践編】難しい場面でのファシリテーション(解説)	講義形式
15 : 55	16 : 00	5	グループに分かれる	
16 : 00	16 : 30	30	【実践編】グループディスカッション&情報提供	グループワーク
16 : 30	17 : 00	30	質疑応答 アンケート告知/事務連絡/閉会あいさつ	講義形式

表10 「がんサポートグループ企画運営者のためのフォローアップ研修会」プログラム

開始	終了	(分)	ピア(全体会場)	形式
13:00	13:15	0:15	開会のあいさつ、オリエンテーション	講義形式
13:15	13:30	0:15	事例検討 課題(動画)の提示	講義形式
13:30	13:40	0:10	事例検討 アイスブレイク	グループワーク
13:40	14:00	0:20	事例検討 課題についてディスカッション	グループワーク
14:00	14:30	0:30	事例検討 動画を見ながらポイント解説	講義形式
14:30	14:40	0:10	休憩	
14:40	14:45	0:05	みんなどうしてる?ピア・サポーターとの協働: ピア・サポーターも交えた情報交換 オリエンテーション	講義形式
14:45	15:05	0:20	情報交換 話し合い前半	グループワーク
15:05	15:25	0:20	情報交換 ピア・サポート好事例紹介 事例1(埼玉)	講義形式
15:25	15:45	0:20	情報交換 ピア・サポート好事例紹介 事例2(神奈川)	講義形式
15:45	15:55	0:10	休憩	
15:55	16:25	0:30	情報交換 話し合い後半	グループワーク
16:25	16:45	0:20	情報交換 全体共有	講義形式
16:45	17:00	0:15	質疑応答、まとめ、閉会あいさつ	講義形式

受講者アンケート集計の結果

2024年10月19日(土)開催

-
1. 受講者の背景
 2. 事前評価：サポートグループの実態と自己評価
 3. サポートグループ運営に関する評価とそれに基づく研修目標レベルの設定
 4. 事後評価：自己評価
 5. 事後評価：研修の評価
 6. 事後評価：自由記載

事前評価アンケート

事前アンケート回答状況

2024年10月4日18時〆切時点
44/47名提出 94%回収（リマインド3回あり）

受講者の背景 (n=47)

1. 所属：(n=44)

所属	名
がん相談支援センター	18
地域連携・総合相談支援センター	13
診療科	2
看護部	2
病棟／外来	2
訪問看護ステーション	2
緩和ケアセンター	1
その他	4

2. 職種：

職種	名
看護師・保健師	
がん看護専門看護師	6
緩和ケア認定看護師（特定看護師含む）	3
がん化学療法看護認定看護師	1
小児看護専門看護師	1
MSW	16
心理職	6
医師	2
ピア・サポーター（医療の基礎資格なし）	3

3. がん相談支援センター配置状況

配置	名	配置	名
専従	16	担当でない	10
専任	8	その他	3
兼任	10		

受講者の経験 (n=44)

1. 臨床経験 17年
2. がん相談経験 5年
3. サポートグループのファシリテーター経験
あり 16名 なし 28名

2. 開催頻度

開催頻度	グループ	開催頻度	グループ
月2回以上	5	隔月	7
毎月	21	年1～4回	11

サポートグループの開催内容 (n=44)

1. 開催状況

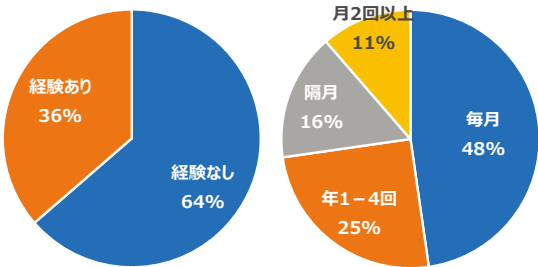
開催状況	施設	開催状況	施設
開催している	35	開催していない	8
コロナ以降中止していたが開催検討中			1

3. 年齢層や疾患・病期の限定

あり 5グループ なし 39グループ

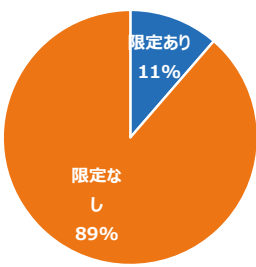
4. 他施設からの参加

可 37グループ 不可 7グループ

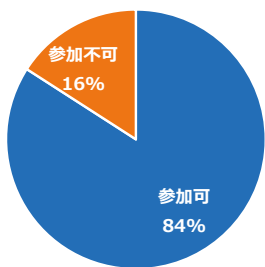


ファシリテーター経験

開催頻度



年齢・疾患・病期の限定



他施設からの参加

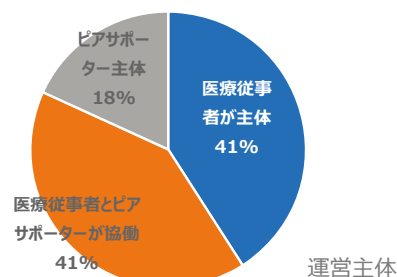
4. 1施設の開催プログラム数 (n=44)

1グループ 29名 2グループ 5名 3グループ以上 1名

※同施設者からの参加があるため、あくまでも人数でのカウント

5. 平均参加人数 10名

6. 運営主体と実施内容 (n=44) ※複数回答



運営主体と実施内容		グループ
医療従事者が主体で開催(企画・運営)している		18
患者交流会 (家族の参加も含む)	14	
講演会・セミナー(がん教室等)	13	
テーマを決めた体験共有やディスカッションを行う会	5	
医療従事者が主体でピア・サポーターと協働して開催(企画・運営している)		18
患者交流会 (家族の参加も含む)	17	
医療従事者によるセミナーとピア・サポーターによる体験共有を行う会	5	
テーマを決めた体験共有やディスカッションを行う会	4	
ピア・サポーターが主体で開催(企画・運営)している		8
患者交流会 (家族の参加も含む)	6	
患者会(患者会が主催で場所を提供している等)	1	
患者会と医療者と共同企画、運営	1	

5

地域から自施設に求められている役割 (42名記載あり以下抜粋)

- 全国的ながん医療の中核機関として総合的ながん医療を目指し、漢方サポートセンター、がんワクチンセンターを開設している。また、全国で初めてのがん専門病院に併設された重粒子線治療施設で治療開始している
- 救急医療・高度医療など急性期医療を提供している。「救急救命センター」として重篤な患者を24時間体制で受け入れ高度な診療機能をもつ3次救急を担っている。また、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援および情報提供を行う医療機関として、「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けている
- 診療・教育・地域の中核病院として充実した救急医療を提供すること、積極的に紹介患者さんを受け入れ、かかりつけ医と共に地域全体で医療を提供する体制をつくること、地域の方々が安心して医療を受けることができる体制を整え、よりよい医療環境をつくることを使命としている
- 研究を通じて社会に貢献すること。「臨床研究中核病院」「橋渡し研究支援機関」「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定されており、先進的な診療はもとより、次世代を担う新規医療の開拓に努める
- 知多半島医療圏北西部の二次救急としての役割をもちながら、地域に信頼してもらえるような質の高い医療を提供する。知多半島での唯一、緩和ケア病棟があるため、積極的な治療はされず、症状緩和を目的とした方やレスパイト目的での患者様を受け入れ、患者様や家族のQOLを大切にしながら地域に根付いた医療機関としての役割がある
- 千葉県東葛北部地域においてがん診療連携拠点病院の指定を受けていると同時に、松戸市が設置している3次救急医療機関であり、地域医療支援病院でもあります。また、総合病院という特色からがん診療のみではなく、多岐にわたる診療科を有していることから、横のつながりを持って、診療にあたることを求められています

※「がん専門病院」「がん診療連携拠点病院」という単語のみの記載もあれば、自施設の特殊性、それぞれの地域の役割をまとめた文として記載したものまで様々、上記は記載できている人のものを抜粋

6

自施設のがん診療の特徴（38名記載あり以下抜粋）

- 2018～2022年におけるがん登録の集計より、上位3位はいずれの年も大腸がん、乳がん、肺がんが占めています。男女比はそこまでありませんが、65歳以上の患者が7割を超えている状況です。また、松戸市の病院であることから、松戸市民の方が8割近くを占めており、約7割が他院、他クリニックから紹介を受けております
- 2020年と2021年の治療開始患者数を比較すると、乳癌1.6倍、前立腺癌1.8倍に増えている
- がん診療連携拠点病院。肺がん、大腸がん、乳がん患者が多い。患者年代層は70代が最も多い
- 乳癌が最も多く、前立腺、消化器、血液系など。高度な放射線治療、化学療法、また周辺地域では少ない血液腫瘍内科がある
- がん登録患者の年齢は70代が一番多く、次に80代、60代と続く。部位別では乳癌が最も多く、肺、結腸、胃、白血病及び造血器疾患と続いている。男性では肺がん、女性では乳癌の患者が最も多くなっており、特に乳癌の場合は40代の患者が最も多くなっている。登録患者の7割が治療を受けており、手術（手術のみ、手術+他の治療をする方も含む）が最も多く約4割の方が手術を受けている。平成29年には高精度放射線治療装置を導入、平成30年に化学療法室を14床から25床に増床。令和元年、手術精度向上と患者への負担軽減を図るため、内視鏡下手術支援ロボット（ダビンチ）を導入、令和3年に安全に病巣への放射線量を増やすことができ、高い効果を期待できる強度変調放射線治療（IMRT）を開始。令和4年2月にはがんやがん治療に伴う苦痛をやわらげる緩和ケアを専門的に提供する緩和ケアセンターを開設した

※診療科やサポート部門のみの記載、地域からの紹介割合のみの記載もあれば、自施設のがん登録をしっかりと分析した記載まで様々、上記は記載できている人のものを抜粋

7

自施設からサポートグループに期待されている役割の記載（39名記載以下抜粋）

- がんと診断され多くの悩みを持つがん患者が、サポートグループで同じ経験をしたがん治療経験者と話すことによって、少しでも不安を軽減して治療に向かっていくこと。また同じ治療経験者だからこそその思いの共有や生活上の工夫などを知り、1人ではないと思ってもらうことも大事な役割だと考える
- Badニュースを受けた方や治療中の方など孤立させないことを目的としている。また、がんを経験した方と話すことで精神的なサポートとなることを期待している
- 医療圏内で高齢化・過疎化が進む地域も多く、患者や家族の孤立を防ぐ役割が期待されている
- 同じ経験を持つ患者さんの話を聞くことで、気持ちが軽くなる、気持ちを分かち合う場づくり、AYA世代の患者同士の情報交換の場づくり
- 患者ファーストの観点から、安心して治療を受けられるだけでなく、患者に寄り添う施設であること
- 医療従事者の支援だけではなく、サポートグループによる支援も加わることで、より全人的な支援を行うことができる
- 近隣医療機関で患者会、患者サロンを行っているところが少なく、コロナ禍に関しては当院でも休止していたが、休止中にも開催を希望されている患者・家族からの要望は多かったと思います。昨年12月から再開しているが、このような機会が得られてよかったという声があり、期待されている役割は大きく、月1回程度の定期的な開催を予定しております

※「ピア・サポート」「分かち合い」「心的支援」のみの記載もあり、全体的に内容が少ない、上記は記載できている人のものを抜粋

8

事前評価をしてみたの感想①（35名記載あり以下抜粋）

- コロナ禍で休止状態にあった患者サロンを再開して半年になります。コロナ前はピア・サポーターのみが患者の話を聴く形でしたが、再開後は、グループ療法の経験を有する医師が加わり、ピア・サポーターと協働する形で行う体制を取っています。しかしながら、患者への周知が十分でないのか、参加者が少ないのが一番の課題です。構造化せずにオープンな形で続けていく予定ですが、ある程度の参加者を確保できるようになれば、ダイアログ、リフレクティングを取り入れた自助グループのような形に行きたいと考えています
- 自施設のことを改めて見直し、何を求められているのか考えることでサロンの立場を考える必要があると気がつきました。現時点では参加者が少なく固定しているため、なかなか交流や患者同士の共感といかたちをとることができていません。そのため対がん協会よりピア・サポーターを派遣頂き、サロン参加者と交流していただく機会を予定しています
- 参加者を振り返るとリピーターが多く、新規の参加者が少ないことが分かり、患者・家族への周知不足を感じた。患者に期待されるサロンの役割を考えた際に、実際患者がどのように思っているのか、役割を果たしているのか疑問が残った。自身がサロン運営に関して勉強不足であること、そのためファシリテーターなど運営にかかわる自信がないと感じていることを改めて認識した
- 自施設では現在2つの集まりがあり、ひとつはサロンでは、患者が主体となって行っているため、患者目線の運営がなされている。しかし、医療者が主体ではないため、その中でどのような情報やサポートが提供されているか不明だったり、院内周知不足などがあげられる。がん患者・家族交流会ではピア・サポーターとの協働と言っているが運営の中にピア・サポーターに入ってもらうことがなかなかできておらず、患者目線の運営やファシリテーター個々人の技量・テーマ内容によって交流会の進め方が異なることが大変な点だと分かった

9

事前評価をしてみたの感想②（40名記載あり以下抜粋）

- イベントなどもピア・サポーターと協同し定期開催をしているが、新規参加者の伸び悩み、院外患者の参加が少ないことを改善するための対策は必要と感じている
- 当院のピア・サポートグループは、体制が整いサポートグループとして成熟している時期と感じた。運営を担当している世話人（ピア・サポーターの代表会）が高齢化しており、新しいピア・サポーターの育成と、運営への関心を持っていただくことに課題を感じる
- がん相談室を兼任しており活動しているのですが、メインで活動している方もいるため積極的に行っているわけではありません。また、あまり意識して行っていなかったと思います。この研修を機に目的意識をもって企画や計画、実施できるようになりたいと考えています
- サロン活動は感染対策が緩和されたことで徐々に参加者の増加、新たなサロン開催など活性化されているがピア・サポーター養成研修の開催をこの度初めて実施するため、現在は毎回サロン参加者の自主性によって運営状況に偏りがあり、医療従事者の支援が必要となっている。また県内のサロンは消滅してしまったところが多く、県全体でみるとサポートグループが少なくなっている。今年度（R7年1月、3月）に第一回ピア・サポーター養成研修を開催する準備をすすめているため、ピア・サポーター養成研修運営者として学びたいと考えた
- 当院ではピア・サポーター養成研修を開催しているが、実際に研修を受けた方にピア・サポーターとしてがんサポートグループに参加してもらう体制づくりがまだできていない現状があるため、本研修でノウハウや他施設での取り組み状況を学びたい

※自施設のSGの背景を記載したことで課題に気づき、研修参加の意欲の高まりがみられる

10

自施設のサポートグループの目標レベル設定

2024年10月4日18時〆切時点
44/47名提出 94%回収（リマインド3回あり）

- 受講確定 53名→辞退者6名→最終受講者47名
- 事前課題アンケート未提出者 3名
- 現在開催していない施設 9名
- 以下、アンケート未提出、開催していない施設12名を除いた35名を解析
- アンケート未提出、開催していない施設12名はレベルⅠに振り分ける

目標レベル	Cluster	人数	特徴
Ⅰ：23名 ※未提出・開催していない施設12名含む	CLU2	11	全体のスコアがやや低い（平均をわずかに下回る）
Ⅱ：24名	CLU1	12	全体のスコアが平均と同等のレベル
	CLU3	1	
	CUL4	11	
Ⅲ：0名	CLU5	0	全体のスコアが平均よりも高い

平均よりもスコアがすべて高いクラスターがない。個人レベルでスコアが高い者もいるが、平均値は前回のレベルⅢよりも低い。よってレベルⅢがつけられない状況

事後評価アンケート

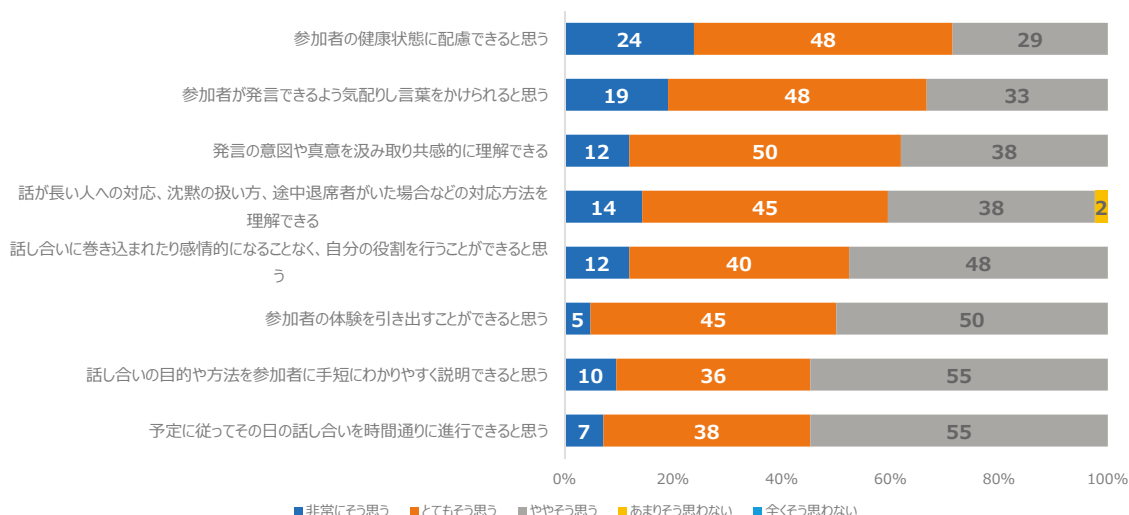
サポートグループ運営に関する知識と態度 研修前後の変化

n=40	研修前		研修後		t値 (df=39)	P	効果量
	平均値	標準 偏差	平均値	標準 偏差			
サポートグループの必要性を理解している	4.2	0.8	4.6	0.5	-3.3	.002	0.5
サポートグループの効果を理解している	3.9	0.9	4.6	0.5	-5.1	.000	0.9
ファシリテーターの役割を理解している	3.4	0.8	4.5	0.6	-7.9	.000	1.3
ピア・サポーターが参加することの重要性を理解している	4.0	0.9	4.6	0.5	-5.2	.000	0.8
サポートグループの運営に積極的に関わりたい	4.1	0.7	4.4	0.7	-2.9	.006	0.5
医療者とピア・サポーターが協働する方法について理解している	3.1	1.1	4.3	0.7	-7.1	.000	1.1
自施設でピア・サポーターと積極的に協働したいと思う	4.0	0.9	4.5	0.6	-3.4	.001	0.5
自施設のサポートグループの課題改善のために取り組みたい	4.1	0.8	4.5	0.6	-3.2	.003	0.6
自施設の他部門との連携のためにサポートグループ活動を発信したい	3.8	0.9	4.3	0.6	-3.0	.004	0.5
サポートグループを自信を持って運営できる	2.7	1.2	3.3	0.8	-4.2	.000	0.6

- この数年、受講者のがん相談、SG経験者が少ないため、研修後はすべての項目で平均値が有意に上昇した。また、サポートグループの効果、ファシリテーターの役割、ピア・サポーターの参加、医療者とピア・サポーターとの協働が理解できた、という項目で大きな効果量を得た
- SGを自信を持って運営できる、という項目が中程度の効果量であり、本研修のみでは自信につながらなかった。受講者の経験年数の少なさも影響した可能性があるかもしれない

13

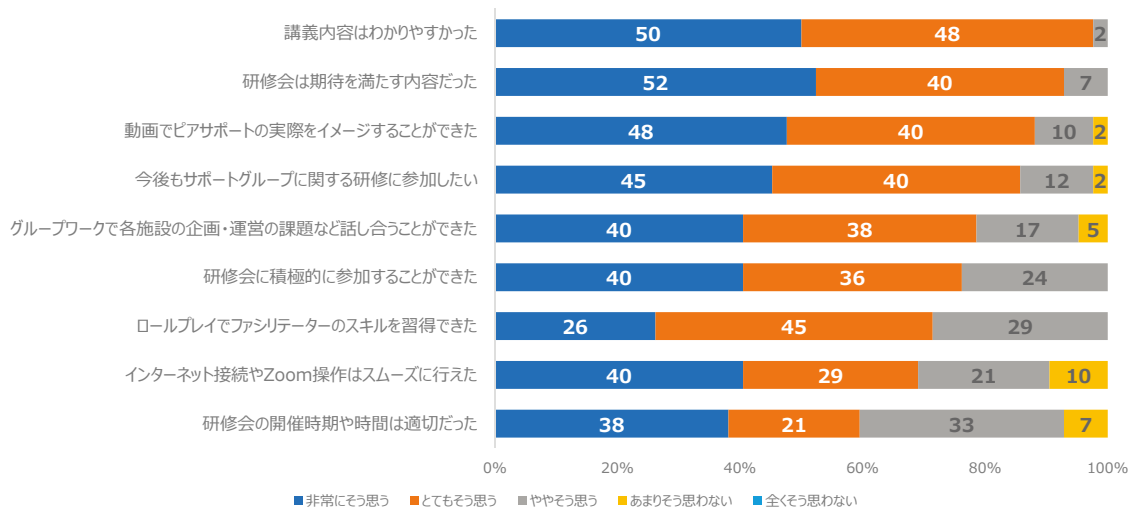
ファシリテーションの評価 (n=42)



- 基本的なファシリテーションのスキルは実践を通して学習できた
- 比較的高いスキルを求められる対応や、ピア・サポーターとの協働によるファシリテーションについて課題を感じているのは例年同様。フォローアップ研修による継続的な学習により補っていく必要がある

14

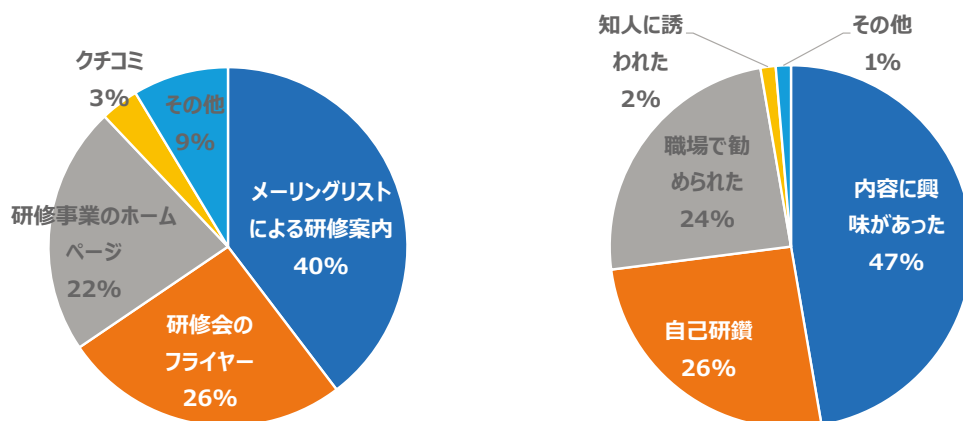
研修会全体に対する評価 (n=42)



- 研修内容はわかりやすく、期待を満了するものであり、8割を超える参加者から継続的な研修参加への強い要望がみられた
- 動画を用いて具体的な協働のイメージを構築することができる構成に評価が高い
- オンラインでもロールプレイ実践を通してスキルの習得ができ、また各施設の企画・運営の課題について話し合うことができたことを評価している

15

研修情報入手経路・参加動機 (複数回答)



- がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメールマガジンでの募集効果は高く、相談支援センターの職員が異動により入れ替わることを考えると継続が必要
- 一方で行政を交えた地域展開など発展的な取り組みも視野に入れる場合には、広報先を検討する必要がある
- 研修内容への興味や自己研鑽といった自発的な参加動機が約7割と多いのは例年同様
- 職場から勧められて参加する割合が増加しており、研修会自体の認知度の上昇が窺える

16

良かった点（１）（35名の記述より抜粋）

研修全体の構成（13件）

- ・ がんサロンやサポートグループについて、初めて系統的に講義を受ける貴重な機会となりました。知識と技術を習得でき、今後のグループの運営や企画に活用できると思う
- ・ 講義の流れがよく、今回の研修目的が明確で、取り組みやすいと思う
- ・ 動画やロールプレイで具体的にファシリテーターの役割を感じることができた。難しい場合の対応についても具体的な例が学べた

ロールプレイの体験（11件）

- ・ ロールプレイがあることで、具体的な心構えができたと感じた
- ・ 講義形式だけでなく、実際にやってみるロールプレイングはとても大切だと感じています。色々な役を経験できて良かった
- ・ 想像していた以上に、相互作用について深く学ぶことができた。ロールプレイでは未熟ながらファシリテーターを経験することができ、他の参加者の方から学ぶことも多かった

各施設の取り組みを学ぶ（7件）

- ・ 他施設の現状を知ることができ参考になりました。何に焦点をあてるか、について再考する機会になった
- ・ 運営に関して開催しなければいけないという使命感と不安がありましたが、企画から段階を経て地域の必要性を理解し、サロンを運営、開催できたらいいと研修を受けて少し不安が解消された

17

良かった点（２）（35名の記述より抜粋）

開催形式（7件）

- ・ 遠方に住む身としてオンライン開催がありがたかった
- ・ 無償で旅費もかけずに参加できた
- ・ 現地会場からの参加でした。講師の先生や参加者の皆さんとうなづきあったり、お話ができたりして改めて現地開催の良さを感じた

ファシリテーターの関わり（3件）

- ・ 笑顔で各参加者にポジティブなお声がけをしてくださったので、楽しい時間となりました
- ・ 1グループに2人のスタッフがいたことで、グループが止まることなく進み、2人の視点も異なっていたので、今後の参考になりました（現地）

ピア・サポートの必要性（4件）

- ・ どうしても医療従事者だけではできないことも、ピアサポーターと協同することによって、参加いただく患者、家族のニーズにあった患者サロンを運営することができると改めて実感した

その他（6件）

- ・ 自身はピアとして活動している。今回、運営側の視点で研修を受けることができ非常に有意義でした（今回は2名ピア・サポーターの参加あり）

- 研修の構成、特に動画視聴やロールプレイ体験により学習が深まっている

18

改善点（22名の記述より抜粋）

特になし（6件）

研修時間の長さ（7件）

- ・ 講義時間が長めなので、各自で事前学習などできると、研修会も半日くらいで終わられるのではないかと思います
- ・ 講義が急ぎ足で進んでいった印象で、昼休憩に「課題」が出るという点には疑問を感じた。休憩時間はリフレッシュさせてほしい
- ・ ロールプレイの時間が短かったように感じました

参加開催時期（1件）

- ・ もう少し年度の早い時期に受講したかった（今年度の患者サロンの計画を立てる上で、年度初めの方が他部署への協力要請しやすい）

音声の途切れ、映像の乱れ（8件）

- ・ 最初の動画が静止し、観ることができなかったり、動画の動きが悪かったことは残念でした。動画が観れているか確認があってもよかったかもしれません
- ・ 音声途切れたりなど、運営上致し方ない部分がありましたが、気になるほどではありませんでした

Zoom操作（3件）

- ・ 普段の操作でZoomの参加ができなかったため、困惑しました

運営の助言が欲しい（2件）

- ・ これから運営を考えている事業所向けの研修もしていただけるとありがたいと思いました

現地開催人数が少ない（2件）

その他（3件）

- 研修時間や開催時期は例年コメントあり。インターネット回線、Zoom登録方法については改善が必要である（音声・映像・Zoom入室）

19

研修会に関するご意見・ご感想（29名の記述より抜粋）

研修会への感謝（8件）

自施設の課題を考える機会（4件）

- ・ 昨年度から患者サロンを再開して、コロナで一旦行っていなかった時期から参加者も変わり、自分自身がメインで開催するようになって、どのように運営、話を回していったらいいか迷うことばかりだったので、とても勉強になりました
- ・ 石川、金沢で開催してくださりありがとうございます。ただ北陸地区からの参加者がおらず、がんサポートに対する地域差も感じました。今回、患者会運営を学ぶことで、これからの自分の目指す方向や役割が明確になりました

他施設との交流（3件） 他施設の取り組み等についても知ることができ、良い機会になりました

ロールプレイ体験（2件）

- ・ ファシリテーターをほとんどやったことがなく、難しいものだろうと勝手にハードルを感じていました。研修を受けることで、話を振るだけでなく相手の話を受け止めてから振ることが大切ということと、1対1の対話ではなく患者同士の話が増えるように勤めていくことが大切だと分かりました。また、同じがんじゃなくても不安な気持ちや家族や仕事先への伝え方など共通項を探し話してもらえるようにしていくこともピア・サポーター力量が必要だと学びました

ピア・サポーターとの協働（8件） ピア・サポーターを含めた多職種の思いが聴けて良かった

要望

- ・ 二日間くらいの開催でもっと実践トレーニングをできるとよいと思います
- ・ 「サポートグループ企画運営者のため」とあったので、新しいピア・サポーターの発掘方法や世話人会(中心となるピア・サポーター方)との関係の持ち方など運営に関することも内容に入れていただけたら嬉しいです
- ・ Zoomが主流になっていますが、現地での参加がひとグループだけではなく2,3グループあったらほかのグループの方法とが見ることができて、参考になったと思います

20

受講者アンケート集計の結果

2025年2月11日(火)開催

-
1. 受講者の背景
 2. 事前評価：サポートグループの実態と自己評価
 3. サポートグループ運営に関する評価とそれに基づく研修目標レベルの設定
 4. 事後評価：自己評価
 5. 事後評価：研修の評価
 6. 事後評価：自由記載

事前評価アンケート

事前アンケート回答状況

2025年1月27日18時〆切時点
63/64名提出 98%回収 (リマインド2回あり)

受講者の背景 (n=64)

1. 所属 : (n=47)

所属	名
がん相談支援センター	19
地域連携・総合相談支援センター	17
看護部	10
病棟／外来	7
診療科	2
地域統括がん相談支援センター	2
その他	7

2. 職種 :

職種	名
看護師・保健師	
緩和ケア認定看護師 (特定看護師含む)	8
がん看護専門看護師	6
がん化学療法看護認定看護師	4
がん性疼痛看護認定看護師	2
MSW	16
心理職	6
医師	1

3. がん相談支援センター配置状況

配置	名	配置	名
専従	16	担当でない	15
専任	11	その他	6
兼任	16		

3

受講者の経験 (n=64)

1. 臨床経験 21年
2. がん相談経験 7年
3. サポートグループのファシリテーター経験
あり 24名 なし 40名

サポートグループの開催内容

1. 開催状況 (n=64)

開催状況	施設	開催状況	施設
開催している	50	開催していない	10
コロナ以降中止していたが開催検討中			4

2. 開催頻度 (n=67)

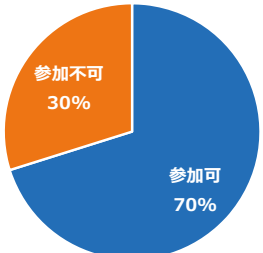
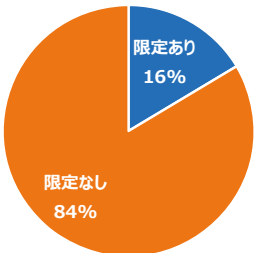
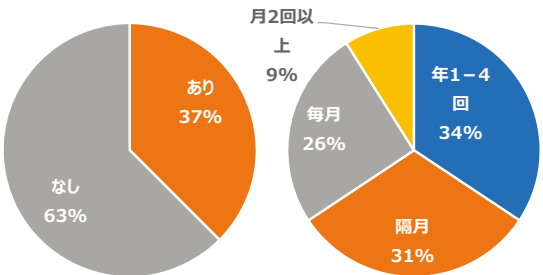
開催頻度	グループ	開催頻度	グループ
月2回以上	6	隔月	21
毎月	17	年1～4回	23

3. 年齢層や疾患・病期の限定 (n=67)

あり 11グループ なし 56グループ

4. 他施設からの参加 (n=67)

可 47グループ 不可 20グループ



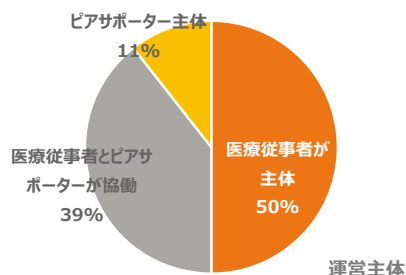
4

4. 1施設の開催プログラム数 (n=64)

1グループ 36名 2グループ 9名 3グループ以上 3名

※同施設者からの参加があるため、あくまでも人数でのカウント

5. 平均参加人数 8名



6. 運営主体と実施内容 (n=66) ※運営主体：不明1施設 実施内容：複数回答

運営主体と実施内容		グループ
医療従事者が主体で開催(企画・運営)している		33
患者交流会（家族の参加も含む）	21	
講演会・セミナー(がん教室等)	20	
テーマを決めた体験共有やディスカッションを行う会	8	
医療従事者が主体でピア・サポーターと協働して開催(企画・運営している)		26
患者交流会（家族の参加も含む）	22	
医療従事者によるセミナーとピア・サポーターによる体験共有を行う会	10	
テーマを決めた体験共有やディスカッションを行う会	5	
ピア・サポーターが主体で開催(企画・運営)している		7
患者交流会（家族の参加も含む）	5	
患者会(患者会が主催で場所を提供している等)	3	
がんサロン	1	

5

地域から自施設に求められている役割（63名記載あり以下抜粋）

- 都道府県がん診療連携拠点病院、小児がん連携病院として、がん患者が安心して療養できる環境の提供。そして、高度先進医療を提供する「特定機能病院」として、急性期や高度な医療を担い、県の基幹病院として地域の医療機関と連携し、地域住民の生活に寄り添うこと
- がん診療連携拠点病院として、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者・住民への相談支援や情報提供が求められている
- 地域の中核病院として予防から治療、地域と協同で行う在宅療養支援
- がんサロンなどを通して、ピア・サポーターと患者、家族との交流が図れる安心できる場所の共有。当院の医療従事者がその場にも関わること、専門的なサポートが必要になった際にサポートができる場所や人へつなげる役割を担っている
- 地域における中核病院として、またがん拠点病院として診療にこられる患者さんが安心して治療の選択ができ、治療が受けられるように医療チームが連携し診療にあたること。また地域の中でも同様に安心して生活できるように地域機関と連携を図ること
- 病院外の施設のため、病院では相談しにくいことでも気軽に相談できる施設という役割が求められていると考える

※「総合病院」「基幹病院」「がん診療連携拠点病院」という単語のみの記載もあれば、自施設の特長性、それぞれの地域の役割をまとめた文として記載したものまで様々、上記は記載できている人のものを抜粋

6

自施設のがん診療の特徴（61名記載あり以下抜粋）

- 最新鋭の画像診断装置による診断、手術、がん薬物療法、放射線治療など集学的な治療が当院内で可能である。また、2022年より温熱療法、高気圧酸素療法も可能となり、よりがん治療として当院実施可能な治療が増えた
- 群馬県がん診療連携推進病院 消化器肛門疾患センターがあり年間600件以上の手術と1200件以上の化学療法を行っている。婦人科系がん手術は以前よりは少なくなっているが20件弱実施している
- 男性は、大腸、肺、胃の順に多く、女性は、乳房、大腸、肺の順に多いです。2023年4月よりゲノム医療センターを設置し、がん細胞から遺伝子変異を調べる検査や遺伝カウンセリングにも対応しています。岡山市では、当院の所在している北区を始め、中区の登録件数が多く、近隣地域からも運ばれてきます。また、がん相談支援センターを設置し、サポート体制を整えています
- ①14部門からなるがんセンターが設置されており、関連部署と協働し、がん診療を診療科横断的に行っている。また、「がん患者さんのみならず」がん医療に関わるすべての方々に「がん情報」をスローガンとして、医療者や地域に向け、がんに関する研修会の開催やセミナーの配信など、がん情報の提供を行っている②2023年度のがん登録件数の上位は、肺がん・胃がん・前立腺がんとなっており、大学病院の特性から、小児がんや希少がんの治療も担っている
- 都道府県がん診療連携拠点病院として高度ながん診療を提供。がんゲノム医療拠点病院として、遺伝子パネル検査の実施。ロボット支援下手術による精密な外科治療を提供。IMRT（強度変調放射線治療）を使った最先端の放射線治療。県内唯一の温熱療法（ハイパーサーミア）実施。さまざまな治療法や治療機器を積極的に導入 緩和ケアに関しては外来及び2病棟で53床ある緩和ケア病棟を有しており、自宅療養の支援を含めた体制を整えています

※診療科やサポート部門のみの記載、地域からの紹介割合のみの記載もあれば、自施設のがん登録をしっかりと分析した記載まで様々、上記は記載できている人のものを抜粋

7

自施設からサポートグループに期待されている役割の記載（61名記載以下抜粋）

- がん患者サロンは開催しているものの、医療者との交流のみに留まっており、参加者同士の語らいの場やピア・サポーターと交流でき、よりがん患者が安心して生活が送れるようサポートできる場となること
- 治療と生活、治療と仕事を両立していく上で、がん患者さんやその家族はさまざまな悩みや不安を抱えている。専門職の支援では解決に向かうことが難しい悩みや不安を軽減するためには、体験談やインフォーマルな情報などを伝えることができるサポートグループとしての支援が必須であると考え
- がんとともに生活をされている患者や家族にとって、心理的、社会的サポートが必要とされているが、ピア・サポートにより、患者や家族の抱える不安を和らげる効果が期待されている。医療者が提供できない、経験者にしかわからない不安や悩みやその対処法や、医療者に伝えにくい不安や悩みをグループ内で共有しながら治療や療養生活に向き合う力になると考える。さらに、サポートグループと当院が協働することにより、患者や家族と当院の医療スタッフとの架け橋になる役割を持っていると考える
- ピア・サポートの活動支援：がん患者にとって同じような経験を持つ人との体験共有ができる「場」の提供、患者が希望した時に、同じような経験を持つ人と交流ができる連携体制の構築、がん患者サロン・カフェの計画立案と運営、院内外への広報活動、ピア・サポーターの活動の「場」の提供、ピア・サポーター養成研修への参、ピア・サポーターの質の維持と向上
- 当院では患者会・ピア・サポートを実施しています。同じ経験をされた患者同士で、情報の共有や、医療者には表出できない思いの表出ができたと思っています。がんに罹患すると患者のみに焦点が当たってしまうことが多いですが、患者家族にもご参加いただき、同じ経験をされている方とお話ができたり、支える側の方の支援ができたなら良いと考えています

※「心理社会的支援」「ピア・サポート」「遺族フォロー」のみの記載もあり、上記は記載できている人のものを抜粋

8

事前評価をしてみたの感想①（58名記載あり以下抜粋）

- 患者・家族の語り場」としてフリーディスカッションの場を2月から開始する予定です。今回の研修を受けて、ファシリテーターのスキルを学び、企画、運営に役立てたいと思っています。また、ピア・サポーターの参画についても学び、ピア・サポーター参画型のプログラムが企画・運営できるようしていきたいです
- 新型コロナ対策で中止していたピア・サポート相談の対面式相談会のみ令和6年7月より再開した。週1回開催で、2名のピア・サポーターが担当制で開催し、令和7年1月から週2回開催にできた。今年度中にサロン形式の開催を企画している。次年度から、サロン形式を2～4回/年開催したいと考えている。また、対面式相談会も継続する計画である。ピア・サポーターへの支援体制とサロン形式開催は、医療者とピア・サポーターが協同して行う企画・運営が課題だと考えている
- 当院のがんサロンの歴史は14年以上でがん看護専門看護師と心理士が主体で開始。コロナ禍の間、中断されていたが、2024年1月から再開、心理士と社会福祉士が担当、心理士がメインファシリテートしながら運営している。参加者は10名前後で、毎月参加している方でピア・サポーター養成講座の受講済みの方が、初めて参加される方や悩んでいる方に対してピア・サポートをしてくれているが、ピア・サポーターとしてアナウンスをしていないのが現状。当院の課題としてはピア・サポーターとして参加してもらい、サポーターと医療従事者が協働して運営していくことだと考えている
- 今年度（2024年度）から本格的に患者サロンでピア・サポート活動を開始している。院内登録のピア・サポーター（がん種は様々）を確保し、2024年度は3回/（5回予定）開催した。ミニレクチャーと合わせて開催する形や、語り合う会などの形など、やり方を試行錯誤している段階である。
- 課題としては患者・家族への周知（HPの修正等）、医療者への周知、ピア・サポーターの育成（フォローアップ研修の開催）、次年度以降の運営方法などがある。男性患者さんの参加が少ないことも課題である

9

事前評価をしてみたの感想②（58名記載あり以下抜粋）

- 2024年6月より、患者サロンの企画運営に関わっています。自施設では特に事例検討会など振り返りがされておらず、もし、定期的な事例検討会や勉強会などがありましたら（もしくはそのような場を作っていただけたら）大変ありがたいです。他施設がどのように工夫・改善されているのか、ぜひ勉強させていただき、自施設でも取り入れさせていただきたい
- 会の進行や語り合いはとてもよくできており、参加者の満足感も高い会ではあるが、新たな価値を見出すために意図的な投げかけなどが適切にできていないと感じる。また、参加目的が参加者によってさまざまであり、それぞれの気持ちを本当に引き出しているのか、本当に満足できているのかと思うこともあった。また、本年からピア・サポーターが会の進行をする機会をもつこととしているため、どのように運営していくのがよいのか検討したい
- 自施設のニーズに関して、立ち上げの際には明確にニーズを検討しながら立ち上げたが、年数が経って再度共有が必要。また、ファシリテーションの技術は自信がない中でも何とかこなしているが、ピア・サポーターの組織内での位置付けやフォローアップ体制整備が課題である
- 入職したばかりでまだサロンに一度しか入っていないが、まずマンパワーの問題で開催頻度が少ない。もっと他の部署であったり、スタッフの協力体制を整えたり、誰でも対応できるようにマニュアルの整備が必要。私自身は心理士で今は参加するだけですが、今後は運営もしたいと思っています。そのためにファシリテーターの役割など学びたいと思い参加しました。よろしくお願いします

※コロナ禍後、具体的な患者サロン開催やピア・サポートの導入の取り組みと課題が多く記載され、研修参加により解決策を見出したいと考えている

10

自施設のサポートグループの目標レベル設定

- 受講確定 64名
- 現在開催していないまたは再開を検討中14名
- 上記14名と未回答 1 名を除外した49名を解析
- 除外した15名はレベル I に振り分ける

目標レベル	Cluster	人数	特徴
I : 40名 ※未回答・開催していない施設15名含む	CLU1 CLU2	14 11	全体のスコアがやや低い、平均をわずかに下回る
II : 21名	CUL4	21	全体のスコアが平均と同等、わずかに上回る
III : 3名	CLU5	0	全体のスコアが平均よりも高い

未開催のグループと開催しているが、全体のスコアが平均よりもやや低いレベル I が最も多い。基礎的な知識の提供、グループワークが活発に行えるようなサポートが必要である。

事後評価アンケート

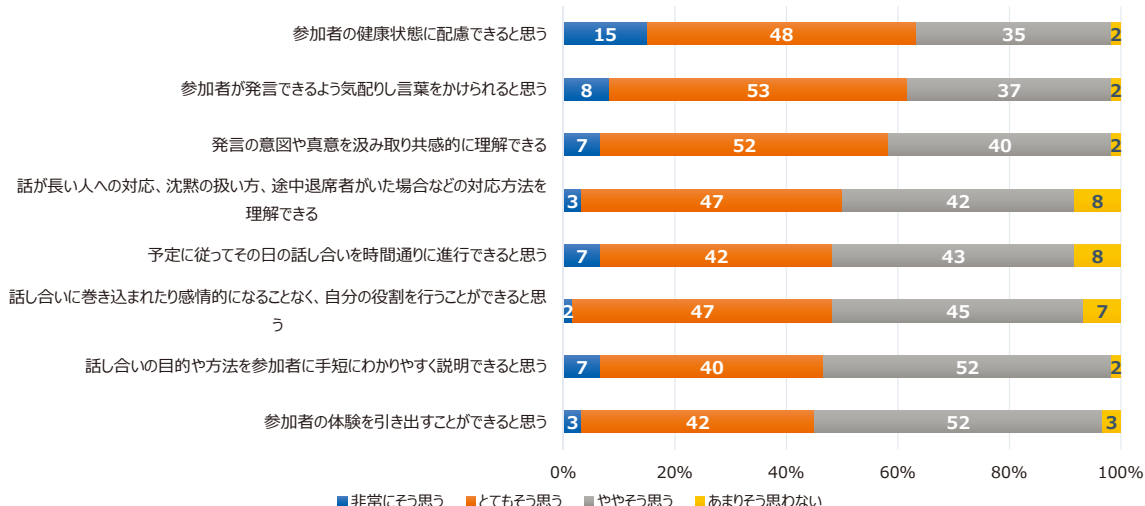
サポートグループ運営に関する知識と態度 研修前後の変化

n=60	研修前		研修後		t値 (df=59)	P	効果量
	平均値	標準 偏差	平均値	標準 偏差			
サポートグループの必要性を理解している	4.0	0.7	4.6	0.6	-5.7	0.000	0.8
サポートグループの効果を理解している	3.8	0.8	4.5	0.6	-7.1	0.000	1.0
ファシリテーターの役割を理解している	3.3	0.7	4.5	0.6	-10.2	0.000	1.5
ピア・サポーターが参加することの重要性を理解している	4.0	0.7	4.6	0.6	-6.5	0.000	0.8
サポートグループの運営に積極的に関わりたい	4.0	0.7	4.2	0.7	-1.8	0.070	0.3
医療者とピア・サポーターが協働する方法について理解している	3.0	0.8	4.1	0.8	-8.8	0.000	1.3
自施設でピア・サポーターと積極的に協働したいと思う	4.0	0.8	4.2	0.7	-1.6	0.109	0.2
自施設のサポートグループの課題改善のために取り組みたい	4.1	0.8	4.2	0.7	-1.4	0.163	0.2
自施設の他部門との連携のためにサポートグループ活動を発信したい	3.9	0.9	4.2	0.8	-2.7	0.008	0.4
サポートグループを自信を持って運営できる	2.4	0.9	3.2	0.8	-6.2	0.000	0.9

- この数年、受講者のがん相談、SG経験者が少ないため、サポートグループの効果、ファシリテーターの役割、ピア・サポーターの参加、医療者とピア・サポーターとの協働が理解できた、という項目で大きな効果量を得た
- 積極性、課題改善の取り組みの意欲に関する項目では、有意差はみられなかったが、研修前の平均値が高いため、研修後もそれらの意欲に変化がみられなかった可能性がある

13

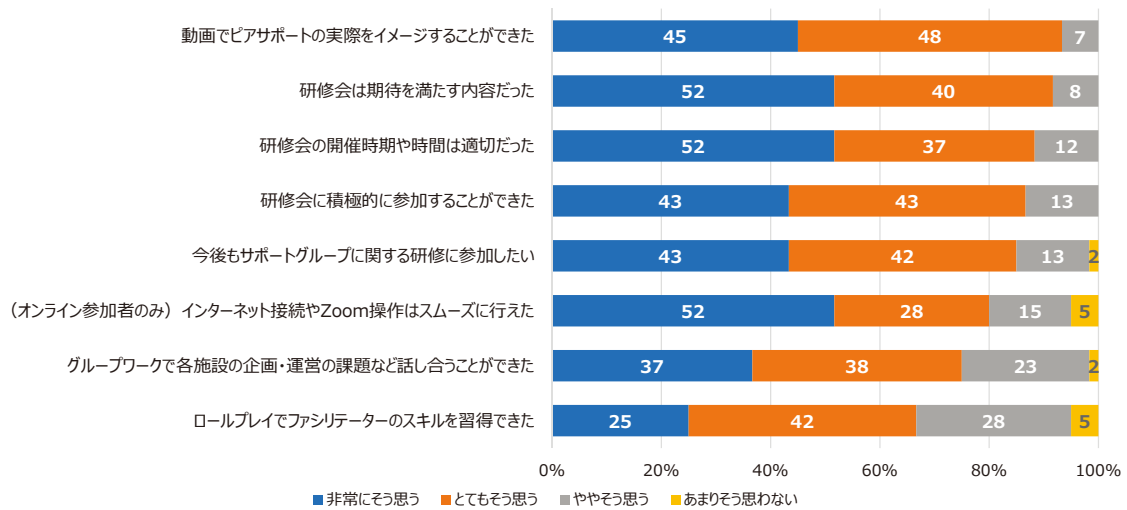
ファシリテーションの評価 (n=60)



- 基本的なファシリテーションのスキルは実践を通して学習できた
- 比較的高いスキルを求められる対応や、ピア・サポーターとの協働によるファシリテーションについて課題を感じているのは例年同様。フォローアップ研修による継続的な学習により補っていく必要がある

14

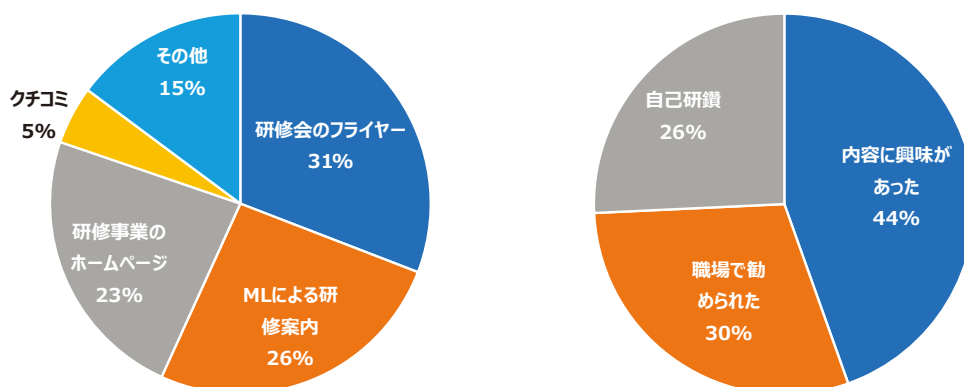
研修会全体に対する評価 (n=60)



- 動画を用いて具体的な協働のイメージを構築することができる構成に評価が高い
- 研修内容はわかりやすく、期待を満すものであり、8割を超える参加者から継続的な研修参加への強い要望がみられた
- オンラインでもロールプレイ実践を通してスキルの習得ができ、また各施設の企画・運営の課題について話し合うことができたことを評価している

15

研修情報入手経路・参加動機 (複数回答)



- がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリストでの募集効果は低下したが、相談支援センターの職員が異動により入れ替わることを考えると継続は必要
- 行政を交えた地域展開など発展的な取り組みも視野に入れる場合には、各都道府県の相談情報部会単位での開催など新しい開催方法のための広報を検討する時期にある
- 研修内容への興味や自己研鑽といった自発的な参加動機が約7割と多いのは例年同様
- 職場から勧められて参加する割合が増加しており、研修会の認知度の定着が窺える

16

良かった点（1）（51名の記述より抜粋）

ロールプレイの体験・動画の視聴（25件）

- 動画がいくつかありイメージがつきやすかった
- ロールプレイを通じて、“受け止めて・振る”練習をしたことが良い勉強になった。異なる立場にたって練習したことで、それぞれの気持ちがわかった。直後の振り返りで、他の参加者の意見や感想を聞いたことも参考になった

研修全体の構成（13件）

- 事前に目標レベル設定をして頂いたことで、自分の課題をより明確にすることができてとても良い取り組みだと思いました
- 講義とロールプレイの流れや、非常に流れよい運営のお蔭で、実践的な体験と振り返りが十分で、ステップアップに繋がる感じがいたしました
- がん患者への相談支援やがんサロン・患者会の場が必要であることを講義で理解した上でサポートグループのファシリテーション、ピア・サポーター、患者のロールプレイを経験し、講義と実践をリンクさせて考えることができた。参加者、グループ内のファシリテータの意見もとても参考になった

各施設の取り組みを学ぶ（14件）

- 他施設の方との交流で、情報交換できたり、疑問に思っていることやこれから企画するサロンについて情報をたくさんいただけたので有意義だった
- 他施設の話をお聴くことができ、自施設の課題もより明確になったと思います

17

良かった点（2）（51名の記述より抜粋）

開催形式（5件）

- 現地での受講させていただきましたが、今回のグループワークの内容はオンラインでは得られないLIVE感が感じられた
- 対面で仲間作りが出来た
- オンライン参加だったがグループワークが、思った以上に有効にできた

ファシリテーターの関わり（7件）

- 講師の先生方もファシリテーターの先生も、受講者のスキルアップのために力を尽くしてくださっていると感じた
- 皆さんが暖かく熱量を持っていて、講師の方々もピア・サポートを広めたい熱い気持ちがあり、とても有意義に研修を受ける事が出来ました
- 進行やアドバイスによって得られるヒントがたくさんあった

- 研修の構成、特に動画視聴やロールプレイ体験により学習が深まっている
- 開催形式については、対面、オンライン双方のメリットがあり。今回は対面参加者も増加したため、ハイブリッド形式での開催は今後も必要である
- 参加者の経験も少ないため、ゆっくりと進められるようスケジュールを調整していること、またファシリテーターも適度な介入、助言をすることが、研修効果や満足感にも現れている可能性がある

18

改善点（20名の記述より抜粋）

ロールプレイに関して（4件）

- ・ 複数ピア・サポーター役がいた場合のバージョンと1人のバージョンとで組み込んでいただいて、ピア・サポーターの人数の違いによって運営する際の負担の変化も経験してみたかったなと思いました（動画ではピア・サポーター役が複数いたので複数のほうがいいのかなと感じたので）
- ・ 相談役とピア・サポーター役が話し込んでしまい、その二役の方が意識をしないとファシリテーター役の話す場面がつかれないように感じた。予めそれを意識するように伝えてもらった方がよい

事前課題やレベル設定について（1件）

- ・ 事前アンケートが多く、回答が難しい質問もありました/事前にグループ分けを知れたら良かった
- ・ レベル設定をせっかくして頂いたので、解決したい課題に応じたグループワーク内容だったらより良かった
- ・ 最初に設定された目標が同じレベルの人たちがグループになったかどうかは気になった

動画配信・Zoom操作（2件）

- ・ オンライン参加でしたが、後半2つの動画が流れませんでした
- ・ WEB参加だと全体の研修時間がやや長いような気がした。Zoomのアイコンがあるのに、再度インストールしないとZoom参加の登録ができなかったのが、大変だった

研修の長さ（3件）

- ・ ワークでの話し合いがもう少し長いとよい/ロールプレイングの時間が長かった/WEB参加だと全体の研修時間がやや長い

その他（7件）

- ・ 法的なことをもう少し知りたかったです/講師の先生方の紹介があるとよかった
- ・ 唯一正しい運営の方法はないと教わり、その通りだと思いましたが、会の評価指標を示していただけたいなと思いました。例えば、参加者の満足度なのか、自己効力感なのか、役立ち度なのか・・・自由意見以外については参加直後にどんなアウトカムがあれば成功なのかと悩みます

19

研修会に関するご意見・ご感想（43名の記述より抜粋）

- ・ 丁寧な指導、運営で安心して参加できました。自分や施設の課題も見つかり参加させていただいて良かったです
- ・ フォローアップ研修もぜひ参加したい/1度の研修会参加で実践していくのは難しいのでフォローアップ研修にぜひ参加したい。同じような課題を抱えている他施設の情報をもっと知りたい
- ・ オンライン続けてほしい/ Web参加でしたがzoom登録など、とても分かりやすい案内で当日もスムーズに参加することができました
- ・ 全国の拠点病院以外でも浸透するように継続してほしい
- ・ がん専門相談員の研修やセミナーはとても数が多く、様々な分野でのスキルアップが必要ではあるが、全てに参加することは難しいので、オンラインでも参加できる研修形式であり、大変参加しやすかった。なんとなく参加してファシリテートしていたものを意図的な関わりとしてスタッフに指導したり管理者に理解してもらえる資料として参考になることが多かった
- ・ サポートグループ運営について、長年経験されてこられた先生方のお話が聞けて、自分にとってとても良い研修会だった。自分の施設にあったサポートグループとは？ということについて考えを巡らせるいい機会にもなった
- ・ オンライングループワークで同グループだった方々との連絡先交換等のネットワーク作りが出来れば、更に良いと思いました
- ・ 人と時間が許されるなら、2日に分けて平日であればいいと思った。グループの方々の温かい言葉や表情で楽しく参加できました
- 多くの記載があり、自施設の課題への気づき以外にも、ハイブリッド開催、フォローアップ研修会の要望、ファシリテーターへの感謝等、多く寄せられた

20

短期サポートグループワーキンググループ 会議報告

第1回 WG 会議

日時：2024 年 6 月 4 日（火）

形式：オンライン開催

議事：

- (1) 今年度の各研修会の準備検討
- (2) フォローアップ研修会プログラムの検討

第2回 WG 会議

日時：2024 年 8 月 6 日（火）

形式：オンライン開催

議事：

- (1) フォローアップ研修会プログラムの検討

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会(令和6年度第1回)

会場(配信拠点)：TKP金沢新幹線口（石川県金沢市堀川新町2-1 井門金沢ビル 3階・4階・6階）

日時：2024 年 10 月 18 日（金） 18：00～19：00（前日打合せ）

2024 年 10 月 19 日（土） 9：15～9：30（直前打合せ）

〃 10：00～17：00（研修）

〃 17：00～18：00（関係者反省会）

がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会

会場(配信拠点)：アーバンネット神田カンファレンス（東京都千代田区内神田3-6-2アーバンネット神田ビル）

日時：2024 年 11 月 16 日（土） 11：00～12：00（直前打合せ）

〃 13：00～17：00（研修）

〃 17：00～18：00（関係者反省会）

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会(2024 年度第2回)

会場(配信拠点)：AP 東京八重洲（東京都中央区京橋 1-10-7）

日時：2025 年 2 月 10 日（月） 18：00～19：00（前日打合せ）

2025 年 2 月 11 日（火・祝） 8：30～9：00（直前打合せ）

〃 10：00～17：00（研修）

〃 17：00～18：00（関係者反省会）

がんサポートグループ企画運営者のための研修会 修了者向け半年後アンケート

受講後半年以降のサポートグループに関する企画、開催状況、課題に関する調査の実施

対象者：2023年11月3日、2024年2月10日実施の「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」の修了者 108名

アンケート期間：2024年5月20日～6月7日（2023年11月3日修了者対象）

2024年8月7日～9月2日（2024年2月10日修了者対象）

V. 都道府県への支援

1. ピア・サポーター向け研修会の実施の支援・運営協力

(1) 埼玉県 ピア・サポーター養成研修会

開催日	【1日目】 2024年7月23日(火)10:00～17:00 【2日目】 2024年7月27日(土)10:00～17:00	
開催形式	対面	
開催場所	埼玉会館 2階ラウンジ (控室:3A会議室)	
研修内容	養成	
受講者 協力者	ピア・サポーター	22名
	医療者	1日目3名、2日目1名 (主に見学)
	行政担当者	2名 (研修運営)

プログラム 1日目(7月23日(火) 1日目)

開始	終了	分	全体会場(2階ラウンジ)	控室(3A会議室)	形式
9:45	10:00	15	受講者受付		
10:00	10:10	10	開会のあいさつ/オリエンテーション		講義形式
10:10	10:20	10	アイスブレイク		講義形式
10:20	10:50	30	ピア・サポートとは		講義形式
10:50	11:00	10	〔休憩〕		
11:00	12:00	60	ピア・サポーターの役割と活動指針 (A)ピア・サポートを行うこと/(B)守るべきこと/(C)活動を振り返り、報告する		講義形式
12:00	13:00	60	〔昼休憩〕		
13:00	13:40	40	相手を大切にすること、自分を大切にすること (D)バウンダリーについて (E)ピア・サポーターが知っておくと良い情報		講義形式
13:40	13:55	15	自分の体験を語る 全体オリエンテーション	移動	講義形式
13:55	14:20	25	自分の体験を語る Aグループ前半 (6人×3分)	自分の体験を語る Bグループ前半(6人×3分)	ワークショップ
14:20	14:30	10	〔休憩〕		
14:30	14:55	25	自分の体験を語る Bグループ後半	自分の体験を語る Bグループ後半 (6人×3分)	ワークショップ
15:55	15:00	5	自分の体験を語る まとめ	自分の体験を語る まとめ	
15:00	15:10	10	〔休憩・部屋の移動〕		
15:10	16:10	60	がん診療の基礎知識と情報提供の注意点		講義形式
16:10	16:20	10	1日目のまとめ(質疑応答)		講義形式
16:20	16:40	20	病院での活動について①		講義形式
16:40	16:45	5	事務連絡		講義形式

V. 都道府県への支援

プログラム(7月27日(土) 2日目)

開始	終了	分	全体会場(2階ラウンジ)	控室(3A会議室)	形式
9:45	10:00	15	受講者受付		
10:00	10:10	10	オリエンテーション		講義形式
10:10	10:50	40	よりよいコミュニケーションのために		講義形式
10:50	11:00	10	〔休憩〕		
11:00	11:15	15	ロールプレイ 進め方オリエンテーション		講義形式
11:15	11:30	15	グループに分かれる→自己紹介・アイスブレイク		
11:30	11:50	20	ロールプレイ セッション1	セッション1	ロールプレイ
11:50	12:10	20	ロールプレイ セッション2	セッション2	ロールプレイ
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕	〔昼休憩〕	
13:10	13:30	20	ロールプレイ セッション3	セッション3	ロールプレイ
13:30	13:50	20	ロールプレイ セッション4	セッション4	ロールプレイ
13:50	14:00	10	〔休憩〕 & 〔全体に戻る〕		
14:00	14:20	20	ロールプレイ 全体まとめ		講義形式
14:20	14:30	10	〔休憩〕		
14:30	15:15	45	グループファシリテートのために		講義形式
15:15	15:25	10	〔休憩〕		
15:25	16:25	60	埼玉県のピア・サポート活動 行政や医療機関の役割について学ぼう		講義形式
16:25	16:45	20	2日目のまとめ／質疑応答		講義形式
16:45	17:00	15	修了式 (閉会あいさつ／事務連絡等)		講義形式

(2) 神奈川県 ピア・サポーター養成研修会(令和6年度第1回)

開催日	【1日目】2024年8月17日(土)午前10時から午後5時 【2日目】2024年8月18日(日)午前10時から午後5時	
開催形式	対面2日	
開催場所	神奈川県民ホール 大会議室	
研修内容	養成	
受講者	ピア・サポーター	31名
	医療者	1日目18名、2日目5名
	行政担当者	1名

プログラム(8月17日(土) 1日目)

開始	終了	分	全体会場			形式
9:45	10:00	30	受講者受付			
10:00	10:10	10	開会のあいさつ/オリエンテーション			講義形式
10:10	10:30	20	アイスブレイク			講義形式
10:30	11:00	30	ピア・サポートとは			講義形式
11:00	11:10	10	〔休憩〕			
11:10	12:10	60	ピア・サポーターの役割と活動指針 (A)ピア・サポートを行うこと (B)守るべきこと (C)活動を振り返り、報告する			講義形式
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕			
13:10	13:40	30	相手を大切にすること、自分を大切にすること (D)バウンダリーについて (E)ピア・サポーターが知っておくと良い情報			講義形式
13:40	13:50	10	休憩			
13:50	14:05	15	自分の体験を語る 全体オリエンテーション&座席の移動			講義形式
			A グループ	B グループ	C グループ	
14:05	14:30	25	自分の体験を語る A 前半(6人×3分)	自分の体験を語る B 前半(6人×3分)	自分の体験を語る C 前半(6人×3分)	ワークシ ョップ
14:30	14:40	10	〔休憩〕	〔休憩〕	〔休憩〕	
14:40	15:05	25	自分の体験を語る A 後半(6人×3分)	自分の体験を語る B 後半(6人×3分)	自分の体験を語る C 後半(6人×3分)	ワークシ ョップ
15:05	15:15	10	自分の体験を語る まとめ			
15:15	15:25	10	〔休憩〕			
15:25	16:15	50	がん診療の基礎知識と情報提供の注意点			講義形式
16:15	16:25	10	1日目のまとめ(質疑応答)			講義形式
16:25	16:50	25	病院での活動について①(説明5分+3病院程度×5分)			講義形式
16:50	17:00	10	事務連絡			講義形式

V. 都道府県への支援

プログラム(8月18日(日) 2日目)

開始	終了	分	全体会場	形式
9:45	10:00		受講者受付	
10:00	10:10	10	オリエンテーション	講義形式
10:10	10:50	40	よりよいコミュニケーションのために	講義形式
10:50	11:00	10	〔休憩〕	
11:00	11:20	20	ロールプレイ 進め方オリエンテーション	講義形式
11:20	11:30	10	グループに分かれる→自己紹介・アイスブレイク	
11:30	11:50	20	ロールプレイ セッション1	ロールプレイ
11:50	12:10	20	ロールプレイ セッション2	ロールプレイ
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕	
13:10	13:30	20	ロールプレイ セッション3	ロールプレイ
13:30	13:50	20	ロールプレイ セッション4	ロールプレイ
13:50	14:05	15	〔予備時間〕 & 〔休憩〕 & 〔全体に戻る〕	
14:05	14:35	30	ロールプレイ 全体まとめ	講義形式
14:35	14:45	10	〔休憩〕	
14:45	15:15	30	神奈川県のパ・サポート活動 病院での活動について②(3～4施設×5分)	講義形式
15:15	15:35	30	行政や医療機関の役割について学ぼう	講義形式
15:45	16:05	20	2日目のまとめ／質疑応答	講義形式
16:05	16:20	15	閉会あいさつ(閉会あいさつ／事務連絡／記念撮影等)	講義形式

(3) 埼玉県ピア・サポーターフォローアップ研修会(令和6年度1回目)

開催日	2024年11月26日(火)10:00～15:00	
開催形式	対面 1 日間	
開催場所	埼玉会館	
研修内容	フォローアップ	
受講者 協力者	ピア・サポーター	29名
	医療者	4名（ファシリテーターとして協力）
	行政担当者	2名（研修運営、交流会・意見交換会進行）

プログラム

開始	終了	分	内容	形式
9:30	10:00	30	受講者受付	
10:00	10:10	10	開会のあいさつ、オリエンテーション	講義形式
10:10	10:20	10	アイスブレイク	講義形式
10:20	10:40	20	ピア・サポート基礎知識の振り返り	講義形式
10:40	11:00	20	ピア・サポーターのストレスマネジメント	講義形式
11:00	11:05	05	がんサロン(模擬サロン)をやってみよう ・オリエンテーション	講義形式
11:05	11:25	20	・模擬サロン1回目	ワークショ ップ
11:25	11:45	20	・模擬サロン2回目	ワークショ ップ
11:45	12:05	20	・模擬サロンの全体振り返り・解説&事例検討	講義形式
12:05	13:05	60	休憩	
13:05	13:10	05	ピア・サポーターからの活動報告・説明	講義形式
13:10	13:30	20	・グループディスカッション	グループ
13:30	13:55	25	・各グループ発表	講義形式
13:55	14:00	05	・まとめ	講義形式
14:00	14:50	50	ピア・サポーター交流会/病院担当者意見交換会	グループ
14:50	15:00	10	質疑応答、閉会あいさつ・事務連絡	

V. 都道府県への支援

(4) 大阪府がんピア・サポーター養成研修(令和6年度第1回)

開催日	【1日目】2024年11月16日(土) 10:00~16:30 【2日目】2024年11月17日(日) 10:00~16:30	
開催形式	対面 2日間	
開催場所	大阪国際がんセンター6階 大会議室	
研修内容	養成	
受講者 協力者	ピア・サポーター	24名
	医療者	4名(講師・ファシリテーターとして協力)
	行政担当者	行政1名 大阪府がん患者サポートセンター2名

プログラム(11月16日 1日目)

開始	終了	分	プログラム	形式
10:00	10:10	10	開会のあいさつ オリエンテーション	講義形式
10:10	10:40	30	ピア・サポートとは	講義形式
10:40	11:40	60	ピア・サポーターの役割と活動指針 (A)ピア・サポートを行うこと (B)守るべきこと (C)活動を振り返り、報告する	講義形式
11:40	11:50	10	〔休憩〕	
11:50	12:30	40	相手を大切にすること、自分を大切にすること (D)バウンダリーについて (E)ピア・サポーターが知っておくと良い情報	講義形式
12:30	13:30	60	〔昼休憩〕	
13:30	14:20	50	自分の体験を語る 前半	ワークショップ
14:20	15:20	60	自分の体験を語る 後半	ワークショップ
15:20	15:30	10	〔休憩〕	
15:30	16:20	50	がん診療の基礎知識	講義形式
16:20	16:30	10	1日目のまとめ 翌日のオリエンテーション	講義形式

プログラム(11月17日 2日目)

開始	終了	分	プログラム	形式
10:00	10:40	40	よりよいコミュニケーションのために	講義形式
10:40	10:50	10	〔休憩〕	
10:50	12:20	90	オリエンテーション ロールプレイ	ロールプレイ
12:20	13:20	60	〔昼休憩〕	
13:20	14:40	80	ロールプレイ(全体振り返り) まとめ	ロールプレイ
14:40	14:50	10	〔休憩〕	
14:50	15:30	40	行政や医療機関の役割	講義形式
15:30	16:20	50	2日間のまとめ(研修を通じて学んだこと)／質疑応答	講義形式
16:20	16:30	10	閉会あいさつ	講義形式

(5) 香川県 ピア・サポーター養成研修会

開催日	2024 年 11 月 18 日(月) 10:00～16:20	
開催形式	対面 1 日間	
開催場所	香川県庁 北館 3 階 304・305 会議室	
研修内容	養成	
受講者	ピア・サポーター	11 名
	医療者	6 名 (うち 3 名ファシリテーターとして協力)
	行政担当者	4 名

プログラム(11月18日(月))

開始	終了	分	304 会議室	305 会議室	形式
9:45	10:00	15	受講者受付		
10:00	10:10	10	開会のあいさつ、オリエンテーション		講義形式
10:10	10:40	30	アイスブレイク ・事前講義の振り返り		講義形式
10:40	10:50	10	体験を語る オリエンテーション		講義形式
10:50	11:10	20	体験を語る 前半 6 名×3 分		ワークショップ
11:10	11:20	10	休憩		
11:20	11:45	25	体験を語る 後半 5 名×3 分+まとめ		ワークショップ
11:45	12:35	50	お昼休憩		
12:35	12:45	10	ロールプレイ オリエンテーション		講義形式
12:45	12:55	10	ロールプレイ グループに分かれる&自己紹介		ロールプレイ
12:55	13:15	20	ロールプレイ セッション 1	ロールプレイ (1 グループ)	ロールプレイ
13:15	13:35	20	ロールプレイ セッション 2	〃	ロールプレイ
13:35	13:45	10	休憩		
13:45	14:05	20	ロールプレイ セッション 3	〃	ロールプレイ
14:05	14:25	20	ロールプレイ セッション 4	〃	ロールプレイ
14:25	14:30	05	休憩&全体会場移動		
14:30	14:45	15	ロールプレイ 全体のまとめ		講義形式
14:45	14:55	10	休憩		
14:55	15:25	30	行政や医療機関の役割について学ぼう 香川県の計画やピア・サポートに関する 取り組みの紹介		
15:25	15:40	15	まとめ・質疑応答		講義形式
15:40	16:10	30	がん診療連携拠点病院より、各病院のがん サロンについて情報提供		講義形式
16:10	16:20	10	閉会あいさつ、事務連絡、アンケート記入		講義形式

V. 都道府県への支援

(6) 奈良県がんピア・サポーター養成研修会

開催日	2024年12月5日(木) 10:00～15:30 2024年12月6日(金) 10:00～15:30	
開催形式	対面 2日間	
開催場所	奈良県橿原総合庁舎	
研修内容	養成	
受講者	ピア・サポーター	12名
	医療者	6名(2日目のファシリテーターとして協力)
	行政担当者	3名

プログラム(12月5日(木)1日目)

開始	終了	分	内容	形式
10:00	10:10	10	開会の挨拶・オリエンテーション	講義形式
10:10	10:30	20	奈良県のがん対策について	講義形式
10:30	11:30	60	◆ピア・サポートってなに？ ◆ピア・サポーターの役割と活動指針(前半) (ア)ピア・サポートを行うこと (イ)守るべきこと	講義形式
11:30	11:40	10	休憩	
11:40	12:10	30	◆ピア・サポーターの役割と活動指針(後半) (ウ)相手を大切にすること、自分を大切にすること～ バウンダリーについて～ (エ)ピア・サポーターが知っておくと良い情報 (オ)活動を振り返り、報告する <記録やピアレビュー>	講義形式
12:10	13:10	60	昼休憩	
13:10	14:10	60	自己の体験を語る	ワークショップ
14:10	14:20	10	休憩	
14:20	15:20	60	がん治療の基礎知識	講義形式
15:20	15:30	10	一日のまとめ(質疑応答)	講義形式

プログラム(12月6日(金)2日目)

開始	終了	分	内容	形式
10:00	10:05	05	オリエンテーション	講義形式
10:05	10:55	50	ロールプレイのオリエンテーション ロールプレイ(4人1組)	ロールプレイ
10:55	11:05	10	休憩	
11:05	11:55	50	ロールプレイ	ロールプレイ
11:55	12:20	25	奈良県のがんピア・サポートの実際	講義形式
12:20	13:20	60	昼休憩	
13:20	14:10	50	よりよいコミュニケーションのために	講義形式
14:10	14:20	10	休憩	
14:20	15:20	60	グループファシリテートのために<がんサロン編>	講義形式
15:20	15:25	05	受講修了証の授与	講義形式
15:25	15:30	05	まとめ 閉会挨拶	講義形式

(7) 徳島県ピア・サポーター養成・フォローアップ研修会

開催日	2024年12月7日(土)10:00～16:00 (交流会 16:10～16:50)	
開催形式	対面1日間	
開催場所	徳島大学病院 5階 大会議室&小会議室	
研修内容	養成・フォローアップ	
受講者	ピア・サポーター	16名 (新規養成者 7名、フォローアップ9名)
	医療者	3名
	行政担当者	3名

プログラム

開始	終了	分	部屋 A 大会議室	部屋 B 小会議室	形式
9:45	10:00	15	受講者受付		
10:00	10:10	10	開会のあいさつ、オリエンテーション		
10:10	10:25	15	アイスブレイク		
10:25	10:55	30	ピア・サポート基礎知識の振り返り		講義形式
10:55	11:05	10	休憩		
11:05	11:20	15	体験を語る オリエンテーション		ワークショップ
11:20	11:45	25	体験を語る 前半 5名～7名×3分		ワークショップ
11:45	11:55	10	休憩		
11:55	12:20	25	体験を語る 後半 5名～7名×3分		ワークショップ
12:20	13:20	60	お昼休憩		
13:20	13:35	15	ロールプレイ オリエンテーション		講義形式
13:35	13:45	10	ロールプレイ グループに分かれる&自己紹介	(グループ C・D)	グループ
13:45	14:05	20	ロールプレイ セッション1 (グループ A・B)	(グループ C・D)	グループ
14:05	14:25	20	ロールプレイ セッション2 (グループ A・B)	(グループ C・D)	グループ
14:25	14:35	10	休憩		
14:35	14:45	10	模擬サロン進め方オリエンテーション		講義形式
14:45	15:05	20	模擬サロン サロン実演	医療者間の意見交換会	グループ
15:05	15:15	10	模擬サロン 解説	〃	
15:15	15:35	20	模擬サロン サロンやってみよう	〃	グループ
15:35	15:45	10	ロールプレイ&模擬サロン 全体のまとめ		講義形式
15:45	16:00	15	研修会のまとめ、質疑応答		
16:00	16:10	10	休憩		
16:10	16:50	40	交流会		

(8) 長崎県ピア・サポーター養成・フォローアップ研修会

開催日	2024年12月15日(日)10:00～16:00(交流会 16:10～16:50)	
開催形式	対面 1 日間	
開催場所	長崎県庁 311会議室・312会議室他	
研修内容	養成・フォローアップ	
受講者	ピア・サポーター	15 名(新規養成3名、フォローアップ12名)
	医療者	10名
	行政担当者	4名

プログラム

開始	終了	分	313 及び 314 会議室	312 会議室	形式
9:45	10:00	15	受講者受付		
10:00	10:10	10	開会のあいさつ オリエンテーション		
10:10	10:50	40	ピア・サポート基礎知識の振り返り		講義形式
10:50	11:00	10	休憩		
11:00	11:15	15	体験を語る オリエンテーション		講義形式
11:15	11:40	25	体験を語る 前半	医療者間の意見交換会	ワークショップ
11:40	11:50	10	休憩	医療者間の意見交換会	
11:50	12:10	20	体験を語る 後半	医療者間の意見交換会	ワークショップ
12:10	13:10	60	お昼休憩		
13:10	13:25	15	ロールプレイ ・オリエンテーション		講義形式
13:25	13:35	10	・自己紹介等	自己紹介等	
13:35	13:55	20	・セッション 1	セッション 1	ロールプレイ
13:55	14:15	20	・セッション 2	セッション 2	ロールプレイ
14:15	14:25	10	休憩		
14:25	14:30	05	模擬サロン ・進め方オリエンテーション		講義形式
14:30	14:50	20	・サロン実演		ワークショップ
14:50	15:00	10	・解説		ワークショップ
15:00	15:20	20	・やってみよう		
15:00	15:30	10	・解説		
15:30	15:50	20	・医師-患者間コミュニケーション UP to Date ・拠点病院からの挨拶		講義形式
15:50	16:00	10	まとめ、質疑応答、閉会あいさつ		
16:00	16:50	50	ピア・サポーター交流会		

(9) 東京都ピア・サポーター養成研修会(令和6年度第1回目)

開催日	【1日目】2024年12月21日(土) 10:00～16:30 【2日目】2024年12月22日(日) 10:00～16:20	
開催形式	対面2日間	
開催場所	都立駒込病院 特別会議室2・会議室2	
研修内容	養成	
受講者・協力者	ピア・サポーター	20 名
	医療者	1日目 1名、2日目2名 (見学)
	行政担当者	1日目 1名、2日目2名
	研修会事務局	3名

プログラム(12月21日(土)1日目)

開始	終了	分	全体会場 【特別会議室2】	サブ会場【会議室2】	形式
9:40	10:00	20	受講者受付		
10:00	10:10	10	開会のあいさつ/オリエンテーション		講義形式
10:10	10:30	20	アイスブレイク		講義形式
10:30	11:00	30	ピア・サポートとは		講義形式
11:00	11:10	10	〔休憩〕		
11:10	12:10	60	ピア・サポーターの役割と活動指針 (A)ピア・サポートを行うこと (B)守るべきこと (C)活動を振り返り、報告する		講義形式
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕		
13:10	13:40	30	相手を大切にすること、自分を大切にすること (D)バウンダリーについて (E)ピア・サポーターが知っておくと良い情報		講義形式
13:40	13:50	10	休憩		
13:50	14:00	10	自分の体験を語る 全体オリエンテーション		講義形式
14:00	14:40	40	自分の体験を語る Aグループ 前半(10人×3分)	自分の体験を語る Bグループ 前半(10人×3分)	ワークショップ
14:40	14:50	10	〔休憩〕		
14:50	15:10	20	自分の体験を語る Aグループ 後半(10人×1分)	自分の体験を語る Bグループ 後半(10人×1分)	ワークショップ
15:10	15:15	5	自分の体験を語る まとめ	自分の体験を語る まとめ	ワークショップ
15:15	15:25	10	〔休憩〕 & 〔配置転換〕		
15:25	16:15	50	がん診療の基礎知識と情報提供の 注意点		講義形式
16:15	16:25	10	1日目のまとめ(質疑応答)		講義形式
16:25	16:30	5	事務連絡		講義形式

プログラム(12月22日(日)2日目)

開始	終了	分	全体会場 【特別会議室2】	サブ会場【会議室2】	形式
9:45	10:00		受講者受付		
10:00	10:10	10	オリエンテーション		講義形式
10:10	10:50	40	よりよいコミュニケーションのために		講義形式
10:50	11:00	10	〔休憩〕		
11:00	11:20	20	ロールプレイ進め方オリエンテーション		講義形式
11:20	11:30	10	グループ(部屋)に分かれる→自己紹介・アイスブレイクローテーション		
11:30	11:50	20	ロールプレイ セッション1	セッション1	ロールプレイ
11:50	12:10	20	ロールプレイ セッション2	セッション2	ロールプレイ
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕		
13:10	13:30	20	ロールプレイ セッション3	セッション3	ロールプレイ
13:30	13:50	20	ロールプレイ セッション4	セッション4	ロールプレイ
13:50	14:05	15	〔休憩〕 & 〔全体に戻る〕		
14:05	14:35	30	ロールプレイ 全体まとめ		講義形式
14:35	14:45	10	〔休憩〕		
14:45	15:15	30	行政や医療機関の役割について学ぼう		講義形式
15:15	15:45	30	東京都の計画・ピア・サポート活動について(東京都)		講義形式
15:45	16:05	20	2日目のまとめ/質疑応答		講義形式
16:05	16:20	15	閉会あいさつ(閉会あいさつ/事務連絡/記念撮影)		講義形式

(10) 山口県ピア・サポーター基礎研修会

開催日	2025年1月11日(土) 14:00～16:00	
開催形式	対面 1 日間	
開催場所	山口県健康づくりセンター	
研修内容	養成	
受講者	ピア・サポーター	19名
	医療者	11名
	行政担当者	1名

プログラム

開始	終了	分	部屋	形式
13:40	14:00	20	受講者受付	
14:00	14:05	05	開会のあいさつ、オリエンテーション	講義形式
14:05	14:15	10	山口県の取り組み	講義形式
14:15	14:40	25	ピア・サポート基礎知識① ピア・サポートとは、役割と活動指針	講義形式
14:40	15:05	25	ピア・サポート基礎知識② コミュニケーションスキル、バウンダリー	講義形式
15:05	15:50	45	ピア・サポートをはじめよう（座談会） <内容> (1) 登壇者自己紹介 (2) ピア・サポーターは活動状況や活動上の障壁や課題 (3) がん診療連携協議会、相談支援部会等での検討状況について (4) ピア・サポーターとの連携を進めるために必要なこと (5) 今後の取り組みについて ・質疑応答	座談会
15:50	16:00	10	質疑応答・閉会あいさつ	

V. 都道府県への支援

(11) 茨城県ピア・サポーター養成研修会

開催日	【事前視聴】2025年1月8日(水)9:30～12:30、13:30～16:30 (希望した方のみ) 【対面研修】2025年1月14日(火)9:15～16:00	
開催形式	講義の事前視聴+対面1日間	
開催場所	茨城県庁行政棟 9階901会議室	
研修内容	養成	
受講者	ピア・サポーター	12 名

プログラム

開始	終了	分	研修科目	形式
9:15	9:20	5	○開会 ○オリエンテーション	講義形式
9:20	9:30	10	○自己紹介(一言ずつ)	講義形式
9:30	10:15	45	○事前講義の振り返り(事前動画視聴の復習+質疑応答等)	講義形式
10:15	10:20	5	休憩	
10:20	12:25	60	○ワークショップ(自己の体験を語る) 【前半】1人3分ずつ体験を語る 【後半】1人1分ずつ、テーマを選んで体験を語る	ワークショップ
12:25	13:10	45	休憩	
13:10	13:25	15	○がん相談支援センターとピア・サポート相談窓口について	講義形式
13:25	15:05	100	○茨城のピア・サポートについて ○ワークショップ(ロールプレイ)	ロールプレイ
15:05	15:15	10	休憩	
15:15	16:45	90	○ワークショップ(ロールプレイ)	ロールプレイ
16:45	16:50	5	○今後の対応についての説明(修了証の交付や窓口に立つまでの流れなど) ○閉会	講義形式

(12) 埼玉県 ピア・サポーターフォローアップ研修会（令和6年度2回目）

開催日	2025年1月21日(火)10:00～15:00	
開催形式	対面1日間	
開催場所	埼玉会館 7階7A会議室	
研修内容	フォローアップ	
受講者 協力者	ピア・サポーター	16名
	医療者	4名
	行政担当者	2名

プログラム

開始	終了	分	内容	形式
9:30	10:00	30	受講者受付	
10:00	10:10	10	開会のあいさつ、オリエンテーション	講義形式
10:10	10:20	10	アイスブレイク	講義形式
10:20	10:40	20	ピア・サポート基礎知識の振り返り	講義形式
10:40	11:00	20	ピア・サポーターのストレスマネジメント	講義形式
11:00	11:05	05	がんサロン(模擬サロン)をやってみよう ・オリエンテーション	講義形式
11:05	11:25	20	・模擬サロン1回目	ワークショップ
11:25	11:45	20	・模擬サロン2回目	ワークショップ
11:45	12:05	20	・模擬サロンの全体振り返り・解説&事例検討	講義形式
12:05	13:05	60	休憩	
13:05	13:10	05	ピア・サポーターからの活動報告・説明	講義形式
13:10	13:30	20	・グループディスカッション	グループ
13:30	13:55	25	・各グループ発表	講義形式
13:55	14:00	05	・まとめ	講義形式
14:00	14:50	50	ピア・サポーター交流会/病院担当者意見交換会	グループ
14:50	15:00	10	質疑応答、閉会あいさつ・事務連絡	

V. 都道府県への支援

(13) 神奈川県ピア・サポーター養成研修会(令和6年度第2回)

開催日	【1日目】2025年1月25日(土)午前10時から午後5時 【2日目】2025年1月26日(日)午前10時から午後5時	
開催形式	対面2日	
開催場所	神奈川県民ホール 大会議室	
研修内容	養成	
受講者 協力者	ピア・サポーター	24名
	医療者	1日目18名、2日目5名
	行政担当者	3名

プログラム(1月25日(土) 1日目)

開始	終了	分	第1教室			形式
9:45	10:00	30	受講者受付			
10:00	10:10	10	開会のあいさつ/オリエンテーション			講義形式
10:10	10:30	20	アイスブレイク			講義形式
10:30	11:00	30	ピア・サポートとは			講義形式
11:00	11:10	10	〔休憩〕			
11:10	12:10	60	ピア・サポーターの役割と活動指針 (A)ピア・サポートを行うこと、(B)守るべきこと、(C)活動を振り返り、報告する			講義形式
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕			
13:10	13:40	30	相手を大切にすること、自分を大切にすること(D)バウンダリーについて (E)ピア・サポーターが知っておくと良い情報			講義形式
13:40	13:50	10	休憩			
13:50	14:05	15	自分の体験を語る 全体オリエンテーション&座席の移動			講義形式
			A グループ	B グループ	C グループ	
14:05	14:30	25	自分の体験を語る 前半(4~5人×3分)	自分の体験を語る 前半(4~5人×3分)	自分の体験を語る 前半(4~5人×3分)	ワークショップ
14:30	14:40	10	〔休憩〕	〔休憩〕	〔休憩〕	
14:40	15:05	25	自分の体験を語る 後半(4~5人×3分)	自分の体験を語る 後半(4~5人×3分)	自分の体験を語る 後半(4~5人×3分)	ワークショップ
15:05	15:15	10	自分の体験を語る まとめ			
15:15	15:25	10	〔休憩〕 & 〔配置転換〕			
15:25	16:15	50	がん診療の基礎知識と情報提供の注意点			講義形式
16:15	16:25	10	1日目のまとめ(質疑応答)			講義形式
16:25	16:50	25	病院での活動について①			講義形式
16:50	17:00	10	事務連絡			講義形式

プログラム(1月26日(日) 2日目)

開始	終了	分	ピア	形式
9:45	10:00		受講者受付	
10:00	10:10	10	オリエンテーション	講義形式
10:10	10:50	40	よりよいコミュニケーションのために	講義形式
10:50	11:00	10	〔休憩〕	
11:00	11:20	20	ロールプレイ進め方オリエンテーション	講義形式
11:20	11:30	10	グループ(部屋)に分かれる	
11:30	11:50	20	ロールプレイ セッション1	ロールプレイ
11:50	12:10	20	ロールプレイ セッション2	ロールプレイ
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕	
13:10	13:30	20	ロールプレイ セッション3	ロールプレイ
13:30	13:50	20	ロールプレイ セッション4	ロールプレイ
13:50	14:05	15	〔休憩〕 & 〔全体に戻る〕	
14:05	14:35	30	ロールプレイ 全体まとめ	講義形式
14:35	14:45	10	〔休憩〕	
14:45	15:15	30	神奈川県のパイ・サポート活動 病院での活動について②	講義形式
15:15	15:35	30	行政や医療機関の役割について学ぼう	講義形式
15:45	16:05	20	2日目のまとめ／質疑応答	講義形式
16:05	16:20	15	閉会あいさつ (閉会あいさつ／事務連絡／記念撮影等)	講義形式

V. 都道府県への支援

(14) 奈良県 がんピア・サポーターフォローアップ研修会

開催日		2025年1月29日(水) 10:00～15:00
開催形式		対面1日間
研修内容		フォローアップ
受講者	ピア・サポーター	9名
	医療者	0名(ファシリテーター) 0名(見学者)
	行政担当者	4名

開始	終了	分	内容	形式
10:00	10:10	10	開会の挨拶・オリエンテーション	講義形式
10:10	10:30	20	基礎研修の振り返り	講義形式
10:30	11:00	30	ピア・サポーターのストレスマネジメント	講義形式
11:00	11:10	10	休憩	
11:10	12:00	50	自分の体験を語る【テーマを決めて1分で話す】	ワークショップ
12:00	13:00	60	昼休憩	
13:00	14:00	60	ロールプレイ(模擬サロン) ● オリエンテーション ● セッション1 ● セッション2	ロールプレイ
14:00	14:10	10	休憩	
14:10	14:50	40	ロールプレイ ● セッション3 ● 全体まとめ	ロールプレイ
14:50	15:00	10	まとめ・閉会挨拶	講義形式

(15) 東京都がんピア・サポーター養成研修会(令和6年度第2回)

開催日	【1日目】2025年2月1日(土) 10:30～17:00 【2日目】2024年2月2日(日) 10:00～16:20	
開催形式	対面2日間	
開催場所	me:rise 立川 (ミライズタチカワ)	
研修内容	養成	
受講者 協力者	ピア・サポーター	19名
	医療者	5名
	行政担当者、研修事務局	3名(行政)、6名(研修事業事務局)

プログラム (2月1日(土)1日目)

開始	終了	(分)	全体会場 3F ROOM A+ROOM B	ROOM B	形式
10:15	10:30	15	受講者受付		
10:30	10:40	10	開会のあいさつ/オリエンテーション		講義形式
10:40	11:00	20	アイスブレイク		講義形式
11:00	11:30	30	ピア・サポートとは		講義形式
11:30	11:40	10	〔休憩〕		講義形式
11:40	12:40	60	ピア・サポーターの役割と活動指針 (A) ピア・サポートを行うこと、 (B) 守るべきこと、 (C) 活動を振り返り、報告する		講義形式
12:40	13:40	60	〔昼休憩〕		
13:40	14:10	30	相手を大切にすること、自分を大切にすること (D) バウンダリーについて (E) ピア・サポーターが知っておくと良い情報		講義形式
14:10	14:20	10	自分の体験を語る 全体オリエンテーション		講義形式
14:20	14:40	20	〔休憩〕 & 〔配置転換〕		
14:40	15:20	40	自分の体験を語る Aグループ前半(10人×3分+α)	自分の体験を語る Bグループ前半(10人×3分+α)	ワークショップ
15:20	15:30	10	〔休憩〕		
15:30	15:45	15	自分の体験を語る Aグループ後半(10人×1分+α)	自分の体験を語る Bグループ後半(10人×1分+α)	ワークショップ
15:45	15:50	5	自分の体験を語る まとめ	自分の体験を語る まとめ	ワークショップ
15:50	16:00	10	〔休憩〕 & 〔配置転換〕		
16:00	16:50	50	がん診療の基礎知識と情報提供の注意点		講義形式
16:50	17:00	10	1日目のまとめ(質疑応答) 事務連絡		講義形式

V. 都道府県への支援

プログラム（2月2日(日)2日目）

開始	終了	分	全体会場【10Fメインホール】	サブ【10F 控室】	形式
9:45	10:00	15	受講者受付		
10:00	10:10	10	オリエンテーション		講義形式
10:10	10:50	40	よりよいコミュニケーションのために		講義形式
10:50	11:00	10	〔休憩〕		
11:00	11:20	20	ロールプレイ進め方オリエンテーション		講義形式
11:20	11:30	10	グループ（部屋）に分かれる		
11:30	11:50	20	ロールプレイ セッション1	セッション1	ロールプレイ
11:50	12:10	20	ロールプレイ セッション2	セッション2	ロールプレイ
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕		
13:10	13:30	20	ロールプレイ セッション3	セッション3	ロールプレイ
13:30	13:50	20	ロールプレイ セッション4	セッション4	ロールプレイ
13:50	14:05	15	〔予備時間〕 & 〔休憩〕 & 〔全体に戻る〕		
14:05	14:35	30	ロールプレイ 全体まとめ		講義形式
14:35	14:45	10	〔休憩〕		
14:45	15:15	30	行政や医療機関の役割について学ぼう		講義形式
15:15	15:45	30	東京都の計画・ピア・サポート活動について(東京都)		講義形式
15:45	16:05	20	2日目のまとめ／質疑応答		講義形式
16:05	16:20	15	閉会あいさつ（閉会あいさつ／事務連絡(次回研修案内)／記念撮影等)		講義形式

(16) 大阪府がんピア・サポーター養成研修(令和6年度第2回)

開催日	【1日目】2025年2月15日(土) 10:00~16:30 【2日目】2025年2月16日(日) 10:00~16:30	
開催形式	対面 2日間	
開催場所	SMG アクセア貸会議室 〈本町・カーニープレイス本町ビル〉	
研修内容	養成	
受講者 協力者	ピア・サポーター	18名
	医療者	5名(講師・ファシリテーター)
	行政担当者・研修会事務局	行政1名 大阪府がん患者サポートセンター2名

プログラム(2月15日 1日目)

開始	終了	分	プログラム	形式
10:00	10:10	10	開会のあいさつ オリエンテーション	講義形式
10:10	10:40	30	ピア・サポートとは	講義形式
10:40	11:40	60	ピア・サポーターの役割と活動指針 (A)ピア・サポートを行うこと (B)守るべきこと (C)活動を振り返り、報告する	講義形式
11:40	11:50	10	〔休憩〕	
11:50	12:30	40	相手を大切にすること、自分を大切にすること (D)バウンダリーについて (E)ピア・サポーターが知っておくと良い情報	講義形式
12:30	13:30	60	〔昼休憩〕	
13:30	14:20	50	自分の体験を語る 前半	ワークショップ
14:20	15:20	60	自分の体験を語る 後半	ワークショップ
15:20	15:30	10	〔休憩〕	
15:30	16:20	50	がん診療の基礎知識	講義形式
16:20	16:30	10	1日目のまとめ 翌日のオリエンテーション	講義形式

プログラム(2月16日 2日目)

開始	終了	分	プログラム	形式
10:00	10:40	40	よりよいコミュニケーションのために	講義形式
10:40	10:50	10	〔休憩〕	
10:50	12:20	90	オリエンテーション ロールプレイ	ロールプレイ
12:20	13:20	60	〔昼休憩〕	
13:20	14:40	80	ロールプレイ(全体振り返り) まとめ	ロールプレイ
14:40	14:50	10	〔休憩〕	
14:50	15:30	40	行政や医療機関の役割	講義形式
15:30	16:20	50	2日間のまとめ(研修を通じて学んだこと)/ 質疑応答	講義形式
16:20	16:30	10	閉会あいさつ	講義形式

V. 都道府県への支援

(17) 栃木県ピア・サポーターフォローアップ研修会

開催日	2025年2月16日(日)10:00～12:00	
開催形式	対面	
開催場所	栃木県立宇都宮産業展示館(マロニエプラザ)	
研修内容	フォローアップ	
受講者	ピア・サポーター	8名
協力者	行政	2名

プログラム

開始	終了	分	内容	形式
9:30	10:00	30	受講者受付	
10:00	10:05	05	開会のあいさつ、オリエンテーション	講義形式
10:05	10:35	30	ピア・サポーターのストレスマネジメント	講義形式
10:35	10:45	10	休憩	
10:45	10:50	05	がんサロン(模擬サロン)をやってみよう ・オリエンテーション(5分)	講義形式
10:50	11:10	20	・模擬サロン 1回目(20分)	ロールプレイ
11:10	11:20	10	休憩	
11:20	11:40	20	・模擬サロン 2回目(20分)	ロールプレイ
11:40	11:55	15	・模擬サロン 全体振り返り・解説	講義形式
11:55	12:00	05	まとめ・閉会あいさつ	

(18) 高知県がんピア・サポーター養成研修会

開催日	2025年2月24日(月・祝) 10:00~16:30	
開催形式	事前の動画視聴+対面1日間	
開催場所	ちより街テラス	
研修内容	養成	
受講者 協力者	ピア・サポーター	9名
	医療者	3名
	行政・事務局	行政2名 研修事務局 3名 (がん相談センターこうち)

プログラム

開始	終了	分	部屋 A	形式
9:45	10:00	15	受講者受付	
10:00	10:10	10	開会のあいさつ、オリエンテーション	講義形式
10:10	10:40	30	アイスブレイク・事前講義の振り返り(事前視聴のおさらい)	講義形式
10:40	10:50	10	体験を語るオリエンテーション&グループに分かれる	講義形式
10:50	11:10	20	体験を語る前半 5名×3分+α	ワークショップ
11:10	11:20	10	休憩	
11:20	11:50	30	体験を語る後半 4名×3分+α、まとめ	ワークショップ
11:50	12:40	50	お昼休憩	
12:40	12:50	10	ロールプレイ オリエンテーション	講義形式
12:50	13:00	10	ロールプレイ グループに分かれる&自己紹介	ロールプレイ
13:00	13:20	20	ロールプレイ セッション1	ロールプレイ
13:20	13:40	20	ロールプレイ セッション2	ロールプレイ
13:40	14:00	20	ロールプレイ セッション3	ロールプレイ
14:00	14:10	10	ロールプレイ 全体のまとめ	
14:10	14:20	10	休憩	
14:20	15:05	45	行政や医療機関の役割について学ぼう	講義形式
15:05	15:20	15	高知県の計画・県のピア・サポート活動について	講義形式
15:20	15:50	30	まとめ・質疑応答	講義形式
15:50	16:00	20	閉会あいさつ、事務連絡、アンケート記入	講義形式

V. 都道府県への支援

(19) 東京都がんピア・サポーター養成研修会(令和6年度第3回)

開催日	【1日目】2025年2月28日(金) 10:00～16:30 【2日目】2025年3月1日(土) 10:00～16:20	
開催形式	対面2日間	
開催場所	都立駒込病院	
研修内容	養成	
受講者 協力者	ピア・サポーター	18名
	医療者	8名(運営協力)
	行政担当者・事務局	2名(東京都)、5名(研修事務局)

プログラム(2月28日(金)1日目)(予定)

開始	終了	分	全体会場	サブ会場	形式
9:40	10:00	20	受講者受付		
10:00	10:10	10	開会のあいさつ/オリエンテーション		講義形式
10:10	10:30	20	アイスブレイク		講義形式
10:30	11:00	30	ピア・サポートとは		講義形式
11:00	11:10	10	〔休憩〕		
11:10	12:10	60	ピア・サポーターの役割と活動指針 (A)ピア・サポートを行うこと (B)守るべきこと (C)活動を振り返り、報告する		講義形式
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕		
13:10	13:40	30	相手を大切にすること、自分を大切にすること (D)バウンダリーについて (E)ピア・サポーターが知っておくと良い情報		講義形式
13:40	13:50	10	休憩		
13:50	14:00	10	自分の体験を語る 全体オリエンテーション		講義形式
14:00	14:40	40	自分の体験を語る Aグループ 前半(10人×3分)	自分の体験を語る Bグループ 前半(10人×3分)	ワークショップ
14:40	14:50	10	〔休憩〕		
14:50	15:10	20	自分の体験を語る Aグループ 後半(10人×1分)	自分の体験を語る Bグループ 後半(10人×1分)	ワークショップ
15:10	15:15	5	自分の体験を語る まとめ	自分の体験を語る まとめ	
15:15	15:25	10	〔休憩〕 & 〔配置転換〕		
15:25	16:15	50	がん診療の基礎知識と情報提供の 注意点		講義形式
16:15	16:25	10	1日目のまとめ(質疑応答)		講義形式
16:25	16:30	5	事務連絡		講義形式

プログラム(2025年3月1日(土)2日目) (予定)

開始	終了	分	全体会場	サブ会場	形式
9:45	10:00		受講者受付		
10:00	10:10	10	オリエンテーション		講義形式
10:10	10:50	40	よりよいコミュニケーションのために		講義形式
10:50	11:00	10	〔休憩〕		
11:00	11:20	20	ロールプレイ進め方オリエンテーション		講義形式
11:20	11:30	10	グループ(部屋)に分かれる→自己紹介・アイスブレイクローテーション		講義形式
11:30	11:50	20	ロールプレイ セッション1	セッション1	ロールプレイ
11:50	12:10	20	ロールプレイ セッション2	セッション2	ロールプレイ
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕		
13:10	13:30	20	ロールプレイ セッション3	セッション3	ロールプレイ
13:30	13:50	20	ロールプレイ セッション4	セッション4	ロールプレイ
13:50	14:05	15	〔休憩〕 & 〔全体に戻る〕		
14:05	14:35	30	ロールプレイ 全体まとめ		講義形式
14:35	14:45	10	〔休憩〕		
14:45	15:15	30	行政や医療機関の役割について学ぼう		講義形式
15:15	15:45	30	東京都の計画・ピア・サポート活動について(東京都)		講義形式
15:45	16:05	20	2日目のまとめ／質疑応答		講義形式
16:05	16:20	15	閉会あいさつ(閉会あいさつ／事務連絡(次回研修案内)／記念撮影等)		講義形式

V. 都道府県への支援

(20) 群馬県ピア・サポーター養成研修会（予定）

開催日	【1日目】2025年3月10日(月) 10:00～16:10 【2日目】2025年3月11日(火) 10:00～16:10		
開催形式	対面2日間		
開催場所	群馬県庁会議室		
研修内容	養成研修		
受講者 (予定)	ピア・サポーター	19名	
	医療者	4名	
	行政・事務局	行政2名	

プログラム(3月10日(月)1日目)

開始	終了	分	ピア(全体会場)	形式
9:30	10:00	30	受講者受付	講義形式
10:00	10:10	10	開会あいさつ・オリエンテーション	講義形式
10:10	10:20	10	アイスブレイク	講義形式
10:20	10:50	30	ピア・サポートとは	講義形式
10:50	11:00	10	休憩	
11:00	12:00	60	ピア・サポーターの役割と活動指針 (A)ピア・サポートを行うこと(B)守るべきこと (C)活動を振り返り、報告する	講義形式
12:00	13:00	60	昼休憩	
13:00	13:40	40	相手を大切にすること、自分を大切にすること (D)バウンダリーについて (E)ピア・サポーターが知っておくと良い情報	講義形式
13:40	13:50	10	自分の体験を語る(10人×2) ・全体オリエンテーション&グループ移動(10分)	講義形式
13:50	14:30	40	体験を語るAグループ 1周目(3分×10名+α)	体験を語るBグループ 1周目(3分×10名+α)
14:30	14:40	10	休憩	
14:40	15:00	20	体験を語るAグループ 2周目(1分×10名+α)	体験を語るBグループ 2周目(1分×10名+α)
15:00	15:50	50	がん診療の基礎知識と情報提供の注意点	講義形式
15:50	16:00	10	群馬県の取り組み	講義形式
16:00	16:10	10	1日目のまとめ	

プログラム(3月11日(火)2日目)

開始	終了	分	ピア(全体会場)	形式
9:30	10:00	30	受講者受付	講義形式
10:00	10:10	10	オリエンテーション	講義形式
10:10	10:50	40	よりよいコミュニケーションのために	講義形式
10:50	11:00	10	休憩	
11:00	11:40	40	グループファシリテートのために	講義形式
11:40	12:20	40	行政や医療機関の役割について学ぼう	講義形式
12:20	13:20	60	昼休憩	
13:20	15:40	20	オリエンテーション ロールプレイ(4人組×5グループ)	グループごと
15:40	16:00	20	2日目のまとめ/質疑応答	
16:00	16:10	10	まとめ/閉会あいさつ	

(21) 香川県ピア・サポーターフォローアップ研修会(予定)

開催日	2025年3月12日(水) 13:00～17:30	
開催形式	対面1日間	
開催場所	香川県庁 本館12階第3会議室	
研修内容	フォローアップ	
受講者 (予定)	ピア・サポーター	14名
	医療者	8名
	行政・事務局	2名

プログラム (予定)

開始	終了	分	第3会議室	形式
12:45	13:00	15	受講者受付	
13:00	13:05	05	開会のあいさつ	講義形式
13:05	13:10	05	オリエンテーション	講義形式
13:10	13:40	30	講義	講義形式
13:40	13:50	10	休憩	
13:50	14:20	30	意見交換 ●グループディスカッション	グループワーク
14:20	14:50	30	意見交換 ●全体共有	講義形式
14:50	15:00	10	休憩	
15:00	15:15	15	事例検討 ●イントロダクション	講義形式
15:15	15:55	40	事例検討 ●模擬サロンをやってみよう(セッション1)	ロールプレイ
15:55	16:05	10	休憩	
16:05	16:45	40	事例検討: ●模擬サロンをやってみよう(セッション2)	ロールプレイ
16:45	16:55	10	模擬サロンのまとめ、全体の質疑応答	講義形式
16:55	17:00	05	閉会あいさつ、事務連絡、アンケート記入	
17:00	17:30	30	関係者反省会等	

2.都道府県行政との意見交換会、打合せ
(p.8 表1の再掲)

	都道府県	開催日	開催場所	参加者
1	群馬県	令和6年 6月19日	WEB	県出席者:1名 委託事業出席者:1名
2	東京都	7月3日	WEB	都出席者:2名 委託事業出席者:3名
3	千葉県	7月4日	WEB	県出席者:2名 委託事業出席者:2名
4	香川県	7月17日	WEB	県出席者:2名 委託事業出席者:1名
5	大阪府	7月31日	WEB	府出席者:2名 委託先団体:3名 委託事業出席者:2名
6	福井県	7月14日	WEB	県出席者:3名 委託事業出席者:2名
7	奈良県	8月7日	WEB	県出席者:2名 委託事業出席者:2名
8	岡山県	8月9日	WEB	県出席者:2名 委託事業出席者:2名
9	静岡県	8月19日	WEB	県出席者:2名 委託事業出席者:2名

3. ピア・サポーター養成研修のための資料提供、情報提供

委託事業事務局に問い合わせのあった都道府県や都道府県が委託するピア・サポーター養成等を行う団体、また資料に興味を持っていただいた団体や個人へ資料の送付・提供を行った。また、都道府県行政とピア・サポート事業に係る各種相談対応、情報交換を行った。

(1) テキスト、資料提供の内容

- ピア・サポーター養成テキスト2023年度版
- がんサポートプログラム企画の手引き2020年度版
- 自治体/がん診療連携拠点病院等向けピア・サポートを推進するための手引き
- ピア・サポーター養成研修講義動画(DVD)
- ピア・サポーター編・がんサロン編DVD (H23～25：対がん協会作成)

(2) 各種相談対応、情報交換

- 医療者との連携について協議の場の設置の助言、提案
- 養成研修会・フォローアップ研修実施、講師派遣の相談
- 養成研修会・フォローアップ研修会プログラムの相談
- フォローアップ研修の取り組みについての情報交換
- フォローアップ研修の他都道府県の取り組みの紹介

4. 2024年度に行った支援内容・支援先の一覧(2025年2月末時点)

支援内容	都道府県
ピア・サポーター養成研修の実施	埼玉、神奈川、大阪、香川、奈良、徳島、長崎、東京、山口、茨城、高知、群馬 (研修日程順)
ピア・サポーターフォローアップ研修会の実施	埼玉、奈良、栃木、香川 (研修日程順)
行政・医療従事者向け研修会の実施	大阪
意見交換会の実施	群馬、東京、千葉、香川、大阪、福井、奈良、岡山、静岡 (意見交換実施日程順)
テキスト、講義動画等の資料提供	都道府県庁・地域統括相談支援センター(類似組織)・研修委託先団体等 25 か所 北海道、山形、宮城、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、富山、福井、静岡、大阪、三重、兵庫、奈良、鳥取、広島、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、熊本、長崎、沖縄
がん診療連携拠点病院、患者会・個人からの問い合わせ対応、情報交換、資料提供	がん診療連携拠点病院・医療機関等 15 か所 患者会・個人 13 か所

5. 委託事業の5か年の支援(令和元年度～令和6年度)

ピア・サポーター養成研修、フォローアップ研修開催の支援	
養成研修未実施だったが研修会実施に至った。または研修前段階の講演を開いた。	(R2) 長崎 (R3) 栃木 (R4) 栃木、香川 (R5) 神奈川 (R6) 大阪、徳島、東京、山口、高知
研修が中断していたところ養成の再開、標準プログラムでの研修実施に至った	(R1) 三重、奈良 (R5) 埼玉
フォローアップ研修会未実施だったところ研修会実施に至った	(R3) 長崎 (R5) 埼玉、栃木、香川
運営協力を行った(研修プログラムの相談、フォローアップ研修会への講師参加)	(R1) 奈良、宮城、熊本、群馬 (R3) 兵庫、山形、石川 (R4) 茨城 (R5) 兵庫、福岡、茨城 (R6)
標準プログラムの送付を行い、養成研修やフォローアップ研修会実施を支援(テキストの送付、動画提供)	(R2) 秋田、山形、群馬、富山、愛媛、広島、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、沖縄 (R3) 千葉、兵庫、佐賀、熊本、沖縄 (R4) 茨城、福岡、熊本、沖縄、兵庫、群馬 (R5) 青森、富山、福岡、長崎、埼玉、三重、宮城、山形、千葉、兵庫、香川、熊本、沖縄、島根 (R6) 北海道、山形、宮城、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、富山、福井、静岡、大阪、三重、兵庫、奈良、鳥取、広島、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、熊本、長崎、沖縄
医療者との連携・構築支援	
県に対して医療者との連携の必要性、研修会を設けることを助言。拠点病院内の相談員、患者サロン関係者を招集し、講義のみではなく、病院間の情報交換の時間も併せて設けるよう助言した。	
医療者向けの研修、行政・医療者を含めた意見交換会を実施した	(R1) 岩手、山口、沖縄、長崎、群馬、熊本 (R2) 宮城 (R3) 福岡、香川、栃木、長崎、沖縄 (R5) 高知 (R6) 大阪
行政への施策の助言	
各自自治体の個別の問題に対しての助言。(ピア・サポート事業がほとんど進んでいない県に対しては何から取り組み始めるべきかを提案した。すでにピア・サポート事業が行われている県に対しては、医療者との関わりがない県も多く運営体制の見直しなどを助言した)	
行政との意見交換会を実施した	(R1) 福岡、山梨、埼玉、高知、香川、島根、鹿児島 (R3) 高知、栃木 (R4) 宮崎、高知 (R5) 神奈川、栃木、埼玉、群馬、香川、福井、山口、徳島 (R6) 群馬、東京、千葉、香川、大阪、福井、奈良、岡山、静岡
各種相談対応(委託先、患者団体との対応を含む。5年間の集計)	
- 意見交換会等の開催提案、助言 - 他都道府県での取り組みの紹介 - テキスト等資料の送付 - 情報交換	概ね、47 都道府県のがん対策担当者と、情報交換・相談対応を行った。

VI.がん患者に対するピア・サポート体制に関する都道府県調査

改訂委員会 小川 朝生
国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍科 科長

A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基礎的な心理社会的な支援の一形式である。

2023(令和 5)年 3 月にがん対策推進基本計画(第 4 期)が策定され、2024(令和 6)年、各都道府県では、それぞれの都道府県がん対策推進計画が策定された。

本事業では、上記の活動を支援するために、各都道府県への情報提供を行った。その一環として、各都道府県におけるピア・サポート研修の実施状況や行政と医療機関との協力体制に関する現状を把握することを目的に、厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課の協力を得て、各都道府県に対してアンケート調査を実施した。

B. 経過

各都道府県におけるピア・サポート研修や行政と医療機関の協力体制に関する現状を把握す

るため、全都道府県のがん対策の担当部署を対象に、ピア・サポートに関する取組み状況についてのアンケート調査を実施した。

実施時期は 2024 年 5 月 31 日(金)～7 月 28 日(日)で行い、46 の都道府県担当部署より回答を得た。

【概要】

調査方法：WEB フォームを利用したアンケート調査

調査実施期間：2024 年 5 月 31 日(金)～7 月 28 日(日)

調査対象自治体数：全都道府県

回答数：46 (回収率 97.9%)

C. 回答結果

アンケートの各項目の結果は以下の通りであった。

取り組み状況一覧

NO.	都道府県	都道府県がん対策推進計画への記載		協議会や部会での検討の枠組み、拠点病院等の連携			ピアサポーター向け研修会の開催		ピアサポーターのマネジメント体制			
		ピア・サポートや患者サロン等の場に関する取り組み等実施策等の記載	ピア・サポートや患者サロン等の場に関するロジックモデルなどを元にした数値目標の設定	協議会、部会等で都道府県内のピア・サポートについて検討する枠組みがあり、この1年以内で検討があった	がん診療連携拠点病院等で実施する患者サロン同士の連携や情報共有の機会が、この1年以内にあった	ピア・サポーター養成研修会の内容や運営について、がん診療連携拠点病院等と検討する機会がこの1年以内にあった	ピア・サポーター養成研修会の定期的な開催	フォローアップ研修会の定期的な開催	ピア・サポーターの登録制がある	登録されたピア・サポーターに活動の場を提供するための調整をしている	登録されたピア・サポーターの教育、管理などのマネジメントを全般的に行う部署がある	活動の振り返りなどを行い、ピア・サポーターの質の担保の取り組みを行っている
1	北海道	○		○	○	○						
2	青森県	○		○							○	
3	岩手県	○	○									
4	宮城県	○	○	○		○	○	○			○	○
5	秋田県	○		○	○	○	○	○				○
6	山形県	○		○	○		○	○	○	○	○	○
7	福島県	○	○		○		○	○	○	○	○	○
8	茨城県	○	○				○	○				
9	栃木県	○	○			○	○	○	○	○	○	
10	群馬県	○		○				○	○	○	○	○
11	埼玉県	○					○	○	○	○	○	○
12	千葉県	○					○	○	○	○	○	○
13	東京都	○	○	○								
14	神奈川県	○		○	○		○					
15	新潟県											
16	富山県	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
17	石川県	○		○		○	○	○	○	○	○	○
18	福井県	○			○		○					
19	山梨県	○					○	○	○	○	○	○
20	長野県											
21	岐阜県	○		○	○	○						
22	愛知県	○			○		○	○				
23	静岡県	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
24	三重県	○		○			○	○	○	○	○	○
25	滋賀県	○		○	○		○	○	○	○	○	○
26	京都府	○	○		○		○					
27	大阪府	○			○							
28	兵庫県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	奈良県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30	和歌山県	○		○	○							
31	鳥取県	○				○						
32	島根県	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
33	岡山県	○		○	○		○	○				○
34	広島県	○		○			○	○	○	○	○	○
35	山口県	○		○	○	○						
36	徳島県	○	○					○			○	
37	香川県	○					○	○	○	○	○	
38	愛媛県	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
39	高知県	○		○	○							
40	福岡県	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
41	佐賀県	○	○		○		○	○				○
42	長崎県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43	熊本県	○		○	○		○		○	○	○	○
44	大分県	○	○									
45	宮崎県	○	○									
46	鹿児島県	○	○	○			○	○	○	○	○	○
47	沖縄県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		45	21	27	25	14	31	29	23	23	26	25

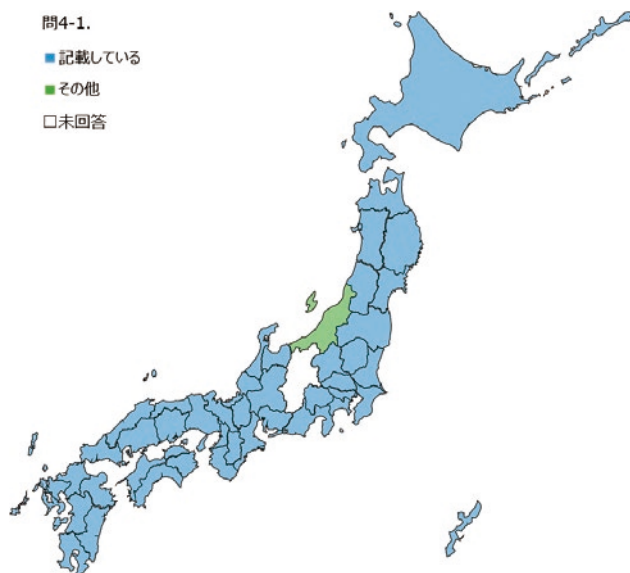
都道府県がん対策推進計画への記載

都道府県がん対策推進計画①：ピア・サポートや患者サロン等の場に関する項目の設定

2024(令和6年)度に策定された第4期都道府県がん対策推進計画において、ピア・サポートや患者サロン等に関して取り組むべき施策等を記載している都道府県は45都道府県だった。

問4-1. 令和6年4月から施行された、都道府県がん対策推進計画の中で、ピア・サポートや患者サロン等の場に関して、取り組むべき施策等を記載していますか。

問4-1	数	割合
1.記載している	45	95.7%
2.その他	1	2.1%
未回答	1	2.1%
総計	47	100.0%

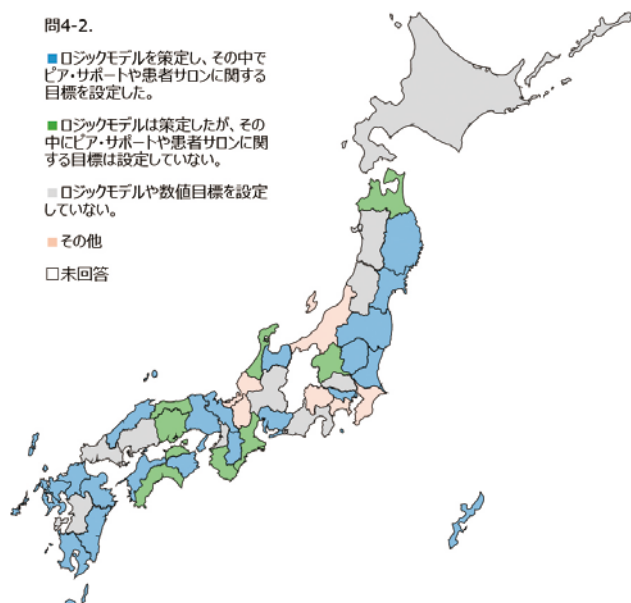


都道府県がん対策推進計画②：ロジックモデル等を活用した数値目標の設定

2024(令和6年)度に策定された第4期都道府県がん対策推進計画において、ピア・サポートや患者サロン等に関する項目に、国の第4期がん対策推進基本計画で示されたロジックモデルを元にした数値目標を設定した都道府県は21都道府県だった。

問4-2. 令和6年4月から施行された都道府県がん対策推進計画の中で、ピア・サポートや患者サロン等の場に関して、国の第4期がん対策推進基本計画で示されたロジックモデルなどを元にした数値目標は設定していますか。

問4-2	数	割合
1.ロジックモデルを策定し、その中でピア・サポートや患者サロンに関する目標を設定した。	21	44.7%
2.ロジックモデルは策定したが、その中にピア・サポートや患者サロンに関する目標は設定していない。	9	19.1%
3.ロジックモデルや数値目標を設定していない。	10	21.3%
4.その他	6	12.8%
未回答	1	2.1%
総計	47	100.0%



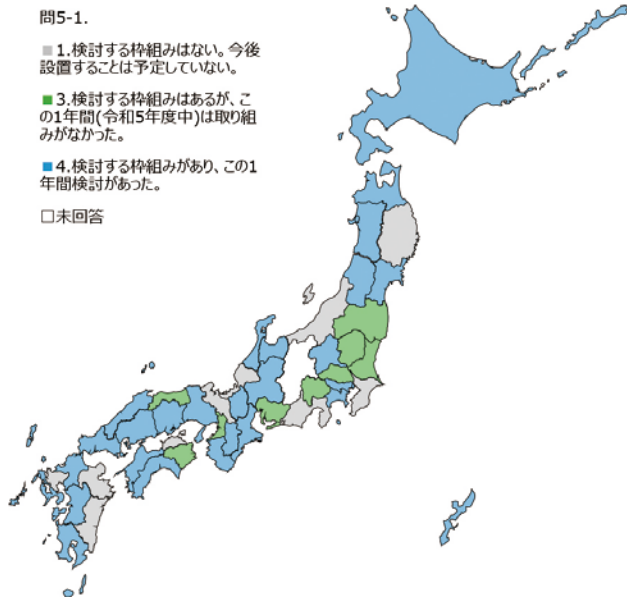
ピア・サポート普及に向けた協議会や部会等の枠組み、拠点病院等の連携

都道府県がん診療連携協議会・部会、拠点病院等との連携①：ピア・サポート全般についての検討状況

都道府県のがん診療連携協議会等の場で、ピア・サポートについて、検討する枠組みがありこの1年間(2023(令和5)年度中)に検討があった都道府県は27都道府県だった。検討する枠組みはない都道府県が10都道府県だった。

問5-1. 都道府県がん診療連携協議会、部会等で都道府県内のピア・サポートについて検討する枠組みはお持ちですか。

問5-1	数	割合
1. 検討する枠組みはない。今後設置することは予定していない。	10	21.3%
2. 現時点では検討する枠組みはないが、新しく設置することを検討している。	0	0%
3. 検討する枠組みはあるが、この1年間 は取り組みがなかった。	9	19.1%
4. 検討する枠組みがあり、この1年間検討があった。	27	57.4%
未回答	1	2.1%
総計	47	100.0%

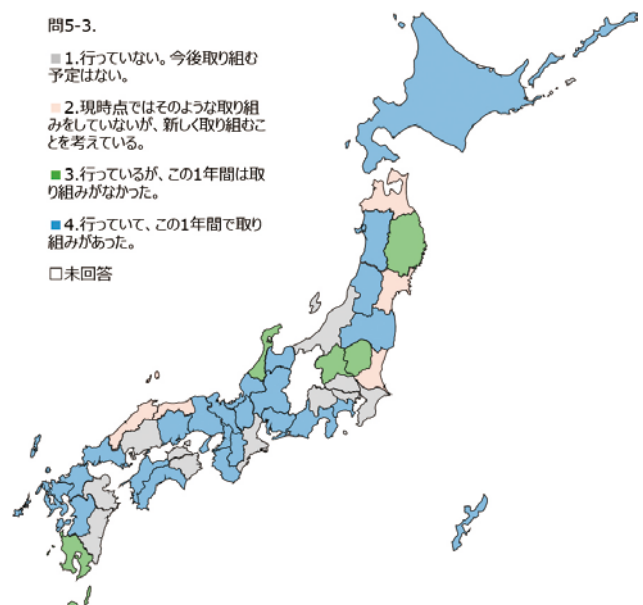


都道府県がん診療連携協議会・部会、拠点病院等との連携②：拠点病院で開催される患者サロンの連携や情報共有の機会

患者サロン同士の連携の場や情報共有を行っている都道府県は 25 都道府県ある一方、定期的な取り組みはしていない都道府県が 11 都道府県だった。

問 5-3. がん診療連携拠点病院等で実施する患者サロン同士の連携や情報共有は行っていますか。この 1 年間の取り組みについて教えてください。

問 5-3	数	割合
1.行っていない。今後取り組む予定はない。	11	23.4%
2.現時点ではそのような取り組みをしていないが、新しく取り組むことを考えている。	5	10.6%
3.行っているが、この 1 年間は取り組みがなかった。	5	10.6%
4.行っていて、この 1 年間で取り組みがあった。	25	53.2%
未回答	1	2.1%
総計	47	100%



都道府県がん診療連携協議会・部会、拠点病院等との連携③：ピア・サポーター養成研修会の内容を拠点病院と検討する機会

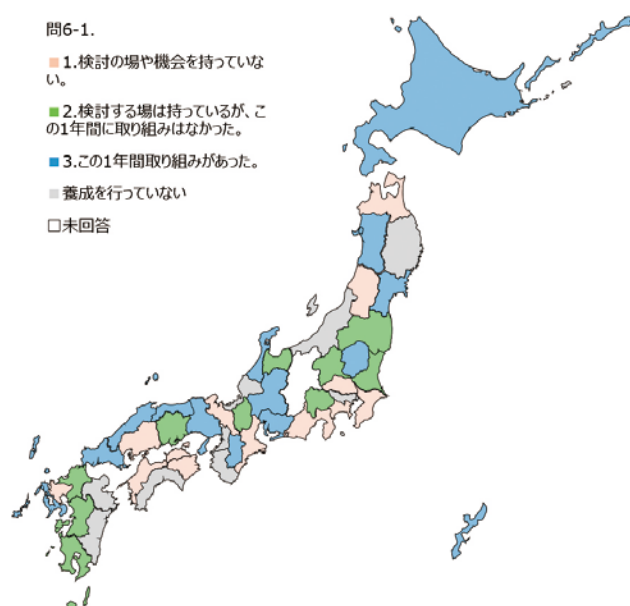
ピア・サポーター養成研修会を実施したことがある37都道府県のうち、この1年間(2023(令和5)年度中)にピア・サポーターの養成研修会のプログラム等に関し、がん診療連携拠点病院の医療従事者と検討した都道府県は14都道府県だった。

検討の場はあるものの、この1年間のうちで取り組みがなかった都道府県は10都道府県であった。養成をしていない、あるいは検討の場や機会のない都道府県は13都道府県だった。

問6-1 ピア・サポーター養成研修会の内容や運営について、がん診療連携拠点病院等と検討する機会をお持ちですか。

問6-1	数	割合
1.検討の場や機会を持っていない。	13	35.1%
2.検討する場は持っているが、この1年間に取り組みはなかった。	10	27.0%
3.この1年間取り組みがあった。	14	37.8%
総計	37	100.0%

※これまでピア・サポーターの養成を行ったことがある都道府県への質問



ピア・サポーター向け研修会の実施

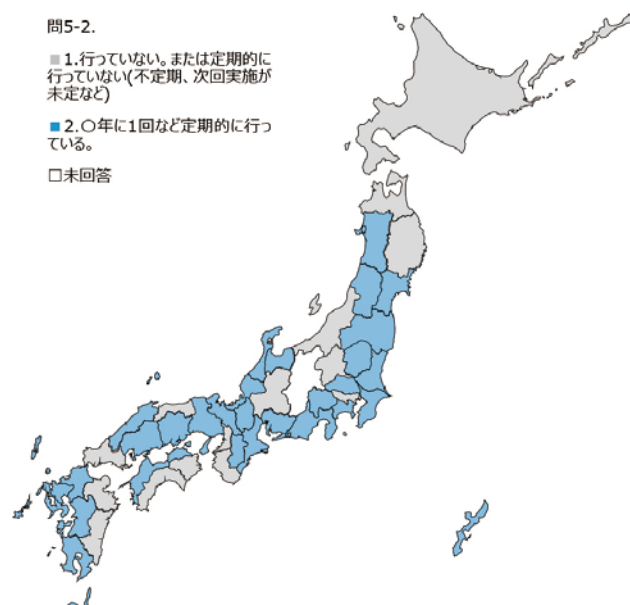
ピア・サポーター向け研修会の実施①：ピア・サポーター養成研修会の開催状況

ピア・サポーターの養成を目的とした研修会を、定期的に行っている都道府県は31都道府県あった。定期的な開催はしていない都道府県は15都道府県だった。

問5-2. ピア・サポーター養成研修会は定期的に行っていますか。この1年での取り組みについて教えてください。

問5-2	数	割合
1.行っていない。または定期的に行っていない(不定期、次回実施が未定など)	15	31.9%
2.〇年に1回など定期的に行っている。	31	66.0%
未回答	1	2.1%
総計	47	100.0%

問5-2 養成研修会の実施主体	数
都道府県	11
委託先の団体	17
その他の団体	3



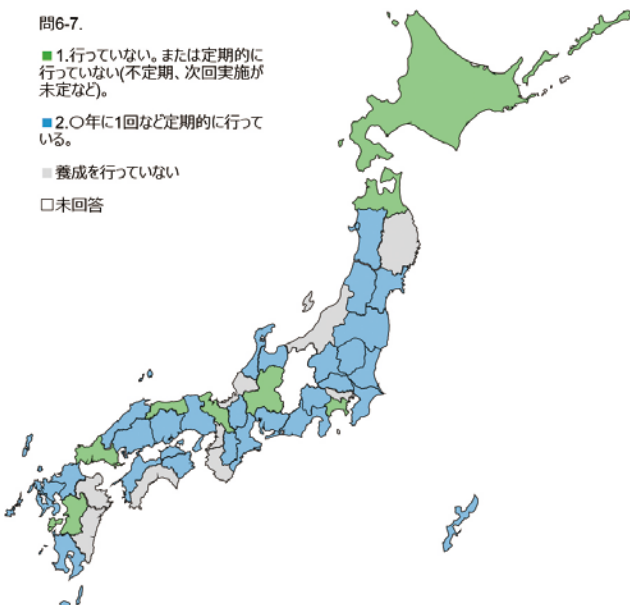
ピア・サポーター向け研修会の実施②：フォローアップ研修会の定期的な開催

ピア・サポーター養成研修会を実施したことがある 37 都道府県のうち、ピア・サポートの質を担保するためのフォローアップ研修を実施している都道府県は 29 都道府県だった。

問 6-7. フォローアップ研修会は定期的に行っていますか。

問 6-7	数	割合
1.行っていない。または定期的に行っていない(不定期、次回実施が未定など)。	8	21.6%
2.〇年に 1 回など定期的に行っている。	29	78.4%
総計	37	100.0%

※これまでピア・サポーターの養成を行ったことがある都道府県への質問



ピア・サポーターのマネジメント体制

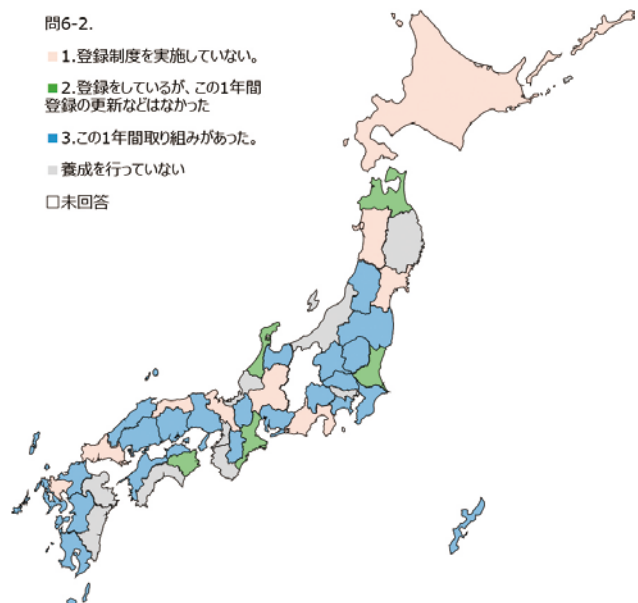
ピア・サポーターのマネジメント体制①：ピア・サポーターの登録体制

ピア・サポーター養成研修会を実施したことがある 37 都道府県のうち、ピア・サポーターの養成後のマネジメントの基本となる登録制度について、登録制度を取っているのは 28 都道府県、そのうちこの 1 年間で取り組みがあった都道府県は 23 都道府県だった。

問 6-2. ピア・サポーターの登録制度はありますか。

問 6-2	数	割合
1.登録制度を実施していない。	9	24.3%
2.登録をしているが、この 1 年間登録の更新などはなかった。	5	13.5%
3.この 1 年間取り組みがあった。	23	62.2%
総計	37	100.0%

※これまでピア・サポーターの養成を行ったことがある都道府県への質問



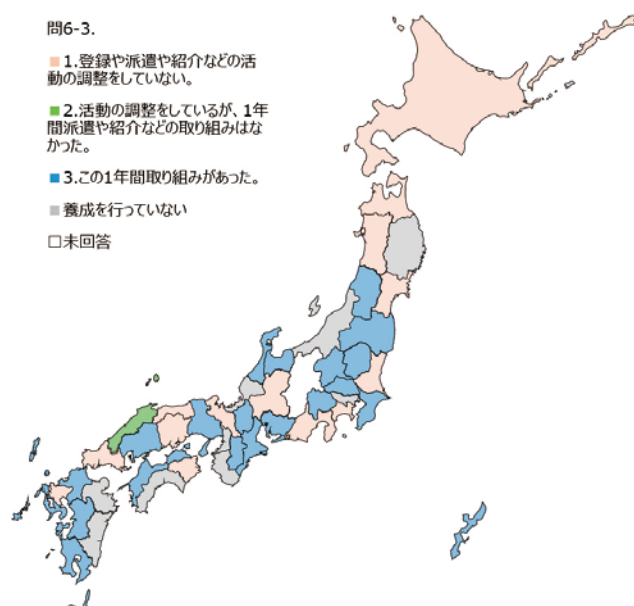
ピア・サポーターのマネジメント体制②：ピア・サポーターの活動場所の調整

ピア・サポーター養成研修会を実施したことがある37都道府県のうち、養成したピア・サポーターをがん診療連携拠点病院等へ派遣する等のマネジメントを行った都道府県は22都道府県だった。

問6-3. 登録されたピア・サポーターに活動の場を提供するための調整は行っていますか(例：患者サロンへの派遣、紹介など)。

問6-3	数	割合
1.登録や派遣や紹介などの活動の調整をしていない。	14	37.8%
2.活動の調整をしているが、1年間派遣や紹介などの取り組みはなかった。	1	2.7%
3.この1年間取り組みがあった。	22	59.5%
総計	37	100.0%

※これまでピア・サポーターの養成を行ったことがある都道府県への質問



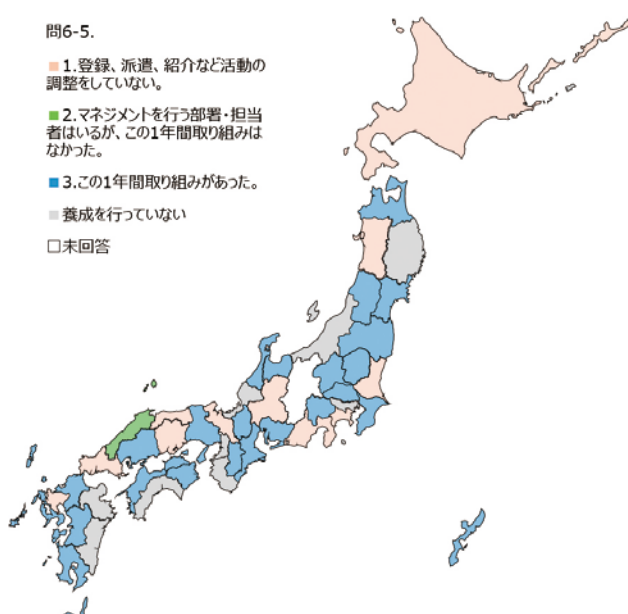
ピア・サポーターのマネジメント体制③：ピア・サポーターの教育、管理などのマネジメント部署

ピア・サポーター養成研修会を実施したことがある37都道府県のうち、ピア・サポーターの養成から活用までを担う部署を定めている都道府県は26都道府県であった。そのうち2023（令和5）年度内に取り組みを行った県は、25都道府県だった。

問6-5 登録されたピア・サポーターの教育、管理などのマネジメントを全般的に行う部署・担当者(もしくは行政以外の他機関)は定まっていますか。

問6-5	数	割合
1.登録、派遣、紹介など活動の調整をしていない。	11	29.7%
2.マネジメントを行う部署・担当者はいりますが、この1年間取り組みはなかった。	1	2.7%
3.この1年間取り組みがあった。	25	67.6%
総計	37	100.0%

※これまでピア・サポーターの養成を行ったことがある都道府県への質問



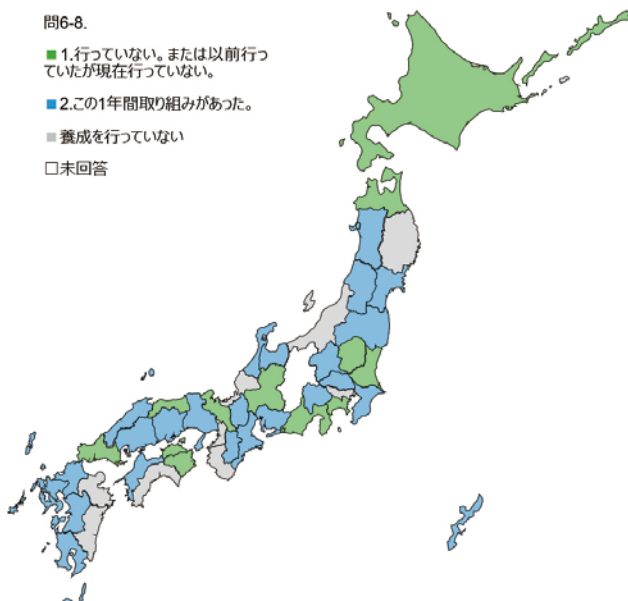
ピア・サポーターのマネジメント体制④：活動の振り返り、質の担保への取り組み

ピア・サポートの質を維持・向上させる活動後の振り返りの機会を作ることは重要である。ピア・サポーター養成研修会を実施したことがある 37 都道府県のうち、質の担保に取り組む活動を行った都道府県は 25 都道府県だった。

問 6-8. 活動の振り返りなどを行い、ピア・サポーターの質の担保に取り組んでいますか。

問 6-8	数	割合
1.行っていない。または以前行っていたが現在行っていない。	12	32.4%
2.この1年間取り組みがあった。	25	67.6%
総計	37	100.0%

※これまでピア・サポーターの養成を行ったことがある都道府県への質問



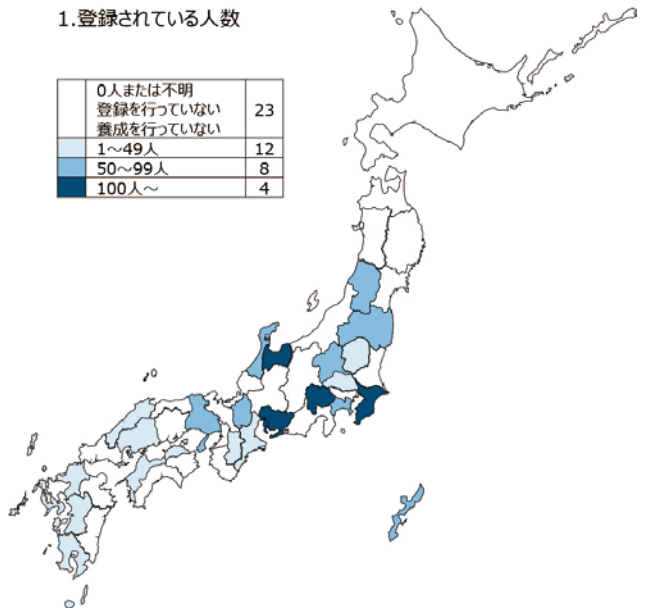
ピア・サポーターの活動状況①：登録しているピア・サポーターの数、活動可能なピア・サポーターの数活動しているピア・サポーターの人数

ピア・サポーターの登録制度を持っている県において、登録されている人数、そのうち実際に活動している人数については、都道府県ごとの制度の違いはあるものの、100 名以上登録されている都道府県もあった。

1. 登録されているピア・サポーターの数
2. 登録されているピア・サポーターのうち、活動可能なピア・サポーターの数
3. 令和 5 年度中にがん診療連携拠点病院内で活動をしたピア・サポーターの人数

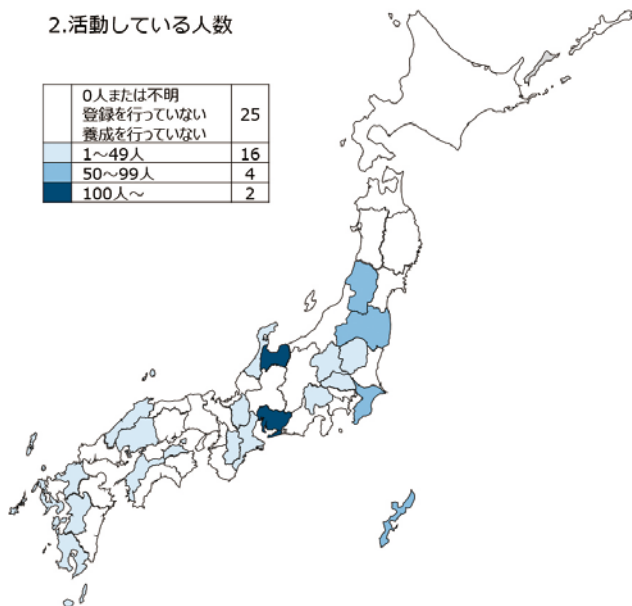
1.登録されている人数

0人または不明 登録を行っていない 養成を行っていない	23
1～49人	12
50～99人	8
100人～	4



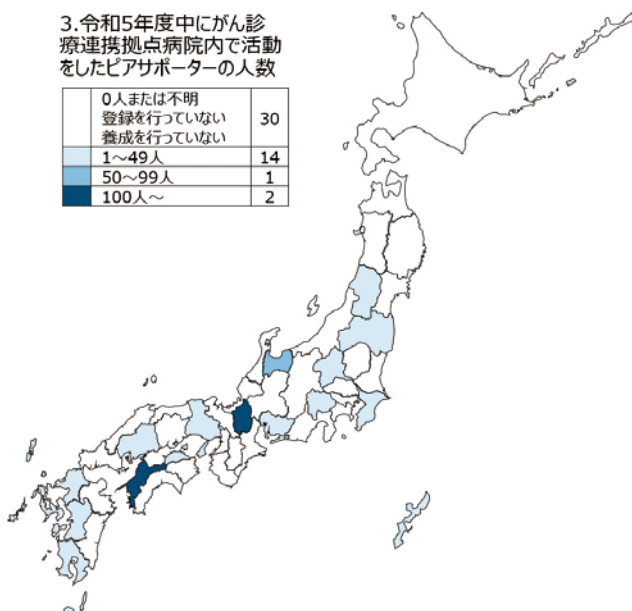
2.活動している人数

0人または不明 登録を行っていない 養成を行っていない	25
1～49人	16
50～99人	4
100人～	2



3.令和5年度中にごん診療連携拠点病院内で活動をしたピアサポーターの人数

0人または不明 登録を行っていない 養成を行っていない	30
1～49人	14
50～99人	1
100人～	2



ピア・サポーターの活動状況②：ピア・サポーターの活動場所

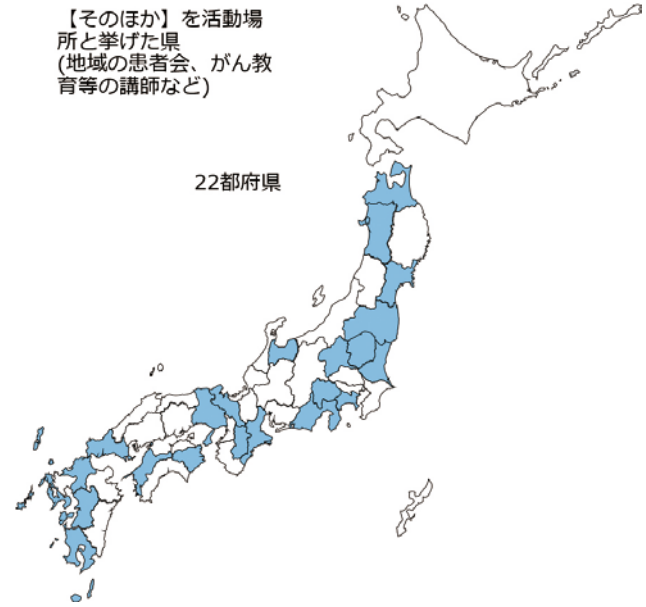
ピア・サポーターが活動する場として、がん診療連携拠点病院等を挙げた都道府県は 32 都道府県、都道府県庁等の公共の場を挙げたのは 5 都道府県、オンライン上を挙げたのは 12 都道府県だった。

活動場所	数
1.がん診療連携拠点病院等の医療機関	32
2.都道府県庁等の公的機関	5
3.オンライン上	12
4.地域の患者会、患者支援団体	22

【がん診療連携拠点病院】が活動場所と挙げた県

32都府県





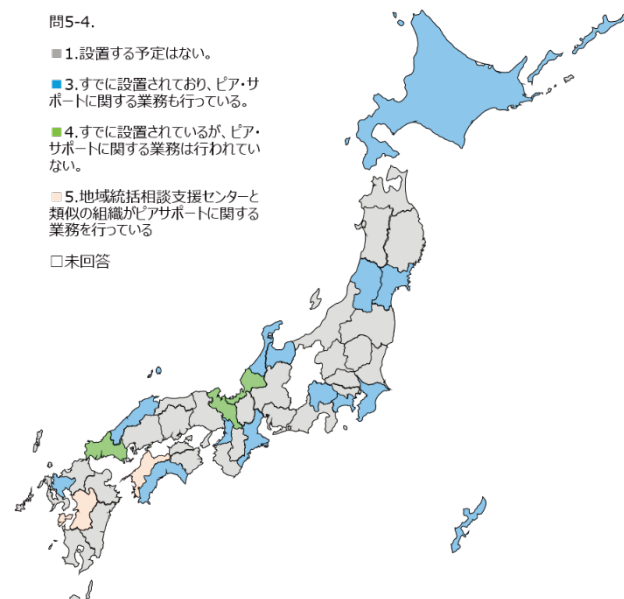
地域統括相談支援センター

地域統括相談支援センターの設置状況

ピア・サポーターの養成等マネジメントを担ううえで活用の望まれる地域統括相談支援センターについて、設置している都道府県は 16 都道府県あった（表 11）。そのうち 13 都道府県はピア・サポートに関する業務も行っていた。

問 5-4. 地域統括相談支援センターを設置する予定はありますか。

問 5-4	数	割合
1.設置する予定はない。	28	59.6%
2.設置する予定がある。	0	0.0%
3.すでに設置されており、ピア・サポートに関する業務も行っている。	13	27.7%
4.すでに設置されているが、ピア・サポートに関する業務は行われていない。	3	6.4%
5.地域統括相談支援センターと類似の組織がピア・サポートに関する業務を行っている。	2	4.3%
未回答	1	2.1%
総計	47	100.0%



D. 考察

今回、自治体のがん対策担当部署を対象に、ピア・サポートに関する取組みの状況をたずね、46 都道府県より回答を得た。

都道府県がん対策推進計画でピア・サポートや患者サロンに関して目標を取り組むべき施策等を記しているのは 45 都道府県 (95.7%) で、ロジックモデルをもとにした数値目標を検討している都道府県は 21 都道府県 (44.7%) であった。

都道府県がん診療連携協議会等で定期的にピア・サポートに関する検討が行われているのは、27 都道府県 (57.4%) であった。またピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した 37 都道府県のうち、養成研修の内容を拠点病院等とこの 1 年間で検討する機会があったのは 14 都道府県 (37.8%) であった。

がん診療連携拠点病院内の患者サロン同士の連携や情報共有が定期的に行われているのは 25 都道府県 (53.2%) であった。

ピア・サポーター養成研修会が定期的に開催されているのは 31 都道府県 (66.0%) であった。

ピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した 37 都道府県のうち、養成したピア・サポーターを対象に登録制度を取っているのは 28 都道府県 (75.7%)、ピア・サポーター活動の調整を行っているのは 23 都道府県 (62.2%) であった。登録され

たピア・サポーターのマネジメントを担う部署等が決まっているのは 26 都道府県 (70.3%) であった。

フォローアップ研修を定期的開催しているのは、ピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した 37 都道府県のうち 29 都道府県 (78.4%)、活動する都度振り返りを行っている体制を整備しているのは 25 都道府県 (67.6%) であった。

ピア・サポートの養成・活用には、自治体と医療機関との密な連携のもとに、目標の設定と事業の遂行が求められる。第4期がん対策推進基本計画のもと、各都道府県のがん対策推進計画には、ピア・サポートに関しても記述された一方、ロジックモデル等の具体的な目標を設定した都道府県はおよそ半数弱に留まった。また、都道府県がん診療連携協議会等のもとに、ピア・サポートの養成や継続研修、活用について定期的に検討する場をもつ都道府県は、第4期がん対策推進基本計画の策定後でも 6 割程度であった。がん対策において、各都道府県において、両者の関与が重要となる領域では、地域の実情や方向性について客観的なデータに基づく共通認識を持ち、地域のニーズに合った実施体制を組むことが重要である。あわせて、ピア・サポートの活動を推進するために、研修プログラムに沿った研修を実施すると共に、継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制についても構築する必要がある。都道府県の取り組みを共有し、地域の実情にあわせた体制整備を進めることが望まれる。

表 11 地域統括相談支援センター一覧

		地域統括相談支援センター	ピア・サポートに関する業務の実施
1	北海道	北海道がん総合相談支援センター（北海道がんセンター内）	○
2	宮城県	宮城県がん総合支援センター（宮城県対がん協会）	○
3	山形県	山形県がん総合相談支援センター（公益財団法人やまがた健康推進機構）	○
4	千葉県	千葉県地域統括相談支援センター(千葉県がんセンター)	○
5	富山県	富山県がん総合相談支援センター	○
6	石川県	石川県がん安心生活サポートハウス がんサロンつどい場はなうめ（石川県社会福祉会館）	○
7	福井県	地域のがんサロン ヨリドコ	
8	山梨県	山梨県がん患者サポートセンター（山梨県健康管理事業団内）	○
9	三重県	三重県がん相談支援センター（三重県津庁舎内）	○
10	京都府	京都府がん総合相談支援センター	
11	大阪府	大阪府がん患者サポートセンター（特定非営利活動法人つながりひろば内）	○
12	島根県	島根県がん患者・家族サポートセンター（島根大学医学部）	○
13	山口県	山口県がん総合相談窓口（公益社団法人山口県看護協会）	
14	高知県	がん相談センターこうち（こうち男女参画センター「ソーレ」）	○
15	佐賀県	佐賀県がん総合支援センター さん愛プラザ（（公財）佐賀県健康づくり財団内）	○
16	沖縄県	沖縄県地域統括相談支援センター（琉球大学病院がんセンター内）	○

表 12 各都道府県のがん対策推進計画におけるピア・サポート、患者サロンに関する記載

番号	都道府県	がん対策推進計画におけるピア・サポート、患者サロンに関する記載
1	北海道	・拠点病院、地域の病院や患者団体等と連携し、がん患者の不安や悩みを軽減するため、身近な地域でピア・サポートが受けられる環境の整備を促進する ・拠点病院等における患者サロンの設置の促進に取り組む ・国等のピア・サポーターの研修プログラム等を踏まえ、患者団体や拠点病院等と連携し、ピア・サポートや患者サロンで活動している患者や経験者の相談技術の質の向上を促進する
2	青森県	
3	岩手県	県内のピア・サポートの普及、県内の拠点病院における相談支援体制の充実を目指すもの 現状値 4 施設目標値 10 施設
4	宮城県	病院や地域において患者会・サロン等が開催され、がん経験者からの情報提供等が得られる体制整備。ピア・サポーターが育成され、患者会やサロン等にて活動できる体制の整備ロジックモデル（宮城県の HP を参照）
5	秋田県	県及び拠点病院等は、がん患者がピア・サポートについて知り、希望した時に同じ体験を持つ人との交流ができるよう、ピア・サポートの活動支援を行うとともに、がん患者団体と協力してがんサロン等の活動を周知します。
6	山形県	がん患者・経験者との協働を進め、ピア・サポートを推進
7	福島県	ピア・サポートを知っているがん患者の割合 ピア・サポートを利用したことがある人が役に立ったと感じるがん患者の割合
8	茨城県	令和 11 年度目標ピア・サポーター養成研修受講者数：24 名 ピア・サポーターの協力を得て相談を実施連携しているがん相談支援センターの数：県内のがん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、茨城県がん診療指定病院の 17 医療機関全てに設置 患者サロンの設置医療機関数：県内のがん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、茨城県がん診療指定病院の 17 医療機関全てに設置
9	栃木県	県が養成するピア・サポーター数を増やすがん診療連携拠点病院等で開催される年間のがんサロンの回数を計画策定時（28 回）より増加させる
10	群馬県	
11	埼玉県	
12	千葉県	【施策】・がん経験者等の参画による相談支援の充実
13	東京都	・ピア・サポーターの提供推進都においてピア・サポーターの養成研修に取り組み、研修を修了したピア・サポーターの情報を分かりやすい形で拠点病院等（成人・小児）に対して情報提供することにより、質の担保と活動機会の提供の実現を図ります。 ・患者サロンの開催支援国拠点病院・地域がん診療病院・都拠点病院における患者サロンの開催を推進するために、都は、東京都がん診療連携協議会と連携し、好事例の共有等を行うとともに、必要な環境整備を支援します。 ・開催情報の発信強化ピア・サポート及び患者サロンの開催情報を東京都がんポータルサイトで分かりやすく発信するとともに、拠点病院等（成人・小児）と連携し、がん相談情報センター

		による案内も推進します。
14	神奈川県	
15	新潟県	
16	富山県	県がん総合相談支援センターと関係機関との連携により、今後とも患者とその家族がより相談しやすい環境となるよう取り組みが必要がある。またがん患者等の不安や悩みに寄り添うピア・サポーターの養成・フォローアップや、がん予防推進員の育成も必要である。
17	石川県	相談・情報提供の充実＞（参考指標）ピア・サポーター養成人数
18	福井県	
19	山梨県	
20	長野県	
21	岐阜県	
22	愛知県	
23	静岡県	「国・県指定病院等 1 施設当たりの連携している患者団体の数」「国・県指定病院等 1 施設当たりの体験を語り合う場の開催数」
24	三重県	
25	滋賀県	がん患者団体連絡協議会主催のサロンの継続
26	京都府	・がん患者とその家族等を含む府民が、がん対策の重要性を認識し、がん医療に関する正しい理解を得て、医療従事者とも連携しながら、がん対策に主体的に参画する社会の実現。 ・ピア・サポーター養成講座の開催（毎年） ・病院等での患者サロンにおけるピア・サポーター養成講座の修了者の活用推進（目標 25 名）
27	大阪府	
28	兵庫県	ピア・サポーター知っているがん患者の割合
29	奈良県	がん患者サロンの月間平均回数の増加、ピア・サポーター登録者数の増加、がん患者サロンの利用者数の増加
30	和歌山県	（取り組みべき施策）県は、がん患者がピア・サポーター等からの支援を受けやすくなるように、情報提供などの取組を行います。
31	鳥取県	
32	島根県	・ピア・サポート利用者満足度 ・ピア・サポーター養成研修、フォローアップ研修受講者数
33	岡山県	がん患者に寄り添ったピア・サポート活動ができるよう、スキルアップ研修会等を開催し、ピア・サポーターの資質向上を図るとともに、拠点病院等と連携しグリーフケアの在り方について検討する。
34	広島県	
35	山口県	

36	徳島県	【がんとの共生】個別施策拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築指標患者団体等と連携している拠点病院の数（現況報告） 個別施策相談支援等に携わる者からピア・サポーター等につなげるための仕組みの構築指標ピア・サポーター研修の開催回数（健康寿命推進課）
37	香川県	・県は、ピア・サポートに関する研修会（養成、フォローアップ）を開催し、ピア・サポート活動に関心を持つ人が増えるように取り組むとともに、ピア・サポーターの確保に努める。 ・県及びがん診療連携拠点病院等は、患者同士の体験共有や相談、情報提供ができるがんサロン等の場をより充実させるため、がん患者会等の民間団体やピア・サポーター等との連携を図る。
38	愛媛県	ピア・サポーターの養成数 ピア・サポーターについて知っているがん患者の割合 ピア・サポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合
39	高知県	
40	福岡県	＜今後の取組＞ピア・サポーターの養成に引き続き取り組みとともに、拠点病院等と連携し、患者サロン等の場におけるピア・サポーターの活用促進や、相談のアクセシビリティ向上に向けたオンライン開催可能な環境の整備等、がん患者や家族等が相談しやすい環境づくりに努める。 ＜取組に対する評価指標＞ ・ピア・サポート認知割合（患者体験調査）・養成者数（県独自調査）・養成されたピア・サポーターの活動数（県独自調査）・拠点病院等のピア・サポーター等の活動がオンライン環境で開催できる施設割合（拠点病院現況報告書）
41	佐賀県	・各相談支援センターが認知され、相談・支援が提供される体制を整える。 ・ピア・サポーター養成研修の受講者数を、本計画期間中で延べ60人以上とする。
42	長崎県	県・拠点病院が取り組むべき施策：相談支援等に携わる者が、がん患者とピア・サポーター等をつなげる体制の推進（アウトプット指標：ピア・サポーター活動数） 中間アウトカム：ピア・サポートががん患者に広く知られている指標：ピア・サポートを知っているがん患者の割合（データソース：患者体験調査）
43	熊本県	取り組むべき施策に「がんサロンの普及・定着とピア・サポートの充実」を記載している。
44	大分県	・ピア・サポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合 ・ピア・サポーターについて知っているがん患者の割合
45	宮崎県	数値目標を設定：ピア・サポーターについて知っているがん患者の割合（患者体験調査） 目標値：全国平均以上
46	鹿児島県	36 患者サロンにおいてピア・サポーターを活用している拠点病院等の数 4 医療機関（R5）→8 医療機関（R11）
47	沖縄県	・がんピア・サポートの充実を図る。・がん診療を行う医療機関及びがん患者団体のがん患者サロン等におけるがんピア・サポート活動を推進する。

Ⅶ. がん患者に対して提供できるピア・サポート体制の がん診療連携拠点病院等の現状調査

改訂委員会 小川 朝生

国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍科 科長

A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基礎的な心理社会的な支援の一形式である。

がん対策推進基本計画(第4期)では、「拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築について検討する」「相談支援の一層の充実を図るため、ICTや患者団体、社会的人材リソースを活用し、必要に応じて地方公共団体等の協力が得られる体制整備の方策について検討する」

「国は、がん患者がピア・サポーター等からの支援を受けやすくなるよう、相談支援等に携わる者からピア・サポーター等につなげるための仕組みについても検討する」と記載され、がん診療連携拠点病院と地域の支援団体との連携の強化が盛り込まれた。また、がん診療連携拠点病院の整備指針では、患者サロン等においてピア・サポートの積極的な活用があがっている。

これらの現状を踏まえ、がん診療連携拠点病院等における患者団体等の民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の実態を把握することを目的に、がん診療連携拠点病院に対してアンケート調査を実施した。

B. 経過

各都道府県庁がん対策基幹課から各都道府県内の国指定がん診療連携拠点病院へ調査協力依頼を伝達いただき、民間団体(患者団体、患者支援団体)との関わり、ピア・サポート活動に関する取組み状況についての自記式アンケート調査を実施した。

実施時期は2024年5月31日～8月31日で行い、285の国指定がん診療連携拠点病院より回答を得た。

【概要】

- ・調査方法：ウェブフォームを利用したアンケート調査
- ・調査実施期間：2024年5月31日～8月31日
- ・調査対象数：国指定がん診療連携拠点病院461か所
※各都道府県庁がん対策基幹課から各都道府県内の拠点病院へ調査協力依頼を行った。
- ・回答数：285 (回収率 61.8%)

C. 回答結果

アンケートの各項目の結果は以下の通りであった。

回答数（参考）

	回答数	国指定拠点 病院の数	回答率
北海道	15	22	68%
青森県	3	5	60%
岩手県	6	10	60%
宮城県	4	8	50%
秋田県	2	10	20%
山形県	4	6	67%
福島県	0	7	0%
茨城県	6	10	60%
栃木県	5	8	63%
群馬県	7	9	78%
埼玉県	12	14	86%
千葉県	10	16	63%
東京都	23	30	77%
神奈川県	21	23	91%
新潟県	7	9	78%
富山県	3	5	60%
石川県	3	5	60%
福井県	0	5	0%
山梨県	1	4	25%
長野県	0	12	0%
岐阜県	7	9	78%
静岡県	7	13	54%
愛知県	19	19	100%
三重県	1	5	20%
滋賀県	4	7	57%
京都府	0	13	0%
大阪府	15	18	83%
兵庫県	11	18	61%
奈良県	6	6	100%
和歌山県	5	6	83%
鳥取県	1	3	33%

島根県	0	5	0%
岡山県	6	10	60%
広島県	10	12	83%
山口県	6	8	75%
徳島県	2	5	40%
香川県	5	5	100%
愛媛県	7	8	88%
高知県	0	4	0%
福岡県	18	24	75%
佐賀県	0	4	0%
長崎県	5	6	83%
熊本県	6	7	86%
大分県	1	6	17%
宮崎県	2	3	67%
鹿児島県	7	13	54%
沖縄県	2	6	33%
合計	285	461	62%

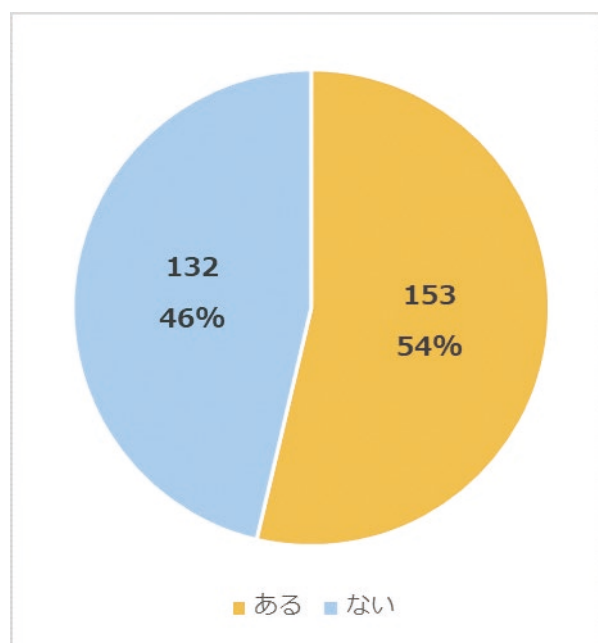
民間団体(患者団体、患者支援団体)との連携

1. 院内に民間団体(患者団体、患者支援団体)との連携を話し合ったり検討したりする枠組みの有無

院内における民間団体（患者団体や患者支援団体）との連携やそのあり方を話し合う枠組みがある施設は53.7%（153施設）だった。

問 1. 院内に民間団体(患者団体、患者支援団体)との連携やそのあり方について話し合ったり検討したりする枠組みはありますか。

問 1	数	割合
ある	153	53.7%
ない	132	46.3%
総計	285	100.0%

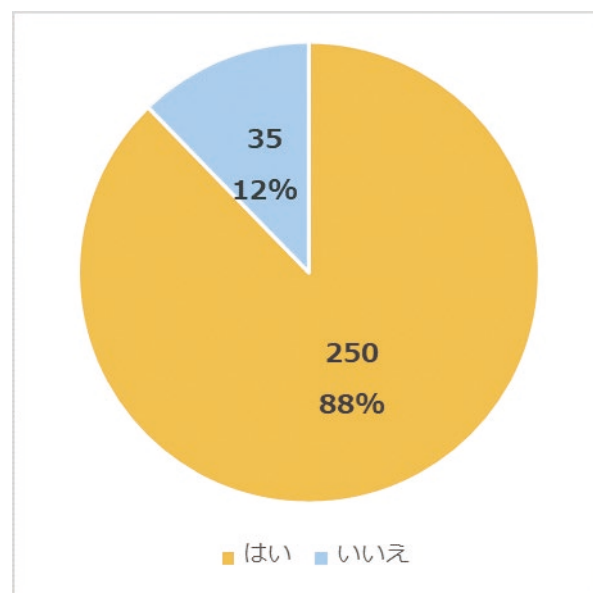


2. 院内における民間団体(患者団体、患者支援団体)のチラシやパンフレットの配置

院内において民間団体（患者団体や患者支援団体）のチラシやパンフレットを置き、来院者が自由に手に入れるようにしている施設は87.7%（250施設）だった。

問 2. 院内に民間団体(患者団体、患者支援団体)のチラシやパンフレットを置き、来院者が自由に手に入れるようにしていますか。

問 2	数	割合
はい	250	87.7%
いいえ	35	12.3%
総計	285	100.0%

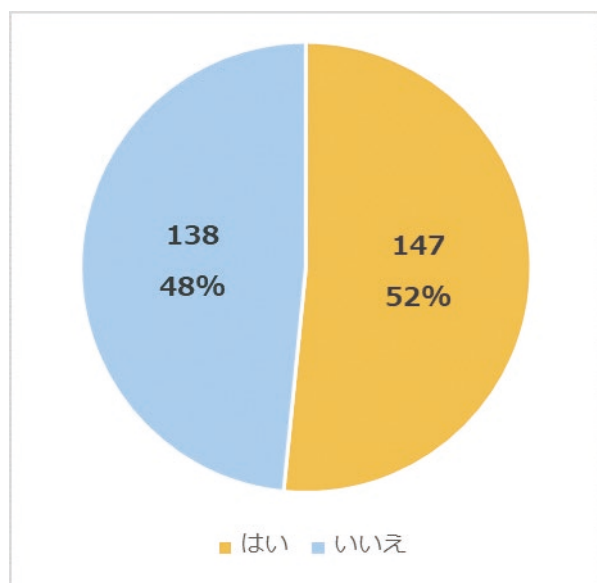


3. 院内における民間団体(患者団体、患者支援団体)のポスターの掲示

院内において民間団体(患者団体や患者支援団体)のポスターを掲示しているのは147施設(51.6%)だった。

問 3. 院内に民間団体(患者団体、患者支援団体)のポスターを掲示していますか。

問 3	数	割合
はい	147	51.6%
いいえ	138	48.4%
総計	285	100.0%

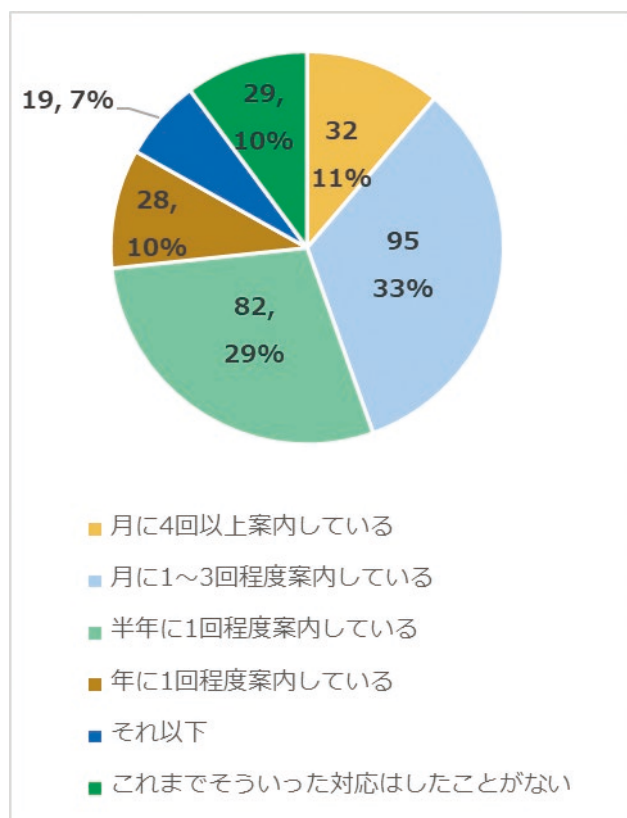


4. がん相談支援センター相談員から来院者への民間団体(患者団体、患者支援団体)を案内する頻度

相談員が来院者に、民間団体(患者団体や患者支援団体)を案内する頻度は、「月に1〜3回程度案内している」がもっとも多く、95施設(33.3%)だった。

問 4. がん相談支援センター相談員が来院者に、民間団体(患者団体、患者支援団体)を案内していますか。

問 4	数	割合
月に4回以上案内している	32	11.2%
月に1〜3回程度案内している	95	33.3%
半年に1回程度案内している	82	28.8%
年に1回程度案内している	28	9.8%
それ以下	19	6.7%
これまでそういった対応はしたことがない	29	10.2%
総計	285	100.0%

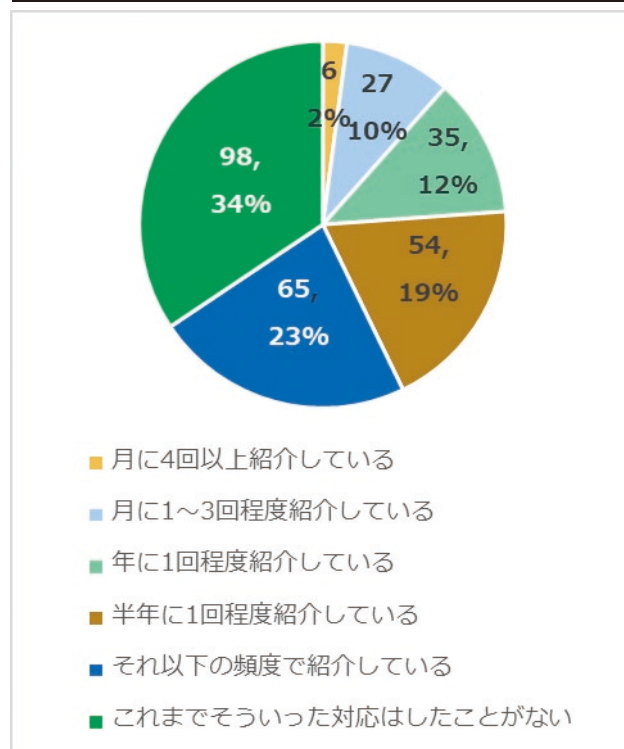


5. がん相談支援センター相談員から来院者への民間団体(患者団体、患者支援団体)を対応の引き継ぎの有無、頻度

相談員が民間団体(患者団体や患者支援団体)の窓口や担当者に対応を引き継ぐことは、「これまでそういった対応はしたことがない」と回答したのは98施設(34.4%)だった。

問 5.がん相談支援センター相談員が、民間団体(患者団体、患者支援団体)の窓口・担当者に来院者を紹介し、対応を依頼したり引き継いだりすることはありますか。

問 5	数	割合
月に4回以上紹介している	6	2.1%
月に1～3回程度紹介している	27	9.5%
半年に1回程度紹介している	54	18.9%
年に1回程度紹介している	35	12.3%
それ以下の頻度で紹介している	65	22.8%
これまでそういった対応はしたことがない	98	34.4%
総計	285	100.0%



6. がん相談支援センターと民間団体(患者団体、患者支援団体)との、定期的な連絡や情報交換の機会の設定

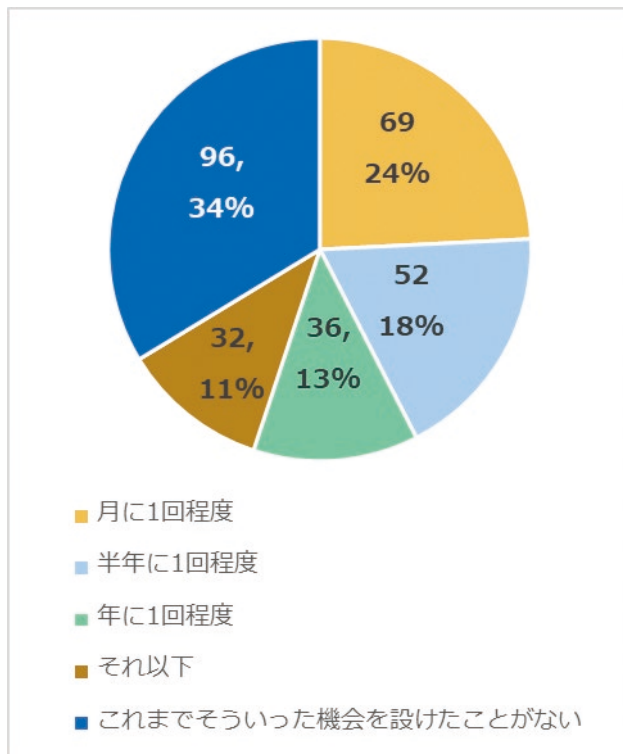
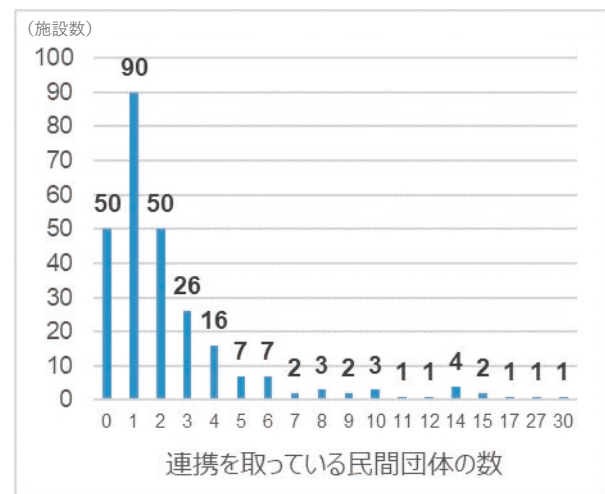
がん相談支援センターと民間団体(患者団体、患者支援団体)で、定期的な連絡や情報交換の機会の設定について、「これまでそういった対応はしたことがない」と回答したのは96施設(33.7%)だった。

問 6.がん相談支援センターと民間団体(患者団体、患者支援団体)で、定期的な連絡や情報交換の機会を設けていますか。

問 6	数	割合
月に1回程度	69	24.2%
半年に1回程度	52	18.2%
年に1回程度	36	12.6%
それ以下	32	11.2%
これまでそういった機会を設けたことがない	96	33.7%
総計	285	100.0%

7. がん相談支援センターと連携を取っている民間団体(患者団体、患者支援団体)の数

がん相談支援センターが連携を取っている民間団体(患者団体、患者支援団体)の数は、がん相談支援センターが連携を取っている民間団体(患者団体、患者支援団体)の数は、最頻値が1施設、平均値は2.5施設であった。



7-2. がん相談支援センターと連携を取っている民間団体(患者団体、患者支援団体)の機関名・団体名

<省略>

8. 民間団体(患者団体、患者支援団体)との連携に関する具体的な取り組み、好事例

民間団体(患者団体、患者支援団体)との連携に関する取り組みでは、院内外で実施されるがんサロンにピア・サポーターの協力を得ている、ピア・サポーターと協働しがんサロンを運営している、ピア・サポーター養成研修会等へ施設内職員が協力、民間団体と協力した講演等の開催、緩和ケア研修会、がん教育、イベント等での講演協力が挙げられた。

問 8.民間団体(患者団体、患者支援団体)との連携に関して、具体的な取り組みや好事例があれば教えてください。

<自由記載：主な回答>

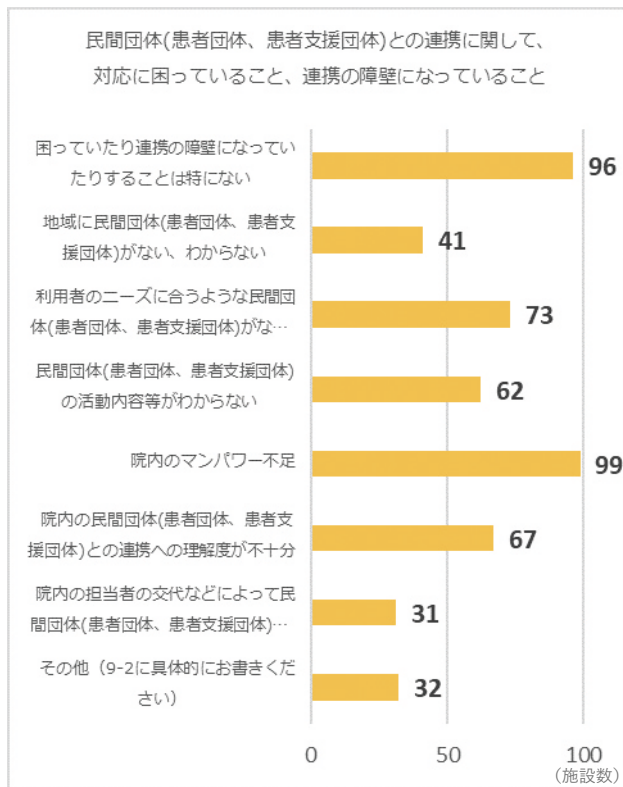
- ✧ 院内外で実施されるがんサロンにピア・サポーターの協力を得ている、ピア・サポーターと協働しがんサロンを運営している（30 件）
- ✧ ピア・サポーター養成研修会等への協力、民間団体(患者団体、患者支援団体)と協力した講演等の開催、緩和ケア研修会、がん教育、イベント等での講演協力（22 件）
- ✧ 拠点病院等・民間団体でそれぞれで開催するイベント等の情報交換を行う、広報を協力しあっている（10 件）
- ✧ 来院者のニーズ（がん種、性別、年代、ご家族・ご遺族など）に合わせて民間団体等へ紹介している（9 件）
- ✧ 連絡協議会、相談支援部会、交流会等を通じた、民間団体との情報交換、関係性の構築を行っている（9 件）
- ✧ 来院者に対して民間団体を紹介（6 件）
- ✧ アピランスケアに関する取り組みで連携を取っている（民間団体に相談に乗ってもらう、タオル帽子・ウィッグなどの提供）（4 件）
- ✧ 民間団体の広報誌やイベント等で、相談支援センターの広報を行ってもらっている(2 件)
- ✧ 患者サロンの場所や民間団体が活動するための場所の提供（2 件）
- ✧ 民間団体の運営や取りまとめの支援（1 件）

9. 民間団体(患者団体、患者支援団体)との連携に関して、連携の障壁になっていること

民間団体(患者団体、患者支援団体)との連携の障壁は、「院内のマンパワー不足」「利用者のニーズに合うような民間団体(患者団体、患者支援団体)がない、わからない」「民間団体(患者団体、患者支援団体)の実態がわからない」が多く挙げられた。

問 9-1.民間団体(患者団体、患者支援団体)との連携に関して、対応にお困りになっていることや連携の障壁になっていることがあればチェックを入れてください。

問 9-1	数
困っていたり連携の障壁になっていたりは特 にない	96
地域に民間団体(患者団体、患者支援団体)がな い、わからない	41
利用者のニーズに合うような民間団体(患者団体、 患者支援団体)がない、わからない	73
民間団体(患者団体、患者支援団体)の活動内 容等がわからない	62
院内のマンパワー不足	99
院内の民間団体(患者団体、患者支援団体)との 連携への理解度が不十分	67
院内の担当者の交代などによって民間団体(患者 団体、患者支援団体)との関係性が途絶えている	31
その他（9-2 に具体的にお書きください）	32



問 9-2.民間団体(患者団体、患者支援団体)との連携に関して、対応にお困りになっていることや連携の障壁になっていることがあれば教えてください。

<自由記載：主なもの>

- ✧ 民間団体(患者団体、患者支援団体)の実態がわからない (15 件)
- ✧ 民間団体(患者団体、患者支援団体)の人材確保(高齢化や AYA 世代の団体が少ないなど) (5 件)
- ✧ 遠方などの地理的な制限があり紹介が難しい (7 件)
- ✧ 病院側の受入体制・マンパワー、コロナ等の対策で活動の制限 (10 件)
- ✧ 利用者のニーズがあるかわからない、ニーズが少ない・ない (5 件)
- ✧ 民間団体(患者団体、患者支援団体)側の負担への配慮が必要(5 件)
- ✧ 民間団体(患者団体、患者支援団体)側の対応の課題(プライバシーの問題、要望への対応) (4 件)
- ✧ 民間団体(患者団体、患者支援団体)との連携の方法がわからない、調整の難しさがある (4 件)
- ✧ 複数の民間団体と公平に関わることの難しさ (2 件)

10. 患者団体、患者支援団体以外の民間団体による相談機関との連携

患者団体、患者支援団体以外の民間団体との連携に関しては、日本癌治療学会の認定がん医療ネットワークナビゲーター、社会保険労務士等の相談会、アピランスに関するイベント等の事例が挙げられた。

問 10.患者団体、患者支援団体以外の民間団体による相談機関との連携に関して、具体的な取り組みや好事例があれば、その相談機関の団体名(差し支えない範囲で)と取り組みを教えてください。

<自由記載：主なもの>

- ✧ 日本癌治療学会(認定がん医療ネットワークナビゲーター)
- ✧ 社会保険労務士、ファイナンシャルプランナーによる相談会
- ✧ 企業と連携したアピランスに関するイベントの開催
- ✧ 就労相談に対応できる団体への紹介
- ✧ 国立がん研究センターや日本対がん協会の電話相談窓口
- ✧ スポーツクラブが院内で運動の指導などを行う
- ✧ 民間団体が開催する講演会、リレーフォーライフ、チャリティイベント等へ院内職員が協力

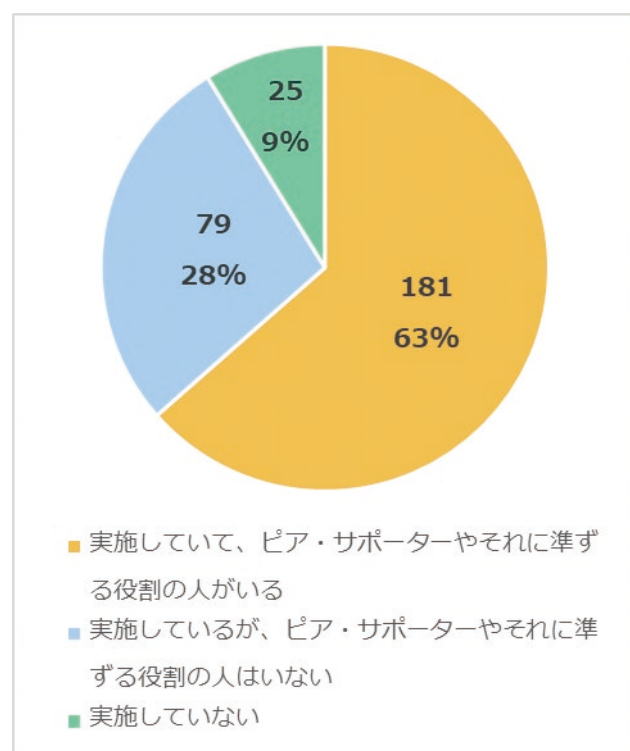
がんサロンの実施やピア・サポーターとの連携

11-1. 患者サロン(がんサロン)の実施状況、ピア・サポーターの有無

各施設で実施されている患者サロンにて、「(患者サロンを)実施していて、ピア・サポーターやそれに準ずる役割の人がいる」と回答したのは181施設(63.5%)だった。

問 11-1.貴施設内では患者サロン(がんサロン)は実施されていますか。

問 11-1	数	割合
実施していて、ピア・サポーターやそれに準ずる役割の人がいる	181	63.5%
実施しているが、ピア・サポーターやそれに準ずる役割の人はいない	79	27.7%
実施していない	25	8.8%
総計	285	100.0%

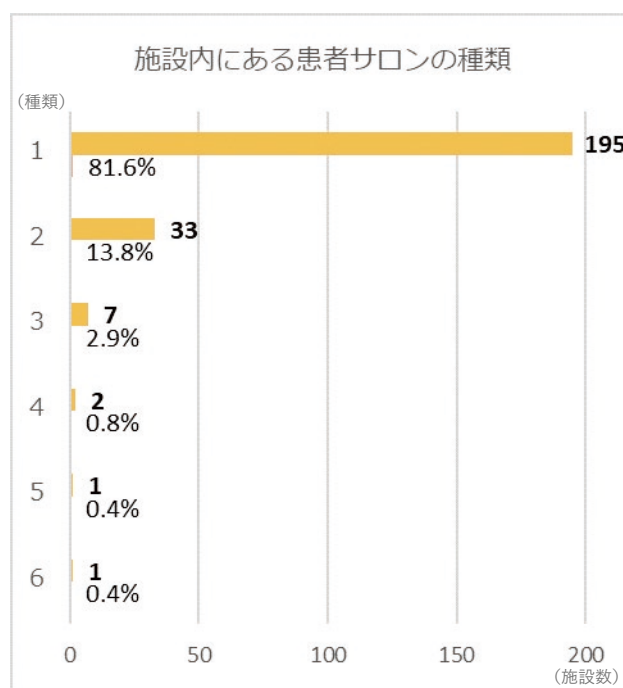


11-2. 患者サロン(がんサロン)の種類

各施設で実施されている患者サロンは、1種類が最多であった。

問 11-2.貴施設内に患者サロン(がんサロン)は何種類ありますか。

問 11-2	数	割合
1 種類	195	81.6%
2 種類	33	13.8%
3 種類	7	2.9%
4 種類	2	0.8%
5 種類	1	0.4%
6 種類	1	0.4%
総計	239	100.0%

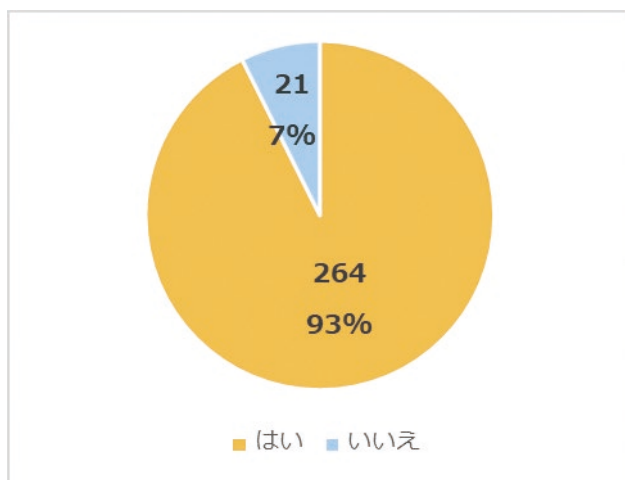


12. 院内にピア・サポートや患者サロン(がんサロン)に関するチラシやパンフレットの配置

院内にピア・サポートや患者サロン(がんサロン)に関するチラシやパンフレットを置き、来院者が自由に手に取れるようにしていると回答したのは264施設(92.6%)だった。

問12.院内にピア・サポートや患者サロン(がんサロン)に関するチラシやパンフレットを置き、来院者が自由に手に取れるようにしていますか。

問 12	数	割合
はい	264	92.6%
いいえ	21	7.4%
総計	285	100.0%

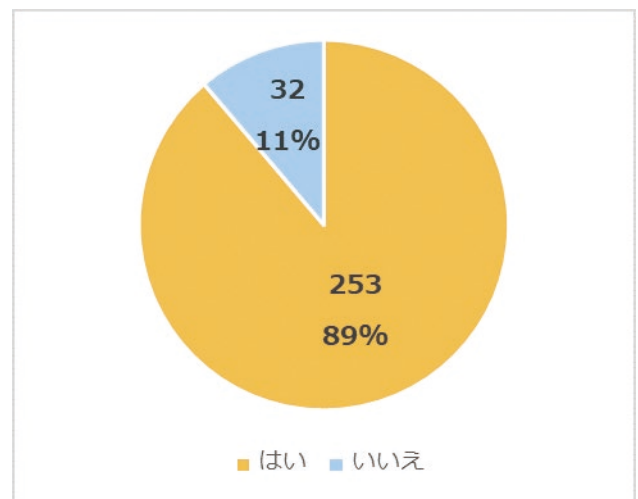


13. 院内にピア・サポートや患者サロン(がんサロン)に関するポスターの掲示

院内にピア・サポートや患者サロン(がんサロン)に関するポスターを掲示しているのはしていると回答したのは253施設(88.8%)だった。

問13.院内にピア・サポートや患者サロン(がんサロン)に関するポスターを掲示していますか。

問 13	数	割合
はい	253	88.8%
いいえ	32	11.2%
総計	285	100.0%

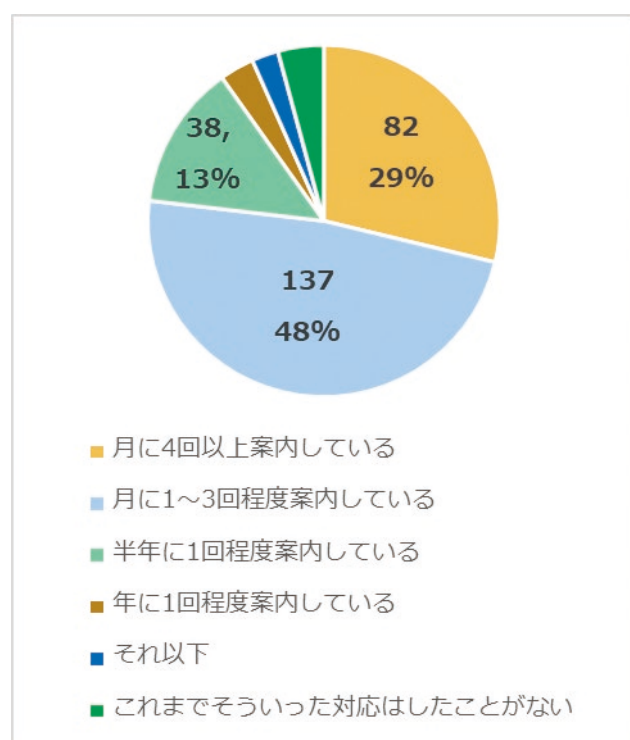


14. がん相談支援センター相談員による来院者への、ピア・サポートや患者サロン(がんサロン)を案内の有無、頻度

がん相談支援センター相談員が来院者に、ピア・サポートや患者サロン(がんサロン)を案内する頻度は、「月に1～3回程度案内している」が137施設(48.1%)が最多であった。

問 14.がん相談支援センター相談員が来院者に、ピア・サポートや患者サロン(がんサロン)を案内していますか。

問 14	数	割合
月に4回以上案内している	82	28.8%
月に1～3回程度案内している	137	48.1%
半年に1回程度案内している	38	13.3%
年に1回程度案内している	9	3.2%
それ以下	7	2.5%
これまでそういった対応はしたことがない	12	4.2%
総計	285	100.0%

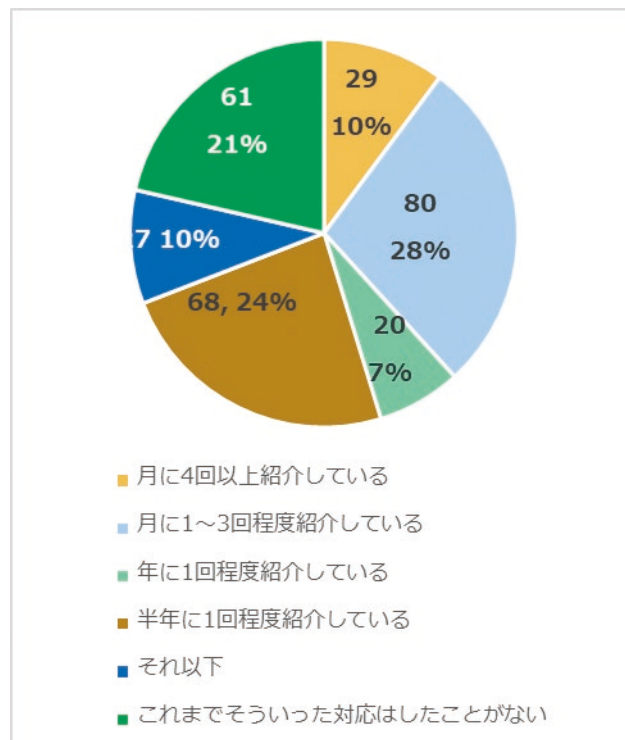


15. がん相談支援センター相談員による来院者への、ピア・サポーターや患者サロン(がんサロン)担当者への対応の引継ぎ

がん相談支援センター相談員が来院者に、ピア・サポートや患者サロン(がんサロン)に対応を引き継ぐ頻度は、「半年に1回程度紹介している」が68施設(23.9%)で最多であった。

問 15.がん相談支援センター相談員がピア・サポーターや患者サロン(がんサロン)担当者に来院者を紹介し、対応を依頼したり引き継いだりしていますか。

問 15	数	割合
月に4回以上紹介している	29	10.2%
月に1～3回程度紹介している	80	28.1%
年に1回程度紹介している	20	7.0%
半年に1回程度紹介している	68	23.9%
それ以下	27	9.5%
これまでそういった対応はしたことがない	61	21.4%
総計	285	100.0%

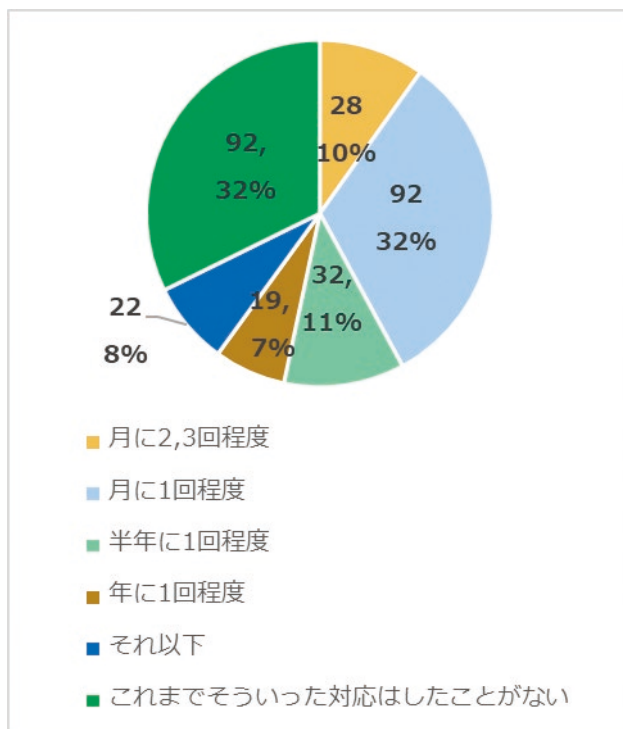


16. ピア・サポーターと連携した患者サロン(がんサロン)の企画や運営

ピア・サポーターと連携した患者サロンの開催頻度に関して、「月に1回程度」92施設(32.3%)と回答があった一方、「これまでそういった対応はしたことがない」と回答した施設も92施設(32.3%)あった。

問 16.ピア・サポーターと連携し、患者サロン(がんサロン)の企画や運営を行っている。

問 16	数	割合
月に2,3回程度	28	9.8%
月に1回程度	92	32.3%
半年に1回程度	32	11.2%
年に1回程度	19	6.7%
それ以下	22	7.7%
これまでそういった対応はしたことがない	92	32.3%
総計	285	100.0%



17. 連携を取っているピア・サポーターの具体的な連携先

ピア・サポーターとの連携に関して、院内・院外・地域等の患者会で活動するピア・サポーター、都道府県等で養成され、登録されているピア・サポーターなどが多く挙げられた。

問 17.問 11～16 で連携を取っているピア・サポーターについて、差し支えない範囲でその具体的な連携先を教えてください。

<自由記載：主なもの>

- ◇ 院内・院外・地域等の患者会で活動するピア・サポーター (14 件)
- ◇ 都道府県等で養成され、登録されているピア・サポーター (17 件)
- ◇ 都道府県等から派遣されてくるピア・サポーター(10 件)
- ◇ 各施設で養成したピア・サポーター (3 件)

18. ピア・サポーターとの連携に関して、具体的な取り組みや好事例

ピア・サポーターとの連携に関する具体的な取り組みとして、ピア・サポーターと連携した患者サロン、個別相談、イベントの開催、ピア・サポーターと役割分担しながら実施するサロンなどが挙げられた。またサロン等にピア・サポーターに関わってもらうことでのピア・サポートの効果を感じるとの記載も挙げられた。

問 18.ピア・サポーターとの連携に関して、具体的な取り組みや好事例があれば教えてください。

＜自由記載：主なもの＞

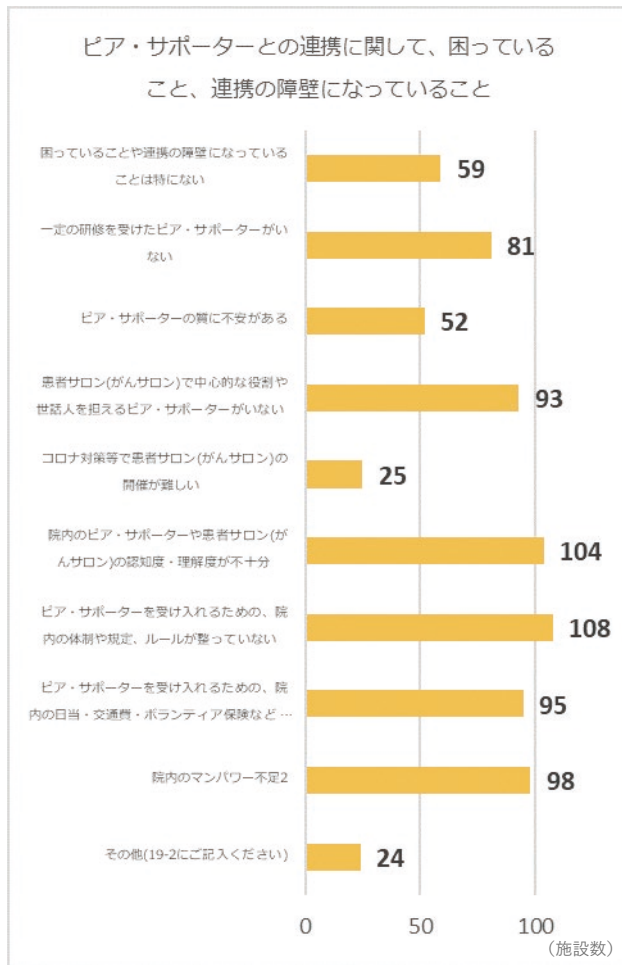
- ✧ ピア・サポーターとの連携した患者サロン、個別相談、イベントの開催（27 件）
- ✧ ピア・サポーターと協力したサロン運営（企画・準備、ピア・サポーターと医療者の役割分担の明確化、振り返りの工夫）（23 件）
- ✧ ピア・サポーターならではの支援、ピア・サポートの効果を感じる（患者の不安を受け止め、経験を共有すること）（12 件）
- ✧ 来院者、相談者のニーズに合わせたピア・サポート（個別・グループのピア・サポート、術式やアピランスケアの助言、家族・遺族の相談対応）（8 件）
- ✧ 定期的な情報交換（サロンの運営会議、ピア・サポーターとの運営会議、地域の患者会等との運営会議等の定期開催）（3 件）
- ✧ 相談支援センター等との連携（相談支援センターにつないでもらうなど）（4 件）
- ✧ 自治体と協力したピア・サポーターの派遣・養成研修会の実施（2 件）

19-1. ピア・サポーターとの連携に関して、困っていることや連携の障壁になっていること

ピア・サポーターとの連携に関して連携の障壁になっていることとして、「院内のピア・サポーターや患者サロン(がんサロン)の認知度・理解度が不十分」「ピア・サポーターを受け入れるための、院内の体制や規定、ルールが整っていない」が多く挙げられた。

問 19-1.ピア・サポーターとの連携に関して、お困りになっていることや連携の障壁になっていることにチェックを入れてください。（複数選択可）

問 19-1	施設数
困っていることや連携の障壁になっていることは特にな	59
一定の研修を受けたピア・サポーターがいない	81
ピア・サポーターの質に不安がある	52
患者サロン(がんサロン)で中心的な役割や世話人を担えるピア・サポーターがいない	93
コロナ対策等で患者サロン(がんサロン)の開催が難しい	25
院内のピア・サポーターや患者サロン(がんサロン)の認知度・理解度が不十分	104
ピア・サポーターを受け入れるための、院内の体制や規定、ルールが整っていない	108
ピア・サポーターを受け入れるための、院内の日当・交通費・ボランティア保険などの金銭面の規定が整っていない	95
院内のマンパワー不足	98
その他	24



問 19-2.ピア・サポーターとの連携に関して、お困りになっていることや連携の障壁になっていることがあれば教えてください。

<自由記載：主なもの>

- ✧ 研修を受けたピア・サポーターが地域にいない、地域で研修が実施されていない、ピア・サポーターの派遣や登録システムがない（11 件）
- ✧ ピア・サポーターの質・力量（8 件）
- ✧ ピア・サポーター高齢化・世代交代（8 件）
- ✧ ピア・サポーターが少ない（活動人数、性別、年代、活動のタイミング）（6 名）
- ✧ 患者サロン（がんサロン）の開催の課題（利用者の減少、場所の確保など）（10 件）
- ✧ 院内の体制に課題がある（体制が未整備、マンパワー不足、コロナ対応など）（16 件）
- ✧ ボランティアとして活動いただいている。
- ✧ ピア・サポートのニーズが少ない・ない（2 件）
- ✧ ピア・サポーターとの連携・やり取り、ピア・サポーターへの負担の懸念（3 件）
- ✧ 施設外との連携がない、不足している（2 件）

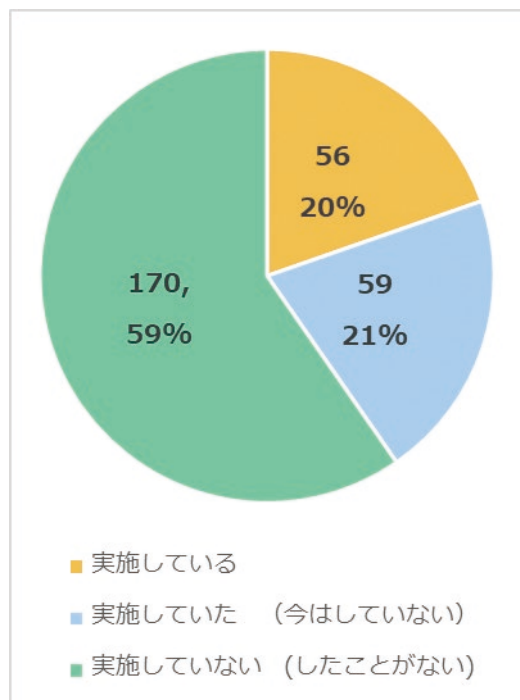
ICTや患者団体、社会的人材リソースの活用

20. ICT（インターネットやWEB会議システムなど）を使った、ピア・サポーターによる相談会や、患者サロン（がんサロン）の実施状況

ICT（インターネットやWEB会議システムなど）を使った、ピア・サポーターによる相談会や、患者サロン（がんサロン）を実施状況について、「実施している」と回答したのは56施設（19.6%）だった。

問 20.貴施設では、ICT（インターネットや WEB 会議システムなど）を使った、ピア・サポーターによる相談会や、患者サロン（がんサロン）を実施していますか。

問 20	数	割合
実施している	56	19.6%
実施していた（今はしていない）	59	20.7%
実施していない（したことがない）	170	59.6%
総計	285	100.0%

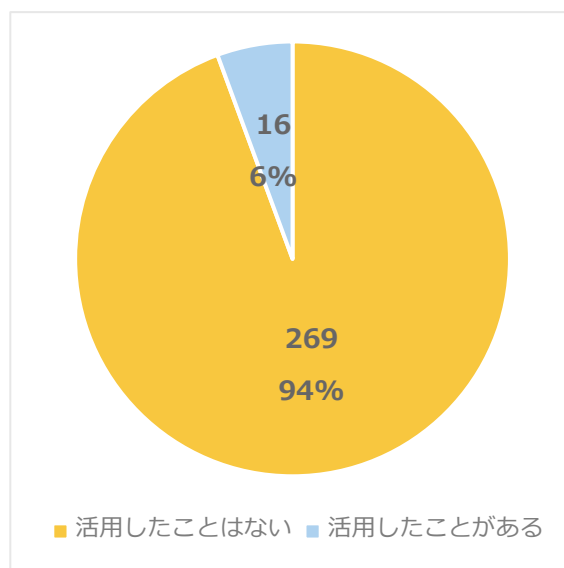


21. 社会的人材リソースの活用状況

社会的人材リソースの活用について、「活用したことがない」と回答した施設が大半を占めた。

問 21.国の計画の中に「社会的人材リソースを活用」とあります。具体的には「関係学会等によるがんの相談支援・情報提供に関する一定の研修を受け、必要に応じ、がん患者やその家族等に対し、拠点病院等のがん相談支援センターを紹介できる地域の人材等が想定される。」としていますが、貴施設ではそういったリソースを活用したことはありますか。利用したことのあるリソースを教えてください。

問 21	数	割合
活用したことはない	269	94.4%
活用したことがある	16	5.6%
総計	285	100.0%



＜活用したことのある社会的人材リソース 主なもの＞

- ◇ 日本癌治療学会認定がん医療ネットワークナビゲーター
- ◇ 社会保険労務士、市役所(産業労働課)
- ◇ 患者サロンのピア・サポーター
- ◇ ケアマネジャー
- ◇ 専門・認定看護師

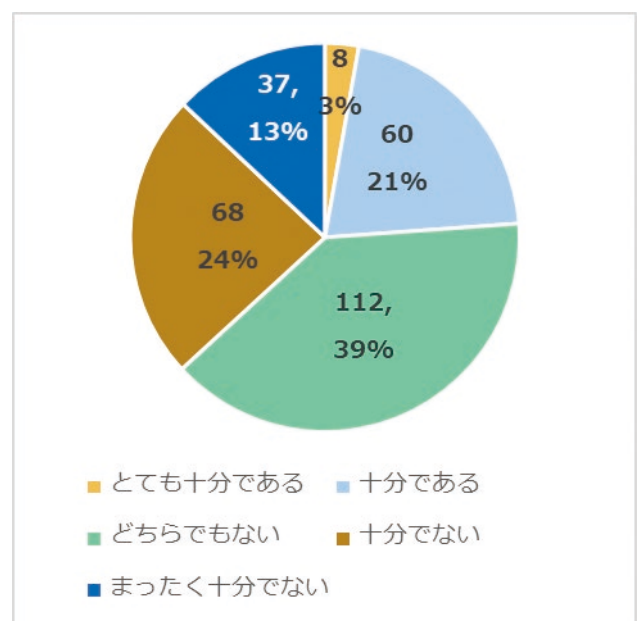
地方公共団体(行政)との連携

22. ピア・サポート活動や患者サロン(がんサロン)活動に関する都道府県の行政との連携・協力体制

ピア・サポート活動や患者サロン(がんサロン)活動に関する都道府県の行政との連携・協力体制について「とても十分である」「十分である」と回答した施設が68施設(23.9%)だったが、「十分でない」「まったく十分でない」と回答したのは105施設(36.9%)だった。

問 22.ピア・サポート活動や患者サロン(がんサロン)活動に関して、貴施設と都道府県の行政との連携・協力体制はどうか。

問 22	数	割合
とても十分である	8	2.8%
十分である	60	21.1%
どちらでもない	112	39.3%
十分でない	68	23.9%
まったく十分でない	37	13.0%
総計	285	100.0%



23. ピア・サポート活動や患者サロン(がんサロン)活動に関する都道府県の行政との連携・協力体制に関する具体的な取り組みや好事例

ピア・サポート活動や患者サロン(がんサロン)活動に関する都道府県の行政との連携・協力体制について、ピア・サポートや患者サロン、患者会の広報の工夫(HPやポータルサイト、都道府県で発行するサポートブックへの掲載、チラシの配布)や、都道府県行政や関係機関との連携したピア・サポーターの育成、派遣事業等の体制の構築などが挙げられた。

＜自由記載：主なもの＞

- ◇ ピア・サポートや患者サロン、患者会の広報の工夫(HPやポータルサイト、都道府県で発行するサポートブックへの掲載、チラシの配布)(14件)
- ◇ 行政、施設間の意見交換や情報交換の場(協議会、部会、研修会、実務者会議、運営会議等)への参加(11件)
- ◇ 都道府県行政や関係機関との連携したピア・サポーターの育成、派遣事業等の体制(10件)
- ◇ ピア・サポーター向け研修へ施設職員が協力・参加(5件)
- ◇ 院外で開催されるサロンやイベント等へ施設職員が協力(4件)

24. ピア・サポートや患者サロン活動に関する、地方公共団体(都道府県・市区町村の行政)との連携に関して、困っていることや連携の障壁になっていること

ピア・サポート活動や患者サロン(がんサロン)活動に関する都道府県の行政との連携・協力体制について、困っていること・連携の障壁になっていることとして、行政と連携した、ピア・サポート事業(研修、登録派遣体制等)の体制が構築されていない、ピア・サポーター養成研修、フォローアップ研修の実施が未実施・不定期(次回実施が未定)といった課題が挙げられた。

＜自由記載：主なもの＞

- ◇ 行政との連携、ピア・サポート事業(研修、登録派遣体制等)の体制が未構築(21件)
- ◇ ピア・サポーターの活動に関する課題(ピア・サポーターとの活動調整(金銭面含む)、質の担保)(10件)
- ◇ ピア・サポーター養成研修、フォローアップ研修の実施が未実施、不定期(5件)
- ◇ 連携の方法がわからない(3件)

D. 考察

がん診療連携拠点病院における民間団体との連携ならびにピア・サポート活動の実態について横断的な調査を実施した。その結果、民間団体との連携について施設内で検討する枠組みを持っている施設は約6割で、主な連携はパンフレット等の設置であった。相談支援の中でも民間団体への紹介は月1回以下であった。定期的な打ち合わせの場を設置していないがん診療連携拠点病院は3割以上にのぼるなど、連携体制の構築と活用についてはまだ途上であった。

ピア・サポートに関しては、新型コロナウイルス感染症の流行により、一時期開催が中止されていたものの次第に再開している施設も広がってきている。しかし、院内で開催しているサロンは1種類程度であった。相談者への紹介はあるが低いことから、院内の周知を含め定着には至っていないことがうかがわれる。

ピア・サポートは、がん患者・家族への心理社会的支援の基盤を成す活動である。ピア・サポーターの養成は一医療機関で実施するのは難しいことから、行

政と医療機関との連携が重要である。しかし、行政とがん診療連携拠点病院におけるピア・サポートについての連携が限られていることが明らかとなった。がん診療連携拠点病院において、ピア・サポーターの受け入れが留まっている背景には、医療機関内でのピア・サポート活動に関する認識が途上であること、そのため、ピア・サポートをどのように実施するのか、整備に関する議論が進んでいないことが考えられる。がん診療連携拠点病院においてピア・サポートの普及とピア・サポーターの活用を進めるうえで、医療従事者に対するピア・サポート活動に関する普及を進め、あわせて、支援体制についてもそのノウハウを伝達することが求められる。

また、県内のがん診療連携拠点病院間での患者サロンやピア・サポートに関する情報共有の場は限られている課題もある。これは、ピア・サポートの養成が行政のみで行われがちであること、患者サロンに関しても県レベルでの議論になりにくいこととも関連している。がん診療連携拠点病院間でのピア・サポート活動に関する情報の共有を促す仕組み作りも重要である。

VIII. 資料集

(1) フォローアップ研修会 開催マニュアル（検討版）.....	113
(2) がんサポートグループ企画運営者のための研修会(2024年10月19日)フライヤー	144
(3) がんサポートグループ企画運営者のための研修会(2025年2月11日)フライヤー	146
(4) がんサポートグループ企画運営者のためのフォローアップ研修会(2024年11月16日)フライヤー	148

(1) フォローアップ研修会 開催マニュアル

＜留意点＞本資料は、2025 年 2 月末時点の暫定版です。正式版が完成次第、事業 HP (<https://www.peer-spt.org/>)に掲載しますので、そちらをご確認ください。

令和 6 年度 厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

ピア・サポーター フォローアップ研修会 開催マニュアル(検討版)

日時： 年 月 日 ()、 月 日 ()

会場：

主催：

共催：

目 次

フォローアップ研修会を行う目的	資 3
フォローアップ研修会プログラム	資 4
参 考	資 5
事前準備	資 7
受講者情報について	資 7
参 考	資 8
オンラインで実施する際の留意点	資 9
◆講 義	資 11
◆ロールプレイ	資 12
◆事例検討	資 16
◆テーマを決めた「自分の体験を語る」	資 18
◆ピア・サポーター、行政・医療従事者の情報交換・意見交換	資 20
◆ピア・サポーターのストレスマネジメント（講義）	資 21
●模擬サロン基礎	資 22
◆模擬サロン応用	資 25
参 考	資 28
参 考	資 30

フォローアップ研修会を行う目的

フォローアップ研修を行うことは以下のような様々な意義がある。

- ・ ピア・サポート活動における困難の共有と解決
- ・ ピア・サポーターの技術の維持・向上、モチベーションの維持、燃えつき防止
- ・ ピア・サポーター同士の相互交流、顔が見える横のつながりの維持
- ・ ピア・サポーターが最新のがん医療の情報提供を受ける機会
- ・ ピア・サポーターと、行政担当者・医療従事者の相互交流の機会

ピア・サポーターや医療現場の要望をきき、それぞれの地域の状況にあわせて開催頻度、内容を検討する必要がある(例:ピアサポート活動を頻繁に行う中で困りごとや問題の共有が必要になった、養成研修から時間がたった方の追加技術研修が必要、多くの地域でピアサポートが開催されておりサポーター同士の交流機会を持ちたい、ピアサポートが十分開催できないなど実践できていないサポーターがいるためモチベーション維持したい、など)。

ピア・サポーターのモチベーションを維持するために、開催時期を明示し、少なくとも年 1 回程度はピア・サポーター同士が交流できる機会をつくることが望ましい。

また、将来的には、中心的に活動できるピア・サポーター、教育的に関われるピア・サポーターを養成する機会を作ることが望まれる。

フォローアップ研修会プログラム

◆講 義

ゲノム医療、コロナとがんなど時期にあった内容を医療従事者らが講義。新しい知識が増えることで、学習機会を求める参加者の満足度が高くなることが期待される。

◆ロールプレイ

可能なら模擬患者を用いて、日々の相談で困るようなシナリオのロールプレイを実施。模擬患者の手配が難しければ、相談員など医療従事者が行うこともできる。

◆事例検討

運営上検討の必要がある事例、日々の困りごと、参加者アンケートなどから事例を取り上げ、グループで議論する。

◆テーマを決めた「自分の体験を語る」

短く体験を語る練習。体験を改めて整理する。

◆ピア・サポーター、行政・医療従事者の意見交換の場

ピア・サポーター同士での意見交換、ピア・サポーターと行政・医療従事間で意見交換や情報交換をする時間を設ける。

◆ピア・サポーターのストレスマネジメント(講義)

ストレスマネジメントに関する講義、リラックス方法について心理士などの専門家から講義・紹介する。ピア・サポーターのバウンダリーを守ることに繋がる。

◆模擬サロン 基礎・応用

サロンの流れ(開始～終了まで)や語り合いの雰囲気や様子を知り、がんサロンの「ファシリテーター(司会進行役)」を体験する。サロンで対応に悩む場面(例えば、特定の参加者だけが話をする)に対応するためのヒントを得る。

※上記の中からピア・サポーターとともに研修会プログラムで取り上げる内容を検討することが望ましい。

参 考 タイムテーブルの例

あくまで一例ですので、実情に応じて編成してください。

【例:対面 1日】

開 始	終 了	所要時間(分)	内 容
10:00	10:15	15	開会挨拶、オリエンテーション
10:15	11:00	45	講義
11:00	11:15	15	ピア・サポーターのストレスマネジメント
11:45	12:00	45	テーマを決めた「自分の体験を語る」
12:00	13:00	60	昼休憩
13:00	16:00	180	ロールプレイ
16:00	16:10	10	休憩
16:10	16:50	40	意見交換会
16:50	17:00	10	閉会挨拶

【例:対面 半日(3時間)】

開 始	終 了	所要時間(分)	内 容
13:30	13:40	10	開会挨拶、オリエンテーション
13:40	15:40	120	ロールプレイ
15:40	15:50	10	休憩
15:50	16:50	60	意見交換会
16:50	17:00	10	閉会挨拶

【例:対面 半日(3時間)】

開 始	終 了	所要時間(分)	内 容
13:30	13:40	10	開会挨拶、オリエンテーション
13:40	15:40	120	模擬サロン
15:40	15:50	10	休憩
15:50	16:50	60	意見交換会・交流会
16:50	17:00	10	閉会挨拶

【例:オンライン 半日】

開 始	終 了	所要時間(分)	内 容
13:00	13:05	5	開会挨拶、オリエンテーション
13:05	13:30	25	講義

VIII. 資料集

13:30	15:25	115	事例検討※
15:25	15:35	10	休憩
15:35	16:45	70	テーマを決めた「自分の体験を語る」
16:45	16:55	10	閉会挨拶

※ロールプレイを実施しない場合には、事例検討を実施することが望ましい。

事前準備

- ・ 「ピア・サポーター養成研修会 開催マニュアル」にも研修会の準備に関する項目がありますので参考にしてください。
ここからダウンロードできます → <https://www.peer-spt.org/document/>

受講者情報について

- ・ この研修では、「自分の体験を語る」「ロールプレイ」において、自己を追体験するセッションがあります。治療中の方や、ロールプレイのシナリオが重層経験となられる方にとって、辛いお気持ちとなられる可能性があります。もちろん、このような方々の受講を排除するものではありませんが、予め守秘義務に配慮しながら講師・ファシリテーターの方々と情報共有ができるとよいでしょう。
- ・ 「*必須項目」は、研修会を円滑に行うためにあるとよい情報です。ロールプレイの際には「ピア・サポート、患者会、がんサロンの参加・経験の有無」「診断年・がん種・部位」を参考にグループ分けするのが望ましいです。申し込み時点で、これらの情報を伺うことを推奨します。
- ・ 各自治体などで必要に応じて質問を追加したり、申し込み用紙をデザインしたりするなどしてお使いください。

参 考 参加申込書（フォーマット）

（*必須項目）	
フリガナ*	
名 前*	
生年月*	西暦 年 月 (歳)
メールアドレス	
ご住所	〒 —
電話番号	
お立場*	がん患者・ご家族・ご遺族・医療従事者・行政関係者 「がん患者」と回答された方へ 診断された年* (年) がんの種類・部位* ()
ピア・サポートの経験はございますか*	ある ・ なし
患者会での活動経験はありますか*	スタッフとして活動・参加者として利用・なし
がんサロンなどへの参加経験はございますか*	ある ・ なし
本研修会を受講しようと思ったきっかけや、ピア・サポートに対する思いなどがございましたらご記入ください。	
研修会に参加するにあたり、配慮してほしいことがありましたらお書きください。	

※本研修は、ご自身ががんの体験があること、もしくは、ご家族や近しい方ががんを共に体験した方であれば、ご家族やご遺族の立場でも受講することができます。治療が終わった方だけでなく、治療中であっても症状が安定し、研修を無理のない範囲で受講できる方であれば、受けていただくことができます。

※研修では、ご自身の体験を語っていただくなど、思い出したり、言葉にしたりことが辛いとお感じになることがあるかもしれませんが、スタッフや講師陣もサポートしますので、ご安心ください。

※個人情報につきましては、当研修会以外では使用いたしません。適正管理のもと、研修終了後は破棄いたします。

オンラインで実施する際の留意点

これらの研修会をオンラインで開催する際の留意点を紹介します。また、各セクションでも留意点を挙げていますので、併せてご確認ください。

【事前準備】 特にオンライン機器・環境の準備が必要になります。

■受講者側

- ・ 受講環境、機器（パソコン、カメラ、イヤホン・マイク）の準備
- ・ WEB 会議システムのアプリケーションの準備（アプリケーションのインストール、アップデート）
- ・ 1 人につき 1 デバイスを推奨します。1 デバイスから複数人で参加する場合は、参加する人に名札を付けてもらうといった工夫が必要です。
- ・ アプリケーションソフトが最新のものになっているかを確認しましょう。
- ・ 研修中は、個室をつかったりイヤホンを使ったりして、受講者以外に不用意に受講内容を公開しないように注意しましょう。受講者同士の個人情報を守ることにつながります。

■講師・運営側

〈受講者への案内〉

- ・ 受講者には、WEB 会議システムの使い方などを案内しましょう。その際、研修会ルールも併せてご案内しましょう（質問があるときにチャット使うかどうか、研修会当日の緊急連絡先など）。
- ・ 研修前に事前接続テストを行い、そこで受講者のカメラ・マイクの確認をしておくことをお勧めします。
- ・ 当日に使う資料は、運営側で印刷し、受講者へ郵送しておくとともに親切です。

〈WEB 環境〉

- ・ 可能であれば、受講者、講師・運営共にパソコンで参加することを推奨します。
- ・ 特にスマートフォンでは、1 画面に映る人数に限界があります。運営側であらかじめ WEB 会議ツールを実際に使ってみてから、受講人数の決定をしましょう。
- ・ 講師・運営はヘッドセットを使用することを推奨します。講義中に施設や自宅の環境音などが入らないように工夫しましょう。
- ・ 講師・運営は、講義用のパソコン以外に、補助用に 2 台目のパソコン、タブレットがあると安心です。
- ・ 研修会直前には、講師・スタッフの接続確認を行うことが必須です。

〈WEB 会議ツールの設定・利用〉

- ・ WEB 会議システムの設定に専従できるよう、十分な人数を確保しておきましょう。
- ・ 講師・運営は、共同ホストに設定しておきましょう。
- ・ 講師・スタッフは、WEB 会議システム以外で連絡手段をもっておくことが大切です（たとえば、LINE のグループや Messenger などの SNS ツール）。講師・スタッフの接続が不安定になってしまったとき、グループワークの編成が変更になったときなどに連絡を取り合い、フォローし合える体制をつく

っておきましょう。

- ・ 研修会の最中に、気分がづらくなった受講者が入れる部屋を設け、講師・スタッフのだれが対応するか決めておきましょう。Zoom ではブレイクアウト機能を使って対応することができます。
- ・ 〈プログラムの工夫〉
- ・ 研修時間を早く始めて、早く終わるようにすると良いかもしれません。特に、自宅等から参加する人は家事など気になったり、自宅と受講環境が切り離せないといった課題があります。必要に応じて時間割を編成してください。
- ・ オンライン開催では、対面開催に比べて受講者が自由に気持ちなどを話し合う時間を取ることが難しいです。オンラインで開催する際には、閉会前に受講者が気持ちや感想などをお話できる時間を設けたり、講師・運営がリラックス方法を紹介する時間を設けたりするなどの対応をお勧めします。

【参 考】

- ・ 委託事業では、ピア・サポーター養成研修会の一部のプログラムを動画にしています。下記から視聴の申込ができます。
<https://www.peer-spt.org/activity20210228/>
- ・ 全国がん患者団体連合会「オンラインでのピア・サポート留意事項の手引き」
<http://zenganren.jp/?p=2730>

◆ 講 義

所用時間:30 分～1 時間程度

用意するもの: PC、プロジェクター、レーザーポインター

【学習目標】

- ・ がん医療は日々進歩しているので、自分の経験が過去のものになっている場合がある。知識のアップデートができ、視野を広げられるような機会にする。
- ・ 新しい知識が増えることで、学習機会を求める参加者の満足度が高くなることが期待される。

【内容(講義の例)】

- ・ がん医療
- ・ 個別のがん医療トピックス
- ・ ピア・サポートに関する基本知識の復習
- ・ その時の話題になっていること（たとえば、新型コロナウイルスとがん、ゲノム医療など）
- ・ 地域の医療資源や条例、妊孕性温存やウィッグの助成など、地域によって異なること
- ・ がん対策推進基本計画、がん診療連携拠点病院に関すること(がん診療連携拠点病院の指定要件)など国の施策に関すること
- ・ 地域の患者会活動や、近隣の自治体の取り組みに関すること
- ・ 小児、AYA 世代のがんに関すること
- ・ 就学、就労に関すること
- ・ 緩和ケア、ご遺族のケアに関すること

【事前準備】

- ・ マイク、プロジェクター、音響などのチェックをしておく。

【座 席】

- ・ スクール形式で行う。

◆ ロールプレイ

所用時間: 130 分～180 分程度

用意するもの: PC、プロジェクター、レーザーポインター、役割のネームプレート

【はじめに】

この「ロールプレイ」の項目は、ピア・サポーター養成研修会でも実施しているプログラムです。ピアサポートに必要なスキルを守りながら、繰り返し取り組むのがよいでしょう。

【学習目標】

- ・ ピア・サポーターの役割、活動指針、コミュニケーションの基礎など研修で学んだことを踏まえて実際に相談、対応を経験する。
- ・ ピア・サポーターと利用者という意識をもつことで、傾聴や寄り添うことの難しさも含めた気づきが得られる。
- ・ サポーター、利用者、観察者、それぞれの役割での気づきを言葉にし、振り返りの意義を感じることができる。

【事前準備】

- ・ 可能であれば、講義を行う主会場以外にロールプレイ用の部屋を用意する。オリエンテーション、デモンストレーションは主会場スクール形式で実施（デモンストレーションに 3 名必要。本冊子 p.35～36 ロールプレイシナリオ【ロールプレイ実演】を参照）。
- ・ 別室にグループごとに島をつくっておく。
- ・ グループは、受講生 4 名＋ファシリテーター 1 名で、事前にグループ分けを済ませておく。
- ・ グループ分けの際、同じ患者会やグループの仲間、友人・知人などは同じグループに固まらないよう注意する。また、個性の強い（影響力のありそうな）参加者も同じグループに集中しないよう調整する。
- ・ 参加者の背景や経験など、事前にわかる範囲で情報収集をしておく。シナリオと酷似した体験を有する参加者がいた場合は、使用シナリオを考慮する。
- ・ 4 名の倍数にならない場合のグループ分けについて
 - ① 3 名のグループ分けとする、または、3 名と 4 名のグループで構成する
3 名の場合は、4 つ目のセッションは希望を取る（もう一度チャレンジしたい人を募る）
 - ② 4 名以上の場合は、最大でも 8 名とする。
4 名以上となった場合も、必ず全員がそれぞれの役割を担うよう対応表を考える。ピア・サポーター役を 2 名にしたり、利用者役を複数にするなどグループ内の人数の割り振りを当日までに考えておくといよい。
- ・ シナリオ（利用者役の相談内容）をグループの数分用意しておく。
- ・ 全体進行、グループごとのファシリテーターのほかに、フリーのファシリテーター（スタッフ）を配置する。
- ・ それぞれの役柄が書かれたネームカードのようなものを用意するとよい。

【座 席】

オリエンテーション、デモンストレーション：スクール形式で行う。

グループごとに島をつくる。できるだけ間隔を空ける。

【参加者】

- ・ ピア・サポーターのみ（医療従事者、行政担当者は周囲で見学）。

【進め方】

- ・ オリエンテーション（進め方・動機づけ）⇒ファシリテーターによる模擬演技を行う。
- ・ 用意したシナリオを利用者役に渡し、セッションをスタートする。
- ・ セッションの都度、ファシリテーターを中心にグループごとに振り返りを行う。
- ・ 2 セッション終了時に休憩を挟む（体を動かすなど必要に応じて声かけ）。時間に余裕があれば、セッションごとに休憩を挟む。
- ・ 4 セッション終了したら、参加者からの感想やファシリテーターからの報告など、ロールプレイでの学びや気づきを全体でシェアする。
- ・ セッションの時間については、プログラムでの時間配分によって模擬面談の時間や振り返りの時間を調整する。

【時間配分の例① 120 分】

所要時間	形 式	内 容
20 分	全体	オリエンテーション・模擬演技。グループの発表→分かれる
20 分	グループごと	セッション 1（役づくり 1 分⇒模擬面談 6 分⇒振り返り 13 分）
20 分	グループごと	セッション 2（役づくり 1 分⇒模擬面談 6 分⇒振り返り 13 分）
5 分～10 分		休憩
20 分	グループごと	セッション 3（役づくり 1 分⇒模擬面談 6 分⇒振り返り 13 分）
20 分	グループごと	セッション 4（役づくり 1 分⇒模擬面談 6 分⇒振り返り 13 分）
20 分	全体	全体振り返り

【時間配分の例② 180 分（推奨）】

所要時間	形 式	内 容
20 分	全体	オリエンテーション・模擬演技。グループの発表→分かれる
30 分	グループごと	セッション 1（役づくり 2 分⇒模擬面談 10 分⇒振り返り 18 分）
10 分		休憩
30 分	グループごと	セッション 2（役づくり 2 分⇒模擬面談 10 分⇒振り返り 18 分）
30 分	グループごと	セッション 3（役づくり 2 分⇒模擬面談 10 分⇒振り返り 18 分）
10 分		休憩
30 分	グループごと	セッション 4（役づくり 2 分⇒模擬面談 10 分⇒振り返り 18 分）
20 分	全体	全体振り返り

【このセッションでの留意点】

- ・ あらかじめ用意したシナリオをセッションの都度、利用者役に渡す。
- ・ 時間内に完結する必要はないこと、途中で終わってもよいことなどを伝える。
- ・ 早く終わった場合は、静かにセッション終了の合図まで待ち、振り返りを先に始めない。
- ・ 辛くなったら、いつでも辞めてよいことを保証する。
- ・ ファシリテーターは良い点をほめ、建設的な指摘を行う。講義で触れたスキル（視線、距離、座る位置などの非言語的、話を聞く、自分の経験の伝え方など言語的）に基づきフィードバックする。各シナリオのねらいも意識してコメントする。
- ・ セッションが終わったら、役を「降りる」ことを説明する。全員で体を動かすなど声かけを行う。（経験と重なり、精神的な負担になることもあるので、気持ちの転換を行うブレイクを最後に行うとよい）
- ・ 医療者や行政などセッションに直接関わらない見学者やスタッフは、ロールプレイの妨げとならないような場所や態勢で見守ってもらうようアナウンスする。最後の全体での振り返りに感想を求めてもよい。
- ・ 精神的に辛いときは、途中で止める、休憩をとるなどもよいことを伝える。

【オンラインで実施する際の留意点】

- ・ 対面で行う際は、用意したシナリオをピア・サポーターに紙で渡すことができるが、オンラインではそれができないので、WEB 会議システムのチャットを利用し、個別にシナリオを送るといった方法をとるとよい。
- ・ チャットが使えない人には、事前にシナリオを郵送という方法もある。ただし、全員に全シナリオを送らないように注意する（チャット上で送り先を選択して送信をする）。

【その他】

模擬患者の活用：地域によっては、医療コミュニケーション技術研修のための模擬患者が利用できる地域もある。より緊張感をもってロールプレイに臨むには、模擬患者を活用するという方法もある。

【参考：ロールプレイのローテーション】

4 人グループ

	A	B	C	D
1 回目	利用者役	観察者	ピア・サポーター役	観察者
2 回目	観察者	利用者役	観察者	ピア・サポーター役
3 回目	ピア・サポーター役	観察者	利用者役	観察者
4 回目	観察者	ピア・サポーター役	観察者	利用者役

5 人グループ

	A	B	C	D	E
1 回目	利用者役	観察者	ピア・サポーター役	観察者	観察者
2 回目	観察者	ピア・サポーター役	観察者	ピア・サポーター役	利用者役
3 回目	ピア・サポーター役	観察者	利用者役	観察者	観察者
4 回目	観察者	利用者役	観察者	利用者役	ピア・サポーター役

◆ 事例検討

所用時間: 1～2 時間程度

用意するもの: PC、プロジェクター、レーザーポインター、ホワイトボード、模造紙、付箋

【学習目標】

困難事例の対応を学ぶ。自分の対応に自信をもてるようにする。他の人の対応を見て学ぶ。

【内容】

- ・ 運営上、検討の必要がある事例や、参加者アンケートなどから事例を取り上げ、グループで議論する。

【事前準備】

- ・ 各グループでどの事例を検討するか、あらかじめ決めておく。(全グループ同一の事例を検討するか、グループごとに異なった事例を検討するか。異なる事例を検討する場合には、くじ引き・指定制などどのように決定するか)
- ・ グループ編成をあらかじめ考えておく。1 グループ 5～6 人程度までが参加しやすい。
- ・ 事例によって検討時間、まとめの時間を増減させるとよい。

【座 席】

- ・ オリエンテーション: スクール形式で行う。
- ・ 事例検討: グループごとに島をつくる。できるだけ間隔を空ける。

【進め方】

- ・ はじめ 10～15 分程度でオリエンテーション(進め方・動機づけ)を行い、グループ編成の発表、グループに分かれる。
- ・ グループに分かれたあと、進行役、記録役、発表者役を決める。医療従事者や運営スタッフが参加する場合は進行役・記録役を担うと参加者が議論に集中しやすい。
- ・ 事例検討が終了したら、全員で振り返りを行う。参加者からの感想やファシリテーターからの報告など、事例検討での学びや気づきを全体でシェアする。

【時間配分の例】

所要時間	形 式	内 容
10 分～15 分	全体	オリエンテーション(進め方・動機付け) グループ編成の発表、グループに分かれる
5 分	グループごと	アイスブレイク、自己紹介 発表者を決める
20 分	グループごと	事例 1 の検討 ・事例検討をする ・グループごとのまとめをする
5 分 × グループ数	全体	事例 1 の全体振り返り ・グループごとにまとめを発表する
30 分	グループごと	事例 2 の検討 ・事例検討をする ・グループごとのまとめをする
7 分 × グループ数	全体	事例 2 の全体振り返り ・グループごとにまとめを発表する

【このセッションでの留意点】

- ・ ホワイトボード、模造紙、付箋などを用いることで議論が深まる。
- ・ 唯一の正しい正解があるわけではない。

【オンラインで実施する際】

- ・ Word、PowerPoint、メモ帳などを画面共有し、そこに書き込みながら検討を進めると議論が深まる。
そのため、あらかじめ書記を決めておくとよい(画面共有、文字入力に慣れている人)。
- ・ WEB 会議ツールの画面共有の権限をあらかじめ確認しておく。
- ・ 検討事例は画面共有できるように用意しておく。

【事例検討の内容】

- ・ 具体的な相談事例について考える。
(例) ○歳の男性、△△がん。「□□」について相談にやってきた。どのように対応するか。
- ・ 実際の事例は使わない方がよい。実際の事例を扱う場合には、個人を特定できるような内容にならないよう慎重に配慮する。

◆テーマを決めた「自分の体験を語る」

所用時間:30分～1時間程度

用意するもの: PC、プロジェクター、レーザーポインター

【学習目標】

- ・ 自分の体験を言葉として振り返り、必要があれば感情的な問題に気づく。
- ・ 体験を整理しておくことの大切さを学ぶ。
- ・ 体験の多様性に気づく。
- ・ 一定の時間内に、体験を語る経験をする。
- ・ 仲間の体験を知る。

【事前準備】

- ・ 事前に話す順番を決めておくことが望ましい(受け付け順、名簿順、くじ引き、ランダム、挙手制など。くじ引きの場合は、受け付け時に行うなど、このセッションの開始までに終わらせておくといよい)。

【座席】

- ・ (可能なら)机を下げ、椅子を前に出しシアター形式に変更する。構造上難しければ、スクール形式でもよい。
- ・ 発表は、参加者が前に行う。

【進め方】

- ・ テーマをあらかじめ9つほど挙げておく。
- ・ 受講者がテーマの中から1つ選び、テーマに沿って1分で自分の体験を話す。
- ・ 語り終えたら、進行役が必要に応じてフォローのコメントを入れる。
- ・ 2周目を設けてもよい。

【時間配分の例】

所用時間	内 容
10 分	進め方の説明、講師によるデモンストレーション
3 分 × 人数	「自分の体験を語る」1 周目 ・ 受講者: 話すテーマを選択し、テーマに沿って1分で話す ・ 進行役: フォローやコメント、次の人へ交代(1～2分)
3 分 × 人数	「自分の体験を語る」2 周目 ・ 受講者: 話すテーマを選択し、テーマに沿って1分で話す ・ 進行役: フォローやコメント、次の人へ交代(1～2分)

【このセッションでの留意点】

- ・ タイムキーパー係を用意する。話の途中であっても、1分で中止の合図をする。
- ・ 1分で終わらせる必要はないが、目標にはしてほしい。自分の体験を語るときの時間感覚を経験することが目的。
- ・ フォローでは学習目的を意識する。時間の感覚や感情のゆらぎ、経験の大変さを肯定的に評価し、大丈夫であると安心感を与える(保証する)。
- ・ 参加者全体で振り返りをする時間が重要。
- ・ 話し手も聞き手も、辛いときはいつでもストップできることを保証する。
- ・ 語るテーマは、その場で発表する。事前に受講者には知らせない。

【オンラインで実施する際の留意点】

- ・ 特にオンラインでは、聴講する側はリアクションを大きく取るように心がける(大きくうなずく、大きなリアクションで拍手する)。
- ・ 基本的には、受講者は画面をオンにして参加する。気持ちが辛くなったらオフにしてもよいことを伝える。
- ・ 気分が辛くなった受講者が入れる部屋を設け、講師・スタッフのだれが対応するか決めておく。Zoomでは、ブレイクアウト機能を使って対応できる。

【語るテーマの例】

1. 家族や大事な人に何と伝えた？
2. 近所の人や周りの人には話した？
3. 治療を決めるときのエピソードは？
4. 検査や治療で辛かったことは？
5. 告知されたときどう思った？
6. 副作用や後遺症で辛かったことは？
7. 仕事や介護、子育てなどで悩んだ？
8. 不安でたまらないときどうしている？
9. 主治医の先生って話しやすい？

◆ピア・サポーター、行政・医療従事者の情報交換・意見交換

所用時間:30分～1時間程度

用意するもの: PC、プロジェクター、レーザーポインター

【学習目標】

- ・ ピアサポート活動における困難の共有と解決、ピア・サポーター同士の相互交流を図る。
- ・ ピア・サポーターと、行政担当者・医療従事者の相互交流の機会とする。

【内容(情報交換・意見交換の例)】

- ・ ピア・サポーター同士による日々の活動・運営方法に関しての意見交換・情報交換をする。
(例)日々の活動についての困りごとについて検討する。
(例)活動後の振り返りシートの書き方について検討する。
- ・ ピア・サポーターと医療従事者で、患者と医療従事者のコミュニケーション方法の意見交換をする。
- ・ ピア・サポーターと行政で、行政に求めることに関する意見交換をする。

【事前準備】

- ・ 何をテーマにするか、運営側で事前に入念な検討をする。

【進め方】

- ・ はじめ 5～10 分程度でオリエンテーション(進め方の確認)を行い、グループ編成の発表、グループに分かれる。
- ・ グループに分かれて 20～30 分程度の情報交換・意見交換を行った後、議論を全体で共有する時間をもつ。

【このセッションでの留意点】

- ・ 人数が多い場合には、あらかじめグループ編成を決めておく。
- ・ ホワイトボード、模造紙、付箋などを利用すると議論が深まる。
- ・ 必要に応じて、記録は残しておく。

【オンラインで実施する際の留意点】

- ・ Word、PowerPoint、メモ帳などを画面共有し、そこに書き込みながら検討を進めると議論が深まる。
あらかじめ書記を決めておく(画面共有、文字入力に慣れている人)。
- ・ WEB 会議ツールの画面共有の権限をあらかじめ確認しておく。

◆ピア・サポーターのストレスマネジメント（講義）

所用時間：15 分～30 分程度

用意するもの：PC、プロジェクター、レーザーポインター

【学習目標】

- ・ ストレスマネジメントに関する講義、リラックス方法などを取り上げ、ピア・サポーターの燃えつきの防止、バウンダリーを守ることにつなげる。

【内 容】

- ・ 一般的なストレスマネジメントに関する講義とする（ストレスとは何か、ストレスとの付き合い方、疲れたときのリラックス方法：呼吸法やストレッチなど）
- ・ ピア・サポーターが困ったときに相談できる環境（同じピアサポート活動を行っている医療者、心理士、精神科医など）についての情報提供ができるとよい。

【事前準備】

- ・ マイク、プロジェクター、音響などのチェックをしておく。

【座 席】

- ・ スクール形式で行う。

【留意点】

- ・ リラックス法の実演については好みがあるので、行うかどうかは事前に運営側で十分に相談しておく。
- ・ 精神科、心理士などのメンタルヘルスの専門家が講義を担当できるとよい。

◆ 模擬サロン基礎

所用時間:60 分～100 分程度

用意するもの: PC、プロジェクター、レーザーポインター

【学習目標】

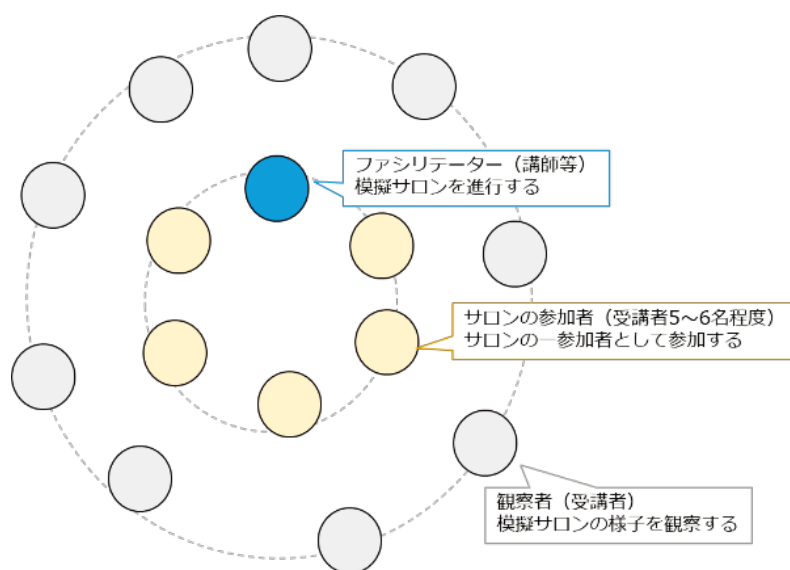
- ・ サロンの流れ(開始～終了まで)や語り合いの雰囲気や様子を知ってもらう。
- ・ サロンでファシリテーターを務める際の留意点などを知る。

【事前準備】

- ・ 模擬サロンでファシリテーター役を務める講師を決めておく。
- ・ 受講者のうち 5～6 名程度に「サロンの参加者役」になってもらう。挙手で参加者を募るか、事前に指名しておくか検討しておく。
- ・ 都道府県や拠点病院等で利用している「サロンのルール」を A4 用紙 1 枚程度にまとめておき、当日模擬サロン参加者に渡せるように準備しておく。

【座 席】

- ・ 部屋前方に椅子 5～6 個を車座に並べる。
- ・ 残りの受講者は、サロンの周りに着席し、やりとりが見やすいところに適宜移動する。



【進め方】

- ・ この講義(ワークショップ)の目的、進め方をオリエンテーションで説明する。(5 分～10 分程度)
- ・ オリエンテーション後、「サロンの参加者役」の受講者 5～6 名に車座の席に出てきてもらう。(挙手、指名など。これまでサロンに参加したことのない人がいれば、「サロンの参加者役」として参加してもらえるとよりよい。)
- ・ 「サロンの参加者役」以外の受講者は、サロンの様子が観察できる位置に移動する。

- ・ ファシリテーター役の講師は、「サロンの開始(挨拶等)」「ルールの確認」「参加者の自己紹介」「相談したい方のテーマを取り上げる」「まとめ・終了の挨拶」といった流れで模擬サロンを進行する(15分～30分程度)。参加者役はサロンの参加者として、ファシリテーター役の進行に沿って自由に発言をしてもらう。可能であれば15分～30分の中で、サロンの一連の流れを完結し、「まとめ・終了の挨拶」まで扱えるとよりよい。
- ・ 残りの受講者は模擬サロンのやりとりの様子を観察者として見学する。
- ・ 模擬サロンの終了後、やりとりの関する解説を行う。
- ・ 必要に応じて、養成研修でも利用する「グループファシリテーションのために」のスライドを用いて講義を行う。
- ・ ◆任意◆
 - 解説後、セッション 2 回目として、受講者のどなたかがファシリテーター・サブファシリテーター役になり、サロンの進行を体験していただく。
 - ファシリテーター・サブファシリテーター役の両方をピア・サポーター(受講者)に担ってもよいし、どちらかを医療者に担ってもよい。各地域の活動の実態にあわせて役柄を設定するとよい。
 - 模擬サロンのあと、ファシリテーター・サブファシリテーター役、参加者役に感想や気づきを話してもらい、講師からのフィードバック等を行う。時間配分等によっては、周りで見えていた受講者からも感想などを述べていただく。

【留意点】

- ・ ピア・サポーター養成研修(基礎研修)の「グループファシリテーションのために(講義)」と併せて扱ってもよい。

【時間配分の例】

時間配分	内容
5～10 分	進め方オリエンテーション
15 分～30 分	模擬サロン①【進行例を見せる】 ☆ 講師がファシリテーター役を務める。 ☆ ファシリテーター役が「サロンの開始」「ルールの確認」「参加者の自己紹介」「相談したい方のテーマを取り上げ、話していただく」その後はファシリテーター役の進行に合わせて参加者役が自由に話していただく。→「終わり(まとめ、閉会の挨拶)」
10 分程度	模擬サロン① 解説 ☆ 講師・ファシリテーター役から気を付けたところ、心がけたことなどを解説する
15 分～30 分	◆任意◆ 模擬サロン②【実際に体験してみる】 ☆ 受講者や医療者に、メインファシリテーター役、サブファシリテーター役を務めてもらう。 ☆ 参加者役(4～5 名)を受講者から募る(挙手、指名) ☆ 「サロンの開始」「ルールの確認」「参加者の自己紹介」「相談したい方のテーマを取り上げる」→(自由に話していただく)→「終わり(まとめ、閉会の挨拶)」 ※時間配分によっては「ルールの確認」を省略しても良い
10 分～20 分	模擬サロン② 解説 ☆ メインファシリテーター役、サブファシリテーター役、参加者役などから対応した感想などを話してもらい、講師からもフィードバックを行う。 ☆ 必要に応じて「グループファシリテーションのために」のスライドを用いながら講義を行う。

【参考】

- ・ ピア・サポーター養成テキスト 2023 年度版 p.49～63
 「V ピア・サポートの活動と実践 ～グループでのピアサポート活動」
 ※ピア・サポーター養成テキスト 2020 年度版にも記載があります。

◆ 模擬サロン応用

所用時間: 60 分～120 分程度

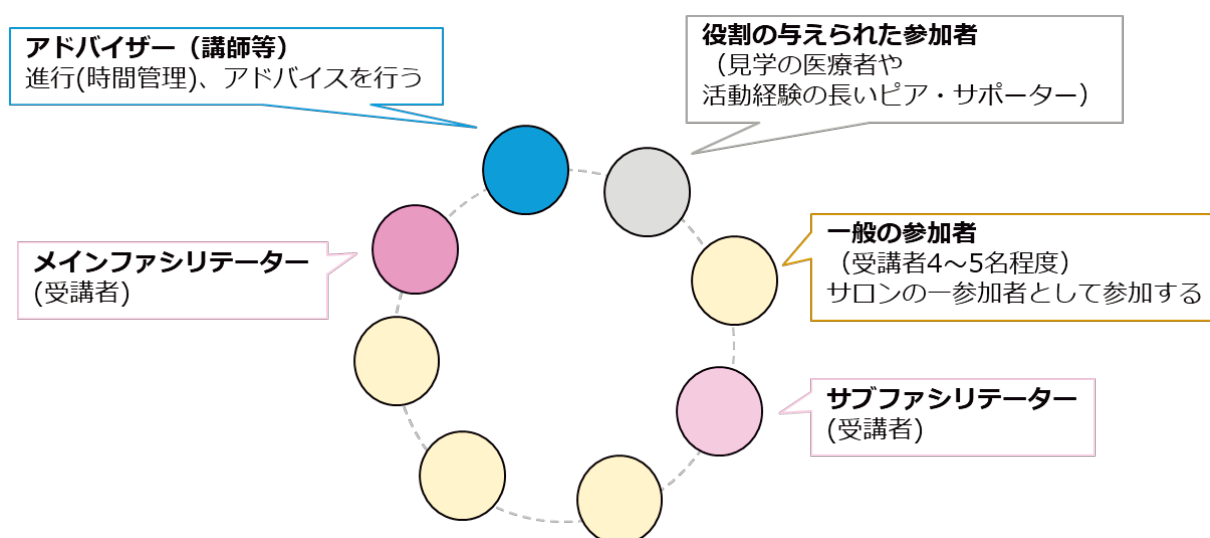
用意するもの: PC、プロジェクター、レーザーポインター

【学習目標】

- ・ がんサロンの「ファシリテーター（司会進行役）」を体験する。
- ・ メインファシリテーター、サブファシリテーターの役割分担について学ぶ。
- ・ がんサロンで対応に悩む場面（例えば、特定の参加者だけが話をする）に対応するためのヒントを得る。
- ・ がんサロンを実際に運営する際の、事前の打ち合わせ・終了後の振り返りを経験し、準備や振り返りの重要性を知る。

【事前準備】

- ・ プログラム、時間配分、受講者数、部屋の大きさなどの状況に合わせて、何セッション取り上げるかを検討する。
- ・ 受講者 6～8 人で 1 グループを組む。あらかじめグループを編成しておくが良い。
- ・ 6～8 名の役割分担は下記の通り。
 - メインファシリテーター: 1 名（受講者）
 - サブファシリテーター: 1 名（受講者）
 - 役割の与えられた参加者: 1 名（見学の医療者や活動経験の長いピア・サポーター）
 - 一般の参加者: 4～5 名（受講者）
 - アドバイザー: 1 名（グループの進行、時間管理等。講師等が務める）
- ・ 役割の名札: 「メインファシリテーター」「サブファシリテーター」を準備する。
- ・ 「役割の与えられた参加者」役には、事前に担っていただく役柄（シナリオ）を説明する。



【座 席】

- ・ 部屋に椅子 8～9 個を車座に並べる。グループの数だけ島を用意する。

【進め方】

- ・ この講義(ワークショップ)の目的、進め方をオリエンテーションで説明する。(5 分～10 分程度)
- ・ オリエンテーション後、グループに分かれ、簡単な自己紹介を行う。
- ・ 1 セッションの進め方:
役作り 1 分 → 模擬サロン 9 分 → グループディスカッション(セッションの振り返り)10 分
- ・ グループディスカッション(セッションの振り返り)10 分の進め方:
「メインファシリテーター役・サブファシリテーター役(ピア・サポーター)」→「役割を持った参加者役」
→「一般の参加者」→「アドバイザー」の順に、感想や意見を一言ずつ述べたあと、全員で話し合いを行う。

【シナリオの例】

- ・ 「役割の与えられた参加者」役には、下記のような参加者役を担っていただく。
 - (1) ずっとしゃべり続ける参加者 (※)
 - (2) 健康食品を強く勧める参加者
 - (3) 治療や病院の良し悪しの話をする参加者
 - (4) 参加者のうち、知り合いの 2 人が別の話題で盛り上がってしまう(「役割の与えられた参加者」が 2 名必要) …など
- ・ 「役割の与えられた参加者」役は、これらのお題に沿って自由に話していただく。詳細な背景や内容は決めていないので、アドリブで構わない。ご自身のこれまでの相談経験などを参考に自由に表現していただく。
- ・ 「シナリオ 例(1)ずっとしゃべり続ける参加者 (※)」に関しては、下記のような背景をイメージしていただくにより効果的である。
 - 治療が一段落している。
 - 話したいテーマ、相談したいことが定まっておらずとめどなく話し続ける。(例えば、がんの診断～治療～現在に至るまでを時系列で話し続ける)
- ・ 「役割の与えられた参加者」役は、活動経験の長いピア・サポーターの方に演じてもらえるとよりよい。
- ・ ピア・サポーター養成テキスト 2023 年度版 p.66～84 「VI がんサロンで起こり得る事例と対応のヒント」に記載のあるような場面を取り上げられるとよい。

【時間配分の例】

時間配分	内容
5～10 分	進め方オリエンテーション ・ 講義形式で、この後のロールプレイの進め方を確認する ・ グループに分かれる ・ セッション 1 のメインファシリテーター、サブファシリテーターを決める
20 分	サロンロールプレイ セッション① (例: ずっとしゃべり続ける参加者) ・ 役作り 1 分 → 模擬サロン 9 分 → グループディスカッション(セッションの振り返り)10 分
20 分	サロンロールプレイ セッション② (例: 健康食品を強く勧める参加者)
10 分	休憩
20 分	サロンロールプレイ セッション③ (例: 治療や病院の良し悪しの話をする参加者)
20 分～30 分	全体共有 各グループでの話し合いの内容、グループで解決できなかった話題などを全体に共有する。

【留意点】

- ・ 受講者 6 人以下でグループを組んでもよいが、少なくなりすぎないようにグループを組めるとよい。(グループの構成人数が 3～4 人になってしまうと、個別相談に近いシチュエーションになってしまうため)
- ・ 病院等のサロンに参加・協力する際、ファシリテーター、サブファシリテーターの役割を担わず、一般の参加者として参加しても、研修を受けたピア・サポーターならではの役割(例えば、ファシリテーターが進行に困っているときに助け舟を出せるなど)があることに気がつけるとよりよい。

【参考】

- ・ ピア・サポーター養成テキスト 2023 年度版 p.66～84
「VI がんサロンで起こり得る事例と対応のヒント」
※ピア・サポーター養成テキスト 2020 年度版にも記載があります。

参 考 ロールプレイ・デモンストレーションのシナリオ

ピア・サポーター養成研修会では、ロールプレイに入る前に講師・スタッフでデモンストレーションを行っています。

進行役 : ピア・サポーター役 :

利用者役 : 観察者役 :

※模擬で行う際は、実際にサロンへ入る時点からロールプレイを開始するとよい。

担当・役	内容・セリフ
進行役	演習開始の促し
利用者役	あの・・・、こちらで相談会をしていると伺ってきたのですが・・・
ピア・サポーター役	ええ、どうぞこちらへお入りください。 こちらの椅子へおかけください。
利用者役	ありがとうございます。
ピア・サポーター役	ピア・サポーターの@@と申します。私自身、@年前にがんを体験した経験者です。本日は宜しくお願いします。 差し支えなければお名前をうかがってもよいですか？
利用者役	@@と言います
ピア・サポーター役	@@さん、はじめまして。どうされたのですか？
利用者役	<暗い表情で> 「2年前に胃がんの手術をしたんです。先週の定期検査の結果を今日聞きにきたら、再発の可能性があるって言われたんです」
ピア・サポーター役	<心配そうに> 「それはびっくりしたでしょう」
利用者役	「そうなんです。先生の話の後ちょっと泣きそうになっちゃって」 「みなさんも、がんの経験者なんですか？」
ピア・サポーター役	「そうですよ。私は〇〇がんをしました。でも、治療がうまくいって、今はとても元気です」
利用者役	<悲しそうに> 「あなたは、治ったんですね。うらやましい・・・」 「再発したらどうしよう・・・」
ピア・サポーター役	<少し慌てた様子で> 「まだ、再発と決まったわけじゃないし・・・」 「あ、でも、泣きたいときは泣いたほうがいいですよ。ここは泣いても大丈夫な場所なんですよ」

利用者役	くちよつと戸惑いながら> 「ありがとうございます…」
進行役	はい、終了です。ピア・サポーター役の〇〇さん、いかがでしたか？
ピア・サポーター役	“なんとか励ましてあげたいな”と思いました。あと、自分は辛いときにサロンで思い切り泣いたら楽になったことを思い出したので、ここは泣いてもよいところだによってことを伝えてあげたいと思いました。
進行役	では、利用者役の〇〇さん、ピア・サポーターさんの対応を受けてどうでしたか？
利用者役	落ち込んでいる私を励ましたいという気持ちは感じました。ただ、泣いてもいいよと言われても、初対面の人の前ではちょっと嫌だなと感じてしまいました。
進行役	観察者役の〇〇さん、どうでしたか？
観察者役	そうですね。力になってあげたいという気持ちは、私にもよく伝わってきました。ただ、「再発と決まったわけじゃないし…」というのは、少し無責任なぐさめかもしれないと感じたので、それは言わなくてよかったように思います。
進行役	ありがとうございます。こんなふうに進めていきます。

参 考 ロールプレイのシナリオ（相談内容）とねらい

ピア・サポーター養成研修会では、下記のシナリオを取り上げて実施しています。

<シナリオ（相談内容）>

利用者役の相談内容。グループの数の分だけプリントしておく。事前配布せず、当日のセッション毎に、進行役（運営）が利用者役の受講生に渡し、利用者役はこの内容に沿って相談を行う。



セッション1 相談内容

- まさか自分ががんになるなんて想像もしていなかったのでショックだった。
- 友達も周りの人もみんな健康なのに、なんで自分だけがこんな病気になっちゃったんだろう。
- これからどうなるんだろうと不安でいっぱい。

※あなたの経験を教えてほしいとピアに尋ねてください



セッション2 相談内容

- がんと診断されて手術か放射線治療と言われた。
- 東京にいる妹が心配して毎日のように電話をくれる。
 - ▶ 妹は、体にメスを入れるのはやめたほうが良いとか、放射線も被爆が心配だと言っている。
 - ▶ 東京で体に優しい免疫療法というのをやっているクリニックがあるから東京に来ないかと言うがどうしたものか。



セッション3 相談内容

- 父が末期のがんと言われた。
- 血圧が高くてずっと病院にかかっていたのに、どうしてももっと早く見つけてくれなかったのかしら・・・
- もう年だから治療はしないと父は言うけれど、私としては何が何でも治ってほしい。どうやって父を説得すれば良いか相談したい

※20秒から30秒くらい、どこかで黙り込んでみてください。



セッション4 相談内容

- 夫が急性の白血病ですぐに治療を始めないといけいと言われて入院した。明日から抗がん剤治療をする予定。
- 担当の先生は、優しい感じだが、年も若くなんだから頼りない。
- セカンドオピニオンを受けたほうが良いと友達に言われたがどうしたものか・・・
- どこか良い病院を知っていたら教えてほしい。

＜シナリオ（相談内容）のねらい＞

＜シナリオ（相談内容）のねらい＞は、講師・運営のみで共有し、研修前の受講者に開示しないように注意する。

「セッション 1 相談内容」のねらい

- ・がんと診断されたばかりで、漠然とした不安を抱えている利用者に対して、どのような寄り添い方ができるか。
- ・サロンやピアサポートのこともよくわからないままなんとなく来てしまったという利用者にじっくり向き合う経験をする。
- ・経験を話してくれと言われたとき、相手の反応を見ながら自分の体験を話せるとよい。
- ・長々と自分の体験を話してしまわないよう注意して話す。

「セッション 2 相談内容」のねらい

- ・治療選択に迷っている利用者に対してピアとしてどのような寄り添い方ができるか。
- ・医療介入にならないようなアドバイスや経験を伝えることができるとよい（自分はどうやって治療を決めたか）。
- ・妹さんの治療に対する考えや免疫療法のクリニックなど、ピアとしては「ダメ」と言いたくなる内容の相談にどうこたえるか。
- ・推奨は NG だが、妹さんの気持ちはよくわかると言ってあげたい。

「セッション 3 相談内容」のねらい

- ・娘（息子）からの相談。家族の気持ちや思いにどう寄り添うことができるか。
- ・近医に対する不満に同調はせず、気持ちはわかると言えるか。
- ・なんとか父親を説得したいという家族に、治療は厳しく辛いことを知っている、緩和ケアの重要性も知っているというピアの立場でどのような話ができるか。
- ・沈黙に対してどう対応したか振り返る。

「セッション 4 相談内容」のねらい

- ・配偶者からの相談。あえて血液がんを取り上げたシナリオ。
- ・あまりにも急な展開で、家族も戸惑っていることを理解した上で、慎重な対話を進めていけるとよい。
- ・血液がんの場合は、時間単位、日単位で病状が推移していくことがあると知らず、「すぐに治療開始とは考えられない、セカンドオピニオンでじっくり治療を選択するのがふつう」など、固形がんの治療の時間軸での不用意なアドバイスをしないよう注意が必要。
- ・このシナリオで血液がんを取り上げた背景について、進行役または、ファシリテーターのうちの医療者から簡単な解説をしてもらうとよい。

(2) がんサポートグループ企画運営者のための研修会(2024年10月19日)フライヤー

令和6年度 厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がんサポートグループ 企画運営者の ための研修会

令和6年度第1回

参加費
無料

『がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針』では、がん相談支援センターに「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けること」が必須とされ、各施設で取り組みが進められています。医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループや患者サロンの定期的な開催、患者会活動に対する支援、あるいはピアサポーターが中心となり運営されるプログラムなど、すでに様々な取り組みが行われています。

本研修は、がんに関連するサポートグループを運営するための基本的な知識や技術を、講義や動画・ロールプレイを通して実践的に学習します。またグループワークでは、各施設のサポートグループの課題を共有し、解決策を検討します。がん患者と家族が自分らしく暮らせるための効果的なサポートグループの企画・運営をめざしましょう。

開催日 2024年10月19日(土) 10:00～17:00

開催方法 ハイブリッド開催 会場：TKP金沢新幹線口会議室
(石川県金沢市 JR金沢駅 徒歩2分)
WEB：Zoom Meetingを使用

対象 がん診療連携拠点病院等でがん相談支援に携わる医療者
看護師、MSW、心理職、医師、薬剤師等
※1日を通して参加できる方および事前・事後のアンケートを提出できる方

**お申込み
方法** WEB上でお申込みください。
<https://ws.formzu.net/dist/S95250514/>
申込締切：2024年9月1日(日)17:00

お申込み・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

TEL:04-7134-6986 ✉ : info@peer-spt.org HP : <https://www.peer-spt.org/>

令和6年度 厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業
がんサポートグループ企画運営者のための研修会（令和6年度第1回）

研修前～当日までのプログラム

評価編 (研修前 9/13-9/29)	自施設の取り組みの振り返りのアンケート (受講者について、自施設のサポートグループについて、 自施設のサポートグループの評価、評価の感想)	
講義編 (10/19(土)10～12時)	- がん患者の心理社会的支援 - がんサポートグループとは - がんサポートグループの方法：形態や目的 - ファシリテーションの基本スキル - 多様なニーズへの対応（起こり得る事例） - 動画で学ぶピアサポーターとの協働	 サポートグループの運営にスタッフとして協力する ↑動画で学ぶ ピア・サポーターとの協働
実践編 (10/19(土)13～17時)	- 基本的なコミュニケーションスキル - 動画で学ぶファシリテーションの実際 - ロールプレイ(ファシリテーター体験) - 企画・運営に関するグループワーク	
終了後アンケート (研修後 10/19-11/1)	振り返りのアンケート	 他の参加者にふる ↑動画で学ぶファシリテーションの実際

※修了証を全員に発行いたします。なお、①事前評価(自施設の取り組み振り返りのアンケート)の提出、②会場/ZOOMの出席・視聴記録で当日の出席③終了後のアンケートの3点が確認できた方に限ります。

留意点・お願い

◆留意点

- 応募者多数の場合は選考を行います。結果を申込時のメールアドレス宛に選考結果を連絡しますので @east.ncc.go.jp からのメールが受け取れるように設定をお願いします。

◆WEB参加の方へのお願い

- 研修会当日、ご自身でインターネット・ZOOMにお繋ぎください。接続に関するサポートは行いませんので予めご了承ください。当日は多くの受講者が見込まれますので、余裕をもってご入室をお願いいたします。
- 同一施設から複数人で申し込まれた場合、1人ずつの申込、当日は1人1端末での参加をお願いいたします。
- 研修当日は、安定したネットワーク環境で受講してください。周囲の騒音が気になる環境下で受講せざるを得ない場合は、イヤホンやヘッドセットの着用をお願いいたします。徒歩あるいは電車や自動車などで屋外を移動しながら受講することはお控えください。

次回予告 令和6年度第2回の「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」は
2025年2月11日(火・祝) ハイブリッド開催（現地会場：東京都内）
お申し込み期間は2024年12月上旬～2025年1月上旬を予定しています。

(3) がんサポートグループ企画運営者のための研修会(2025年2月11日)フライヤー

令和6年度 厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がんサポートグループ 企画運営者の ための研修会

令和6年度第2回

参加費
無料

『がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針』では、がん相談支援センターに「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けること」が必須とされ、各施設で取り組みが進められています。医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループや患者サロンの定期的な開催、患者会活動に対する支援、あるいはピアサポーターが中心となり運営されるプログラムなど、すでに様々な取り組みが行われています。

本研修は、がんに関連するサポートグループを運営するための基本的な知識や技術を、講義や動画・ロールプレイを通して実践的に学習します。またグループワークでは、各施設のサポートグループの課題を共有し、解決策を検討します。がん患者と家族が自分らしく暮らせるための効果的なサポートグループの企画・運営をめざしましょう。

開催日

2025年2月11日 (火・祝) 10:00～17:00

開催方法

ハイブリッド開催 会場：AP東京八重洲(JR東京駅 徒歩6分)
WEB：Zoom Meetingを使用

対象

がん診療連携拠点病院等でがん相談支援に携わる医療者

看護師、MSW、心理職、医師、薬剤師等

※1日を通して参加できる方および事前・事後のアンケートを提出できる方

**お申込み
方法**

WEB上でお申込みください。

<https://ws.formzu.net/dist/S37962194/>

申込締切：2025年1月5日(日)17:00



お申込み・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

TEL:04-7134-6986 ✉ : info@peer-spt.org HP : <https://www.peer-spt.org/>

令和6年度 厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業 がんサポートグループ企画運営者のための研修会（令和6年度第2回）

研修前～当日までのプログラム

評価編 (研修前 1/15-1/27)	自施設の取り組みの振り返りのアンケート (受講者について、自施設のサポートグループについて、自施設のサポートグループの評価、評価の感想)	 サポートグループの運営にスタッフとして協力する
講義編 (2/11 10～12時)	- がん患者の心理社会的支援 - がんサポートグループとは - がんサポートグループの方法：形態や目的 - ファシリテーションの基本スキル - 多様なニーズへの対応（起こり得る事例） - 動画で学ぶピアサポーターとの協働	 ↑動画で学ぶ ピア・サポーターとの協働
実践編 (2/11 13～17時)	- 基本的なコミュニケーションスキル - 動画で学ぶファシリテーションの実際 - ロールプレイ(ファシリテーター体験) - 企画・運営に関するグループワーク	 ↑動画で学ぶファシリテーションの実際
終了後アンケート (研修後 2/11-2/24)	振り返りのアンケート	

※修了証を全員に発行いたします。なお、①事前評価(自施設の取り組み振り返りのアンケート)の提出、②会場/ZOOMの出席・視聴記録で当日の出席③終了後のアンケートの3点が確認できた方に限ります。

留意点・お願い

◆留意点

- 応募者多数の場合は選考を行います。結果を申込時のメールアドレス宛に選考結果を連絡しますので @east.ncc.go.jp からのメールが受け取れるように設定をお願いします。

◆WEB参加の方へのお願い

- 研修会当日、ご自身でインターネット・ZOOMにお繋ぎください。接続に関するサポートは行いませんので予めご了承ください。当日は多くの受講者が見込まれますので、余裕をもってご入室をお願いいたします。
- 同一施設から複数人で申し込まれた場合、1人ずつの申込、当日は1人1端末での参加をお願いいたします。
- 研修当日は、安定したネットワーク環境で受講してください。周囲の騒音が気になる環境下で受講せざるを得ない場合は、イヤホンやヘッドセットの着用をお願いいたします。徒歩あるいは電車や自動車などで屋外を移動しながら受講することはお控えください。

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

TEL:04-7134-6986 ✉ : info@peer-spt.org HP : <https://www.peer-spt.org/>

(4) がんサポートグループ企画運営者のためのフォローアップ研修会(2024年11月16日)フライヤー

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会 修了者向け

がんサポートグループ企画・運営者のための フォローアップ 研修会

参加費
無料

日時

2024年11月16日(土) 13:00～17:00

開催
方法

ハイブリッド開催

現地参加:アーバンネット神田カンファレンス
WEB参加:Zoomミーティングを使用

定員

50名(予定)

対象

2020(R2)～2023(R5)年度に7回開催された
がんサポートグループ企画・運営者のための研修会の修了者

研修
内容
(予定)

- 事例検討(グループワーク)
- 好事例紹介・情報交換
～みんなどうしてる?～
ピアサポーターとの協働:ピアサポーターも交えた情報交換～

申込
方法

WEBからお申込みください。

URL <https://ws.formzu.net/dist/S2709457/>
申込期間 2024年11月4日(月・祝) 17:00



お申し込み・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel 04 - 7134 - 6986
URL <http://www.peer-spt.org/>
Mail info@peer-spt.org

がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会

当日のプログラム(予定) 13:00～17:00

01

事例検討

サポートグループのある一場面を事例に、ファシリテーションの方法などについてグループワーク・講義を行います。



02

好事例紹介・情報交換

みんなどうしてる？
ピアサポーターとの協働：
ピアサポーターも交えた情報交換

研修後の自施設の取り組みや困りごと、ピア・サポーターとの協働などに関して情報交換の時間を設けます。
また、がん診療連携拠点病院等で実際に活動するピア・サポーターから活動事例の紹介や、ピア・サポーターも交えたグループワーク、情報交換の時間を設ける予定です。

留意事項

- 応募者多数の場合は選考を行います。結果を申込時のメールアドレス宛に選考結果を連絡しますので@east.ncc.go.jpからのメールが受け取れるように設定をお願いします。
- 修了証を全員に発行いたします（研修会会場への来場・Zoomの視聴記録から、出席が確認できた方に限ります）。

WEBでご参加いただくにあたり

- 研修会当日、ご自身でインターネット・Zoomにお繋ぎください。接続に関するサポートは行いませんので予めご了承ください。
- インターネットの接続環境が安定した状態で参加されることを推奨します。

現地会場のご案内

- アーバンネット神田カンファレンス
- 最寄駅；JR神田駅 西口（徒歩1分）、東京メトロ神田駅 1番出口（徒歩2分）
- 〒101-0047 東京都千代田区内神田3-6-2 アーバンネット神田ビル 2F・3F
- アクセス：<https://kanda-c.jp/#Access>

お申し込み・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel 04 - 7134 - 6986
URL <http://www.peer-spt.org/>
Mail info@peer-spt.org

IX. 委員会名簿

(1) 改訂委員会 ◎は委員長（以下 50 音順）

氏 名	所属・役職
◎小川 朝生	国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍科 科長
天野 慎介	一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン 理事長
佐々木 治一郎	北里大学病院 集学的がん診療センター センター長
松本 陽子	NPO 法人 愛媛がんサポートおれんじの会 理事長
若尾 文彦	国立がん研究センター がん対策情報センター本部 副本部長
渡邊 眞理	湘南医療大学 保健医療学部 看護学科 教授

(2) ピア・サポート養成研修ワーキンググループ ●は WG 委員長（以下 50 音順）、*は兼任

氏 名	所属・役職
●秋月 伸哉	がん・感染症センター 東京都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック 部長
倉田 明子	広島大学病院 精神科 診療講師
齋藤 円*	市立ひらかた病院 精神科 部長
桜井 なおみ	一般社団法人 CSR プロジェクト 代表理事
野田 真由美	NPO 法人 支えあう会 「α」 副理事長
吉田 稔*	日本赤十字社熊本健康管理センター 所長

(3) 短期サポートグループワーキンググループ ●は WG 委員長（以下 50 音順）、*は兼任

氏 名	所属・役職
●平井 啓	大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授
市原 香織	淀川キリスト教病院 がん看護専門看護師
齋藤 円*	市立ひらかた病院 精神科 部長
松向寺 真彩子	市立豊中病院 公認心理師、臨床心理士
福井 里美	東京都立大学 人間健康科学研究科 看護科学域 准教授 認定NPO 法人 がんサポートコミュニティ
古谷 浩	精巣腫瘍患者友の会 J-TAG 共同代表
山田 麻記子	東京科学大学病院 がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー
吉田 稔*	日本赤十字社熊本健康管理センター 所長

(4) ピア・サポート養成研修ワーキンググループ 協力メンバー(50 音順)

氏 名	所属・役職
相田 貴子	洛和会音羽病院 がん相談センター
石野田 神	株式会社ルネサンス アクティブエイジング部 がんリハビリ事業研究チーム課長
井谷 嘉男	宇治徳洲会病院 緩和ケア内科
梅田 佳枝	稲沢市民病院 がん相談支援センター 臨床心理士・公認心理師
笠原 庸子	秋本クリニック 地域連携室 室長
川端 悠子	谷野メディカルアソシエイツ・患者さんと家族のためのメンタルケア
菊田 恵義	いわき市医療センター 精神神経科・緩和ケア科 主任部長
河野 裕太	公立阿伎留医療センター 緩和治療科 部長
酒見 惇子	神戸大学医学部附属病院 がん相談室/緩和ケアチーム 臨床心理士
錫谷 研	福島県立医大 会津医療センター精神医学講座 助手
田口 真由美	大阪大学医学部附属病院 患者包括サポートセンター
平崎 典子	行橋厚生病院/福岡県総務部総務事務厚生課健康管理班職員相談室
宮澤 萌衣	公立西知多総合病院 患者サポートセンター 臨床心理士
八木 智子	横浜労災病院 地域医療連携室ピンクリボン相談 ピア・サポーター
柳原 恵梨	特定医療法人谷田会 谷田病院
矢野 和美	一宮研伸大学大学院 看護学分野 がん看護専門看護師
山田 純子	神戸市立西神戸医療センター リハビリテーション技術部 心理士
山本 亮	佐久総合病院佐久医療センター 緩和ケア内科部長

令和6年度 厚生労働省委託事業

がん総合相談に携わる者に対する研修事業 事業報告書

〔発行〕 2025年3月25日

〔発行元〕 一般社団法人日本サイコオンコロジー学会

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業 事務局

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立研究開発法人 国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍科内

TEL：04-7134-6986 FAX：04-7134-7026

〔製作者〕 株式会社 青海社

〔DTP/印刷〕 株式会社 アイワード
